

6554 15.4.1

緑丘

1967 No. 56

奇数月発行



壺
菅谷重平

小樽商大
同窓会誌

SINCE 1876

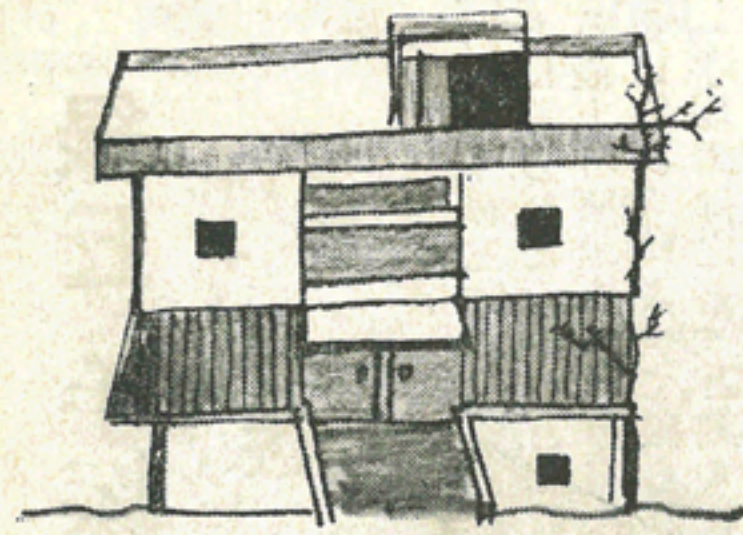


結論が出ました— 「★サッポロビールは 最初のうまさが続く」

●雑味・雑臭がないから うまさが続く

ビールの味の総仕上げは濾過の工程が受けもちます。サッポロビールは独自の方法で雑味・雑臭を完全に除去、味の純度がずば抜けて高いのです。

何杯飲んでも最初のうまさが続く——サッポロビールだけの秘訣です。



学生会館 (総会会場)

社団法人緑丘会第二七回通常総会は去る六月十日午後三時半から母校学生会館で開催された。

社団法人緑丘会第二七回総会開く

六月十日午後三時半 母校学生会館にて

中堅若手の奮起を望む

に入る。中堅若手の奮起を望むと。佐々木理事長が議長となり、議案の審議に入り、事業会計の報告と決算、予算など審議され満場一致で可決された。

次期総会開催地の件は理事長一任となる。引き続き同会館で懇親会に入る。当日集った会員は道外からは大阪支部長石田氏など十七名、札幌から五十五名、地元小樽から五十名、また母校教官十五名を加え約百四十名であった。

緑 丘

全 国 版

(通巻)No. 56号 (42年度 2号)

(編集責任者)

大阪市東区道修町3の12 塩野義製薬株式会社内 藝 目 英 三

(緑丘会大阪支部)

大阪市北区梅田八番地 新 阪 急 ビ ル 8 階 内 サ ッ ポ ロ ビ ル (株)

から夫々スピーチあり、石田氏は特に「緑丘編集」の苦心及びその内容を讃え、熱心なPRと勧誘の挨拶をされた。

総 会 点 描

青空編集同人 小田島 思 遠 (昭一)

息切れか 懐古の情か 立ちどまり

立ちどまりして 地獄坂のぼる人

地獄坂のぼれば並木の 葉の青さ

昔ながらに さやめきてあり

総会に 誘われて来し 校庭の

芝の緑は 今も変わらず

久し振り 逢ひし旧友 それぞれに

昔の片鱗 面に残れり

先生も 生徒も年は 似かよって

何れかわからぬ 祝宴のなか

語ること たわいもなく パーティーの

卓に向いし 旧友の若やぎ

卒業後 三十年振りに 地獄坂

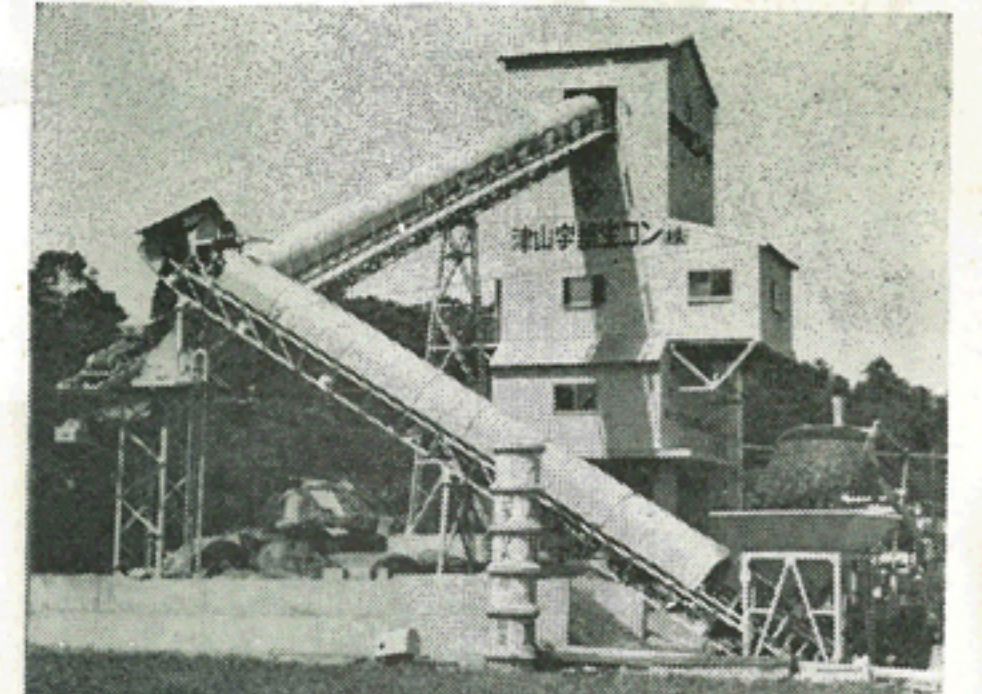
登りし旧友も あってなつかし

江猛氏から閉会の辞を。室谷名誉教授の発声で緑丘会の地元猪股氏の音頭で小樽商大の万才を夫々三唱、校歌を高唱して五時半散会した。

KYCの土木建設機械



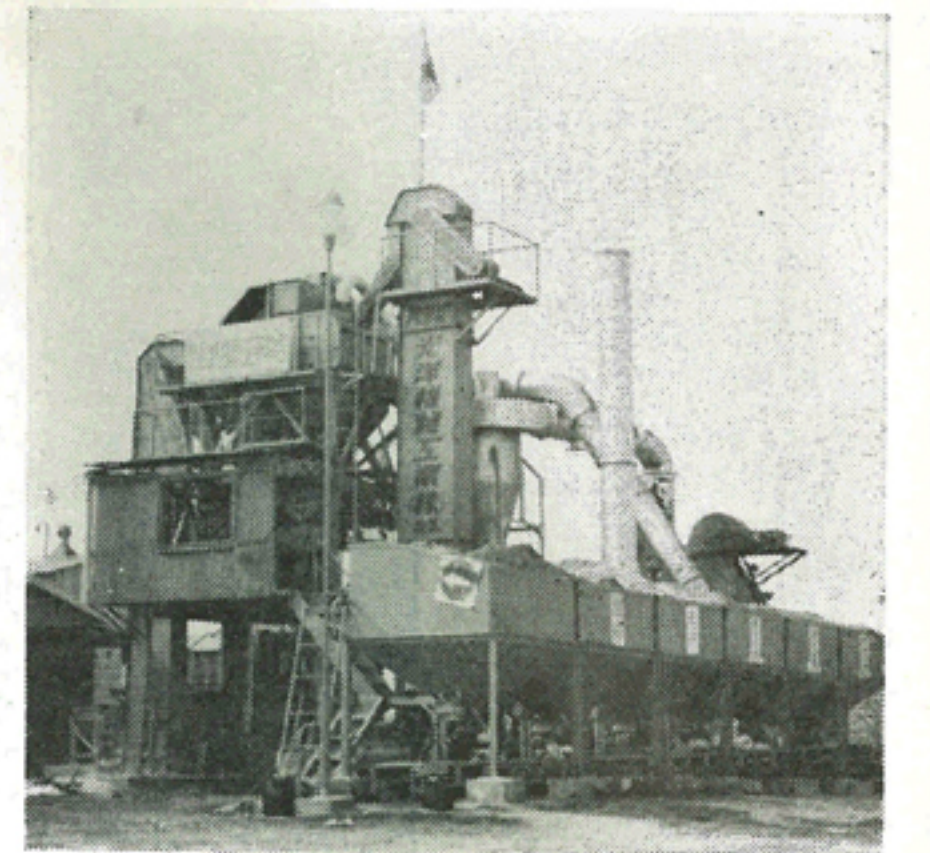
KYC碎石プラント (100T/H)



KYCコンクリートプラント (20³T/H)



本社KYCビル



KYCアスファルトプラント30T/H

一 製造品目一 砕石プラント/コンクリートミキサー コンクリートプラント/バックチャスケール アスファルトプラント/ベルトコンベヤー クラッシャー

総合建設機械のトップメーカー

KYC光洋 機械工業株式会社

代表取締役社長 奥村正美

本 社 大阪市北区南同心町1丁目31番地 Tel 大阪 (358) 3521 (代表)

事 業 所 大阪・東京・札幌・仙台・名古屋・高松・広島・福岡・鹿児島

「緑丘」手塚寿郎先生特集号

墓前に捧ぐ

五月三日午後三時、残雪と新緑の木立ちに彩られた天狗山と真近に相対する最上町墓地の深い静寂は、時々明るい笑ひ声によって破られていた。「手塚寿郎之墓」と刻まれたギリシヤ式神殿の柱を思はせる花崗岩の墓碑の前に、此の日―先生の二十四年目のご命日を卜して、はるばる空路大阪より墓目緑丘編集長自ら持参した「緑丘・手塚寿郎先生特集号」が分厚く供えられ、神式による拍

手で深々と頭を下げると、期せずして参列者一同の胸に哀歎交々の感慨が流れる。昭和二十三年―先生の五年祭を期して結成された手塚記念会は、幾多緑丘内外の有志、教え子の熱意により、遺されたお家族を中心に、墓碑建設、遺稿ワルラス研究下巻刊行、記念講演会等の事業を続け、奥様の逝去、お子様方の成人と共に、その活動を停止していたが、図らずも

この特集号により、学者として、教師として、そしてよき一人の家庭人としての先生の在りし日の面影が、再びまざまざと脳裡に浮び出てくる。「きびしい真理への探究、温い教え子への愛情、この手塚先生の二つの面こそ同時にわが緑丘学園の伝統ではないだろうか。これをうけ継いで次代へ発展させるのが私の責務である。本日の集りは私に大きな勇気を与えてくれた。墓目君の労苦に感謝すると共に、全学生にこの特集号を読ませたい」と実方学長が所感を述べられ、銘々記念号を手にして頁を開けば、松尾先生、木田橋さんを中心に新たな想ひ出話に花が咲く。何時も元気な顔を見せる林健三(昭一)越崎清二(昭一一)両氏の姿が

見えないのが淋しい。

墓前に供えた神酒を汲み交し神人一如の境地に時の移るのも忘れる頃、遙か毛無の山々は急速な春の夕もやで茜色に包まれて行くのであった。

出席者

大学側：実方学長、松尾・麻田両教授、木田橋元図書館主事

緑丘会：越崎宗一(六一)新谷幹事長(昭一六)墓目、小林(啓)

高山、武内、小田島、惣万、高橋(宏)国安、本間(以上昭一一年卒)花房(昭一六)以上十六名

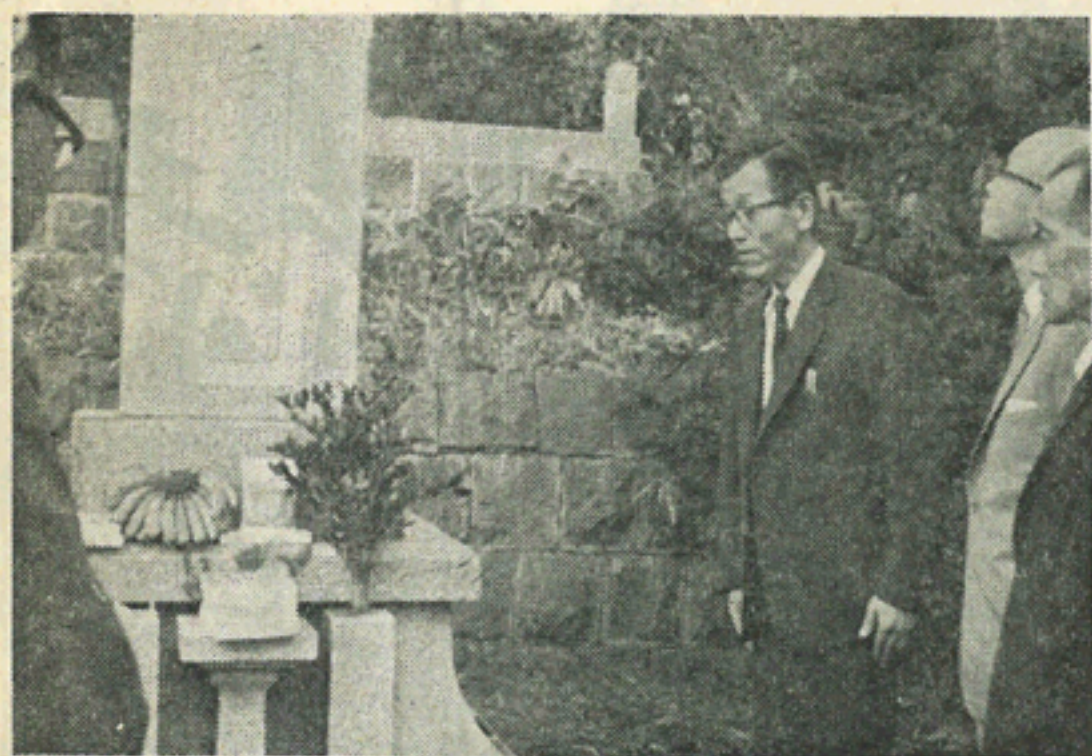
(本間記)

手塚教授の墓前に捧ぐ

神式の墓碑は若葉にかこまれて、教え子集ふ今日の命日。未だ風寒き五月三日に、木もれ陽はあやにかざらひ風わたる。最上の丘に眠る師の君の海見える丘に眠る師の君のおくつき訪ふ風も和めり。師の墓に特集号を捧ぐべく、はるばると来し旧友の童顔、柵葉を墓に捧げて思ひ出を語る一人に学長もあつて、師の君を偲ぶ話のつきぬま、黄昏れ近き坂を下りぬ。



(小田島思遠)



④ 墓前で実方学長の挨拶
⑤ 献本の墓目編集長
⑥ 手塚寿郎先生特集号に見入る参拝者

の五名。林健三氏の紹介によって、後輩が初対面に或は幾年振りに挨拶を交わして座談に入る。

先づ林氏より司会の挨拶あり。これ迄の経過、同氏在上海当時の先生のご勤静、編集部大先輩の甲斐社長、の紹介等を述べられる。何時の間にか準備せられてあつたサツポロピールの満をぬき、事務局鈴木さんのサーピスを受けてノドをうるほしながら小樽の生んだ至宝手塚先生の回想談に夫々の熱気が加わる。甲斐氏はおだやかな口調で、この度の特集号に執筆を辞退された理由として手塚先生はわれわれが気易く筆を執るような対象の先生とは余りにもかけ離れていてということ、またそれだけに小樽と云うよりは日本の学者としてユニークな存在であつただけに先生のご労作で、これ迄に発表せられなかつたものを出来得る限り、これから後の者のために残す方途をとる

ことが今後の課題である旨を指適される。

続いて加藤氏終戦直後、神戸訪問の際、本間喜一先生ご保管のワルラス下巻の訳本原稿を受領の経緯を説明の後、この際先生ご存命中にかゝる一切の事項は細大洩らさず残す処なく先輩諸氏は後輩に申し伝うべき義務ありと考える旨の提言あり、林氏より先生の学位論文と目される『主観価値学説史』及び先生の手がけられた社会科学年表共に出版のメドがついたこと、岩波文庫版ご絶版となつた先生の『ワルラス純粋経済学要論』は上下巻共各々三千元が神田の相場なる由の情報提供あり。寿一郎氏より先生ご逝去当時の模様、更にご生存中のイメージ等所懐を述べられ、更にゼミ関係伏見氏より先生の回想談等談に春宵の時の過ぐるをも忘れ午後九時散会。

(越崎記)

「手塚寿郎先生の追憶」申込について

「緑丘」創刊十周年記念として去る五月三日手塚寿郎先生特集号を発売しましたが大変好評をいただいております。特集号で予告しましたが、今回「手塚寿郎先生の追憶」として追加原稿を加え、単行本を二〇〇部限定出版し希望者にお預りし度いと存じます。七月末現在申込一〇〇部を越えました。またとない機会に御座います。今後追加出版はあり得ません。部数に制限がありますので先着順で切らせていただきます。何卒ご希望の向きは申込書に冊数、送付先、氏名を記入の上ご投函下さい。

B6判二七〇頁 函入 上製本 八〇〇円(送料共)

緑丘編集部

特集号出版を祝って(京東)

手塚会開催

(25年祭で命日の前夜)

於 緑丘会東京事務所

S.42.5.2



待望の特集号が大阪から速達便で到着の五月二日夕六時在京の手塚会メンバーが銀座の緑丘会事務所に参加、手塚寿一郎氏(日本生命在勤・昭三四卒)を招いてさゝやかながら出版を祝う会合を催した。想えば先生逝かれて早二十五年、最上町の墓碑建設し、手塚会発足当時よりも既に十数星霜、更に令夫人ご他界後幾歳を経過したことであろうか等を思い併せて感無量である。此度緑丘編集部のご厚意と献身のご尽力によって先生のご命日に特集号の出版が叶い、小樽に於ては墓前に献本式を、東京に於ては寿一郎氏を囲んで手塚会開催の運びとなつたことは感謝と共に喜びに堪えない。

当日の出席者は

- 昭3 甲斐啓一郎 (永啓社社長)
- 昭10 林 健三 (日本航空)
- ゼミナール
- 昭10 伏見 滋夫 (七洋設備)
- 昭11 越崎 清二 (万紀屋)
- 昭16 加藤 達二 (三菱商事)

- 甲斐 啓一郎 (右より)
- 手塚 寿一郎
- 林 健三
- 加藤 達二
- 伏見 滋夫
- 越崎 清二

於 緑丘会東京事務所

(四二・五・二)



緑丘手塚寿郎先生 特集号を読んで

(到着順)

5月18日北海タイムスに紹介された
手塚寿先生特集号



中山 伊知郎
昨日は手塚特集号をわざわざ御届
けいただきありがとうございます。御
皆さんの追憶記を拝見して、戦争と
いう魔物の恐ろしさを今更に感じま
す。(一橋大学名誉教授)

本間 喜一
手塚先生特集記念号を送り下され
有難御礼申し上げます。大変立派なも
のが出来上がったことは手塚先生の御
遺徳とは思いますが又学兄各位の御
尽力の結果と存じます。緑丘手塚師
弟の情をしのばれ羨しく存じます。
(一橋大学名誉教授)

菅谷 重平
「手塚寿郎先生特集号」非常な感
動と感激をもって一気に読了しまし
た。執筆者の筆がいづれも生き生き
としています。故人が各人に与えた
影響がどの位大きかったかを示すも
のでしよう。(大九)

加茂 儀一
今度「緑丘」手塚先生記念号大変
立派に出来、慶祝に堪えません。御
努力のほど敬服と感謝の至りです。
将来手塚研究の重要な文献となりま
しょう。右御礼まで。
(前小樽商大学長)

椎名 幾三郎
手塚先生記念号まことに有難くう
れしく拝読しました。立派な出来栄
えて感服しました。お骨折を多謝し
ています。またわざわざ遠路お墓に
詣られましたよし地下の先生も喜ん
だことでしょう。(元母校教授)

緑丘人必読必備の文献

西川 正 巳

墓目さんの苦勞が実を結んで、こ
の見事な出来はえの「手塚先生特集
号」が出版された。堂々百有余頁、
至るところに手塚さんの種々各様の
御姿が躍動しているばかりでなく、
又緑丘の各時代、各様相の進展の跡
が様々な人々の口を通して語られる
のは実に何とも云えない壯観であ
る。これ一篇の生きた緑丘史とも云
える。この意味で本誌は緑丘人たる
もの全員の必読必備の大切な文献だ
と思う。而も至るところに滲み出て
いる手塚さんの温かい人間味と学問
研究への執念は読む人に生きる喜び
と希望を物語っていてくれるように
思う。

手塚さんを先生として仰ぎ見る日
のなかつた僕達にも緑丘人と云う血
のつながりを感じさせられる力強い
ものがあつて矢張り「吾等が手塚先
生」と叫び出したい気持がする。当
時の緑丘にこんな立派な学者であり
教育者である先輩がいられたと云う
ことは想起して大きな誇りを感じさ
せられる。寄稿せられた諸先生の筆
のあと、またそれぞれの諸先生の御
人柄や学問がそのままに文に表現せ
られていて懐かしい文章ばかりであ
る。一言一句かみしめて読ませて頂
いています。何処でもくり返して座
右に置いて味読したい。本当に立派
な見事なこの特集号を霊前に供えら
れた先生も地下で定めし御喜びであ
らう。墓目さん本当によい記念碑を
打ち立てて下さいました。「手塚先
生の追憶」限定版が又見事な装いで

出版されることを鶴首して待つてい
ます。
追記
九八頁に木田橋さんの写真を見出
して本当に嬉しく思いました。僕
等の在学中、ニコニコして貸出し
の本を手渡して下さったときの若
き日の木田橋さんの面影がこの写
真にハッキリ見られて何だか直接
御目にかかったような嬉しさを感
じました。僕はいつも講義の穴埋
めに漢字を探すために殆んど毎日
和英辞典を借出していたのですが
終いにはこちらから何も云わない
でも直ぐ手近い書棚から和英辞典
を取って渡してくれました。あの
懐かしい少年(?)の面影がこの写
真からそのまま感じとられるので
す。本当に懐かしい写真です。卒業
以来一度も御挨拶しない木田橋さ
んに改めて深甚の謝意を表し御多
幸を祈り上げます。(六一五)

手塚文庫に憶う

萩野 一山

手塚寿郎先生特集号有難く拝見し
ました。
手塚フミ様の御殿父山内重次郎氏
も板谷宮吉氏も共に正法寺の檀家と
して昵懇に願っていました。手塚先
生逝去後苦米地校長と板谷氏との再
三の交渉により板谷宮吉氏が買取り
これを小樽高商へ寄贈することにき
まつたようです。龍大な貴重な本が
散逸することなく手塚文庫として小
樽商大の誇りとなつておりますのは
全く板谷宮吉氏ならびに苦米地英俊
先生の学界へのご貢献によるもので

ご功績は永久に伝えられるものと存
じます。

集録のうまさ

宮地 邦介

御美事な手塚先生記念号が私を待
つて呉れていました。早速拝読を
始めましたが佐々木理事長の名文に
始まり「高商時代の手塚先生」はじ
め夫々項を分けて集録せられた御手
並にひたすら感心いたしました。し
かも各方面の方々、殊に知名の諸先
生方の御寄稿により、日本的記念号
と申し上げても過賞ではありますま
い。本当に御苦勞でした。地下の手
塚先生もさぞかしお喜び下さってい
ることでしょう。(六一)

逝去を惜しむ

渡辺 龍策

待望の「手塚先生特集号」本日入
手。実に立派なできばえで、お骨折
りの段、感謝の極みです。読みきた
るほどに、故人のおもかげがよみが
えり、その逝去が惜しまれてなりま
せん。右取敢えず御報告旁御礼ま
で。

立派な編集

佐々木 成彰

緑目にしみ風薫る候と相成りま
した。相変らず御活躍の趣誠に御苦
勞様とともに有難く存じます。
「手塚先生特集号」いただきまし
た。立派な御編集恐れ入りました。
御力尽しに感謝申し上げます。それ
についても私の拙文、のせて頂き申訳

ございませぬ。恥入っています。
(昭一一)

鮮明に復活する映像

神沢 重治

「緑丘」手塚教授特集号、正に拝
受、早速緑陰に椅子をよせ一気に通
読致しました。大正十一年に緑丘を
下りてから四十五年、遂に拝芝の機
会もなく幾分記憶も薄らいできた先
生の映像が俄かに鮮明に復活して来
て深い感銘に打たれました。数理經
済学界の巨星であつたと共に人間と
しても立派な人であつたことを再認
識し欽仰の念に堪えません。御多
謝の中をかくまで多数の各方面から資
料を集め完璧の追憶号を上梓して下
さいました大兄の御苦勞に深く御礼
申し上げます。(六一)

何が彼をそうさせたか

菅野 祐治

緑丘が生み、緑丘が育てた生粋の
緑丘人手塚寿郎が何故小樽を飛び出
して上海に渡り早逝するに至ったか
は、従来我々緑丘人には永遠に解け
ぬ謎だった。それをはつきり解きあ
かして呉れたものが此の手塚寿郎先
生特集号である。

要するにそれは時勢であつた。彼
を上海に走らせ、死に迄追ひ立てた
ものは学校当局でもなければ「総べ
ては一緒に上海迄ついて行かなかつ
た私の責任です」と自分を責めて居
られる教授夫人でもないのである。
手塚さんは単なる数理経済学者に
止まらず、しんの通つたりベラリス

トであつた。しかも余りにも後輩思
ひの人情家だつた。これがいけな
かつたのである。学生運動で教授会が
或る生徒を退学処分にしても其の儘
見過ごす事が出来なかつた。緑丘に
在る限り手塚さんには単なる生徒と
云ふものが有り得なかつた。一切が
愛する後輩でしかなかった。緑丘新
聞の編集に関しても内心は生徒以上
に忿懣に堪えないものがあつたが、
手塚先輩は一切それを洩らされな
かつたらしい。

同じ時代に一つ樞の大塚金之助教
授も官憲の圧迫で手も足も出なかつ
た。講演も執筆も出来なかつた。そ
れで教授は一切の忿懣を其の教室に
於ける講義の中に洩らした。それで
教授の講義は熱気を帯び、聴講生は
室外に溢れた。しかし手塚教授はそ
んな事はしなかつた。そして自分が
小樽を離れる事を考えられた。たま
たま上海同文書院からの招聘あり、
渡りに船と渡られたのである。しか
し手塚さんは飽く迄学究であり、村
夫子であり、自分で自身の健康管理
の出来るような人ではなかつた。数
ヶ月にして健康を損じ、其の儘立て
なくなつたのである。

全く惜しい人であつた。早逝しな
かつたら確かに本邦数理経済学上に
一大金字塔を樹立されたに相違な
い。人はよく大西猪之介教授の早逝
を悼む、悼まないと云ふのではな
いが、仮に大西教授が天寿を全うさ
れた場合、果して経済学の上に何物
かを加えられたであらうか。福田博
士も云はれたように、確かに学問の
幅を広くはなさつたであらう。しか
し経済学の上に何物かを加えたであ

らうか。恐らくジャーナリズムの世
界に転出されたであらうと思う。大
体大西さんや大熊さん等を永く学界
に留めておこうとする方が間違つて
居るのではないか。其の点手塚さん
は飽く迄学究であつた。天寿を全う
すれば数理経済学にサムシングを加
えたに相違ないと思う。此の特集号
を繰返し読んで見ると、そうとしか
考えられないのである。

「緑丘」創刊十周年記念として手
塚寿郎先生特集号の刊行は大成功だ
つたと思ひ、心からお喜び申し上げ
ると共に又心から感謝致して居りま
す。矢張り私などはまだ手塚先生を
よく知つて居なかつたと痛切に感じ
ます。真理探求の熱意に燃ゆる久遠
の青年手塚寿郎先輩に重ねて畏敬の
念を捧ぐると共に、此の偉大なる先
覚の全貌を遺憾なく告げ知らして下
さつた各位に心から厚く御礼申し上げ
ます。勿論編集子にも。
最初編集部から手塚先生特集号刊
行の計画を承つた時、大西さんなら
宛に角、手塚さんのような、謂はゞ
未完成の数理経済学者の特集号なん
て出来るかなと思ひましたが、本集
を手にして杞憂が吹き飛ぶと共に、
斯様な、謂はば変人とも思われる、
本当の学究らしい学究なればこそ尚
一層其の全貌を、せめて全緑丘人に
知らせ、其の猛省を促す必要があつ
たんだと、今更に編集子の達見に敬
服して居る次第です。尚これは我々
緑丘人文に限る事なく、他校出身者
でも数理経済学に関心を持つ人々に
本邦数理経済学のパイオニヤであ
る手塚先生を此の集によつて知らし

「やりたいものだと思ひます。」「全く我々は偉大なる先輩を持ったんだ。うかうかしては居られない。」と思ひます。

「手塚と云ふ人は何事も無頓着のように入るが、そうぢやない。どうでも好い事には無頓着だが肝心な事はきちつと弁えて居なさる」と云ふ事を教えて呉れたのも此の特集号である。それは睡眠に就てである。「南さんは徹夜で頭が禿げて仕舞つたそうだが、先生は一体どの位寝られますか」と聞かれて「僕はそんな無茶しない。大体七時間は寝る。学問は時間丈余計かけても駄目、何時の啓示のような新しい着想が浮かぶか分からないから、常に頭をクリヤにしておかないといけない。頭をはつきりさせておかないと靈感もわかないよ」と答へられたと云ふ。

大熊信行さんが最初の外遊から帰られた直後下宿に訪ねた事がある。御承知のように大熊さんは大の贅沢屋である。大抵の事は驚かないが、其のベッド丈はどうも、三越本店に一個、気に入ったのがあったが、一ケ所気に入らない処があり、其処を改良させたのを特別注文して造らせた品だと云ふ。「贅沢だな」と思ったが、流石に口には出さなかつたが私の腹の中を察して大熊さん「何しろ人生の三分の一を此処で過すのだから、殊に我々学者には此処が翌日の仕事の源泉ですよ」と。成程経済学者だ。無駄がない。全く安眠が活動の源泉である。「先ず安眠！」である。睡眠不足が諸悪の根源である。

緑丘諸兄は仕事の関係上出張が多いと思ふ。宿泊費をはずむ事を先ずお勧めする。休養と云ふ点から見れば、少々高くてもホテルの方が日本旅館に優るのではないか。次に出来る旅行中は美食する事、これが活動の源泉である。奥さんや子供達への土産などは最後の関心事であるべき事、況んや安宿を選んでラーメン喰べて懇意のホステスに贈るプレゼントの算段をするなどもつての外、緑丘健児の風下にも置けない手帳と知るべきである。 合掌

まだとけぬ謎

中野 清一

雨の降るメーデー Schumpeter の Entrepre reuer 論により耽つていたら手塚先生特集号落掌一羽鳥忠二君のものから読み始めました。今迄のどの特集号より内容的にズツリした重味で板垣君の心配りもさることながら、貴兄の「余業」とは思えぬ有能ぶりに感佩おく能わず二時間ほど何度かよみあさつて、このペンをとりました。

木田橋君のもの殊の他、味わい深かつた。手塚さんとつねに形影共にあつた人丈けに、それこそ「ホンモノ」。南さん、木曾君、二人のものをよみ合せると、手塚さんのモノリザ的な手塚スマイルが浮んできます。名古屋の向井さん、どんなもの書くかと内心案じていましたが、あの自負心の強い向井さんをあれ丈ハンプルにさせた手塚さんのスケールは短夜に逆比例してやはり大きかつた。奔放で細心な野人ぶりが、林、寺

尾、高橋君たちの筆で共通して把握されている辺り、私には窺知するべくもなかつた手塚先輩の一面が伝えられていよいよこの先輩への敬意を深め得たことです。それにしても上海ゆきの謎はやはりとけていませんね。本間喜一さんが、文部次官の前できめて貰つたというのが本当だつたとしても最終決定はやはり手塚さん御自身だつた筈です。パリの屋根裏生活の松尾さんの、表現をかりると、フランス人でないとわからぬ liberte をフランス人なみに身につけていた手塚さんは「パリ再現」をゆめみて海を渡られたか？函館の木村吉三郎先輩は私から逸散した岩崎さんの本を持っておられ羨ましいのですが、あのO教授は大塚金之助さんかどうか、数学に関連して今一ケ所O氏が出てくる筈で、このO氏が小倉金之助(不思議と名が大塚氏に同じ)であることは岩崎先生から福岡でききました。山本(安)君の文中に広島で原田氏(彦根一広大工学部)広島商大(長)そして小樽の先輩からパリ時代を聞いたとあり、そうなら原田博治氏にO氏が大塚か小倉か聞き質してみたいところ(大一一五)

緑丘に学んだしあわせ

大関 勝美

お骨折りに預りました手塚先生特集号ほんとうに立派なでき栄えありがとうございます。実方学長の文章をはじめ一晩にて全書読了いたしました。小生は小樽卒業後慶応義塾にも学びましたが、この一巻を手にし

て(また手にするまでもなく)しみじみ緑丘に学んだしあわせを覚える一人です。活字になつた拙文を読みかえてみると言葉不足で意をつくしてないところなどもあり、何と云つても先輩各位の力作に比べては見劣りするの否めません。しかし天下の視学に伍して市井の一町人に紙面をお分け頂きましたことは感激にたえず、一生の思い出になると存じております。(昭一四)

後悔追いつかず

大津 博士

特集号中にあるように学校時代は遊んで許りいた小生にも先生の面影、学問に対する温容がうかんで参ります。私達は二年の時「統計学」「フアルクの本論」を学びました。いまだに経済学に苦しんでいる私にはとくに先生の出版物がなつかしいです。もつと勉強すればよかつたと思つていますが後悔は追いつきません。(昭一八)

反省

錦戸 利春

今回の手塚寿郎先生の特集号本当に感激して拝見させて頂いた頂きました。先生の学問一途のあの真剣な研究者としての根性を今更の如くにかみしめて、吾が業に精進せねばならぬと意を新たにしたい次第です。(昭一八)

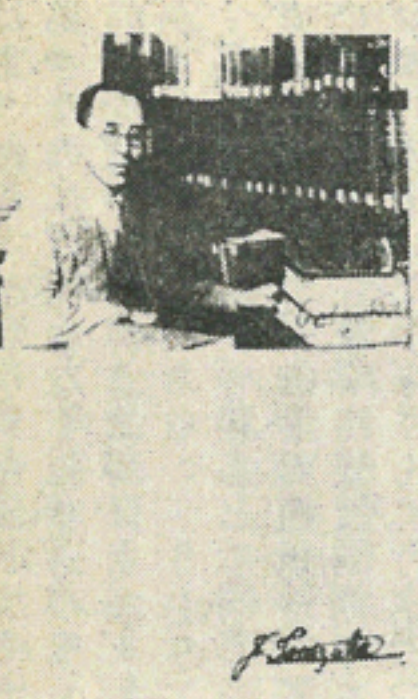
永遠の謎

板垣 与一

待ちに待った手塚寿郎先生特集号を、すみからすみまで、ほんとうにむさぼるように読んだ。どの一文にも、先生にたいする深い思慕の情が溢れ、緊張感にみちた文章ばかりだつた。いまは亡き手塚先生のまわりに、緑丘同人の心を一つに結集して下さつた編集者薑目英三氏に、心からお礼を申し上げたい。

手塚先生が亡くなられたおとしが、四十七歳のこれからという若さであつたこと、先生の死の直接の機縁が上海への転出であつたこと、そしてもしあのとき上海へ行く決心をされなかつたら、いまの緑丘学園は……という悔恨の情が終始まつわりついて、訴えどころのない腹立たしさと、あきらめに似た一種の運命観にとらわれる。

それにつけても、どうして先生が小樽を去つて上海行きの決心をされたのか。昭和十六年の冬までに、先生の決意はすでに固まつていたようだが、先生をそのように決意させた根本の理由は、一体何であつたのか。第三者の臆測や解釈ではなくて先生御自身のお口から、「自分が上



Portrait of a man, likely the author or a subject of the text.

上海行きを悲んだ人

苦米地 千代子

海へ行く決心をしたのは、こういう理由のためだ」と洩らされたお言葉を、ついに紙面に見出すことはできなかつた。木田橋さんの文章に、それを期待したけれども、そこに書きしるされてあるのは、「上海に骨を埋める決意」の固さだけだ。

先生から梓洲雄一氏あての書簡(昭和十七年一月二二日付)の「一兩年末私も色々と考えて見ましたが、……まあ外地へ行って少し勉強しようと思つています」(九三ページ)ということばも、大谷敏治氏あての書簡(昭和十七年十月十日付)の「ただ、外から日本を眺めたくなりましてね」(一三ページ)ということばも、よそゆきのうつろな響きしかあたえない。先生がいよいよ丘を去る年の夏、学生への訣別のことばとして、「人間は時として理由のつきりしない行動をとるものだ」とか「自分の経済学はもはや古い、むしろこの学生を教えるのにふさわしい」(長谷部亮一氏、九七ページ)という意味のことをいわれたとすればそれは先生が真意を語ることを意識的に避けられた苦肉の逆説的表現でしかない。

もう理由のせんさくはやめよう。「いちどこう決心したら誰かとめてもとまらぬ先生」(七六ページ)と盟友椎名幾三郎先生が評されたその手塚先生の上海行きの覚悟が、現地で「骨を埋める」ほどの牢固として動かしがたいものであつたこと、そのことを知つただけで十分なのだ。上海行きの先生の真意は、ついに解けない永遠の謎であらうとも、それはそれでよいのだ。

息子へのよきプレゼント

小池 輝男

「緑丘特集号」拝受。何とも立派な出来栄えに君の御苦勞を偲び乍ら一気に読みまくつた。先輩諸兄他諸先生の念が、ひしひしと胸に迫り、共感をよび起して呉れたからだ。およそ学究的でなかつた僕ですらが手塚さんと、親しみと尊敬を以つて身近な先生として今でも憶えて考るんだからね。

実は息子が小樽に入つてゐるんだ。小島君(計理士)の息子も本年入学の由だ。この息子にこの手塚特集号を是非読ませてやりたいと思つてね。吾々の先輩に斯くも偉大なる人物が存したのだぞと知らせる為、そしてお前達も頑張れと尻を叩く為、息子へのよきプレゼントを作つて呉れた事を改めて感謝する。

先輩手塚さん

稲垣 芳雄

「緑丘」の「手塚寿郎先生特集号」は充実した見事な内容である。これだけ多くの方々が手塚さんについて語つているところから見ると、手塚さんに対する印象や思い出が、非常に鮮明であることが察せられる。手塚さんが異常な独特な個性を持つておられたことが判る。

薑目さんからこの「特集号」に寄稿を求められたとき、私は書く材料が乏しくペンを執らなかつた。手塚さんは一年以上級の畏敬すべき先輩で

はあったが、一時は寮も同じでさえあったのに、何となく近づきにくく言葉交しあつたことがほとんど無かつた。

私も手塚さんの一年あとに同じ一ツ橋に進学した。進学の直後一ツ橋の廊下で、緑丘在学時代と同様ズボンに穴のあいた手塚さんに行き会つた。そつけないあいさつの言葉を投げかけたきり通り過ぎて行かれた。私も進んで手塚さんと話そうという気持を失つてた。

私は、一ツ橋の専攻部を卒業したから緑丘へ来てほしいと校長から言われていた。ところが一ツ橋に行つた翌年、武者小路実篤さんの「新しき村」の運動が始まり、それに参加し村の東京本部の仕事をするため、私は周囲の人々の引止めを振切つて一ツ橋を中途退学してしまつた。

もし私が順調に専攻部の業了了していたら、手塚さんの後輩として緑丘の教壇に立つていたかもしれない。私の運命が大きく転換したため私は手塚さんが他界されるまでついに一度も相会う機会がなかつた。

手塚さんが無難な和服姿で教室に臨み、難解な数理経済学の講義をされている。母校出身の最初の先生として学生も大きな信頼と期待を寄せている、等のうわさは私の耳にも伝つてきていた。「特集号」の中に多くの人が始めて手塚さんの講義を聴いたときの驚異の印象を語っている。

私は手塚さんの著訳書を一冊も読んでいないし、自ら手塚さんの講義に列つたこともない。学者としての

手塚さんがどれだけの学殖を持ち、その著訳書が学問としてどれだけの評価に値するものか、全く知らない。

しかし、手塚さんは緑丘の学生時代から語学の天才といわれていたし五年余にわたる長い外国の研究生活でもあつた。歿後遺族から母校へ寄贈された「手塚文庫」六千冊は大体読破されてもいたろう。従つて帰国後本格的に母校で講義を始められたころは、日本の少壮経済学者の中で最も実力のある一人になつておられたに相違ないと思う。

今度の「特集号」を限なく拝見して、私の疑問に思うところが若干ある。人間として学者としての手塚さんについて知るところ少なかつたために、おのずから生じた疑問も少ない。

第一に、手塚さんがいつも紺の着物に袴をはいて教壇に立たれたという事である。こういう服装で講義した先生の事例は他にもあるようだが、制服を着て席についている学生たちに対して和服姿で臨むことが、何かしらつりあいの取れぬそぐわな感じが、私はなる。一体手塚さんはどういふお心持からだつたのかしらと思ふ。

和服であろうが洋服であろうが、それは着る人の自由である。しかしやはりその場その場にふさわしい服装というものはあるし、そういう習慣なり社会通念に従つた方がよいのでなかつたかという気がしてならない。第二に、手塚さんの講義、とりわ

け数理経済学のそれは極めて難解だつたと伝え聞いている。頭の好いわずかな学生には理解できても、大部分のものにはいくら熱心に聴講しても、内容が判らざりまいだつたとも言ふ。

研究そのものが非常に高度なものであつたのか、講義の仕方の問題があつたのか、知らない。高度な研究の講義は、これについてゆける学生を大いに啓発刺激して、勉学の熱意を燃やす契機になるだろう。ついてゆけない学生には、学問の良く出来る偉い先生への畏敬の念を抱かせるか、先生と自分との距離の遠いことを自覚する動機になるかと思ふ。

手塚さんの数理経済学はそれ自体どのような平易な明解な講義をして、大多数の学生にとつて受け容れがたい性質のものだつたか、しれない。しかし、いかに深奥な学理であっても、これを正しく理解さす説き方が必ずあると思ふ。手塚さんはなぞもつとみなに判るようには話す工夫をされなかつたかという疑問である。

第三に、手塚さんの著作目録を見ると、翻訳書の方が多く、先生のオリジナルな研究の著作が比較的少いように思ふ。

手塚さんは、学者として一番油の乗つていた壮年期、四十七才で夭折された。実に哀惜の至りである。手がけていくつかの研究対象もあつたであろうし、学位論文への精進もあつたであろう。それまでは翻訳書が多かつたが、それからは手塚さん独自の研究も次

々発表されたのかもしれない。しかし、壮年期までになぜ翻訳書の方が多かつたかという事はやはり一つの疑問である。

これは私の誤つた臆測かもしれないが、手塚さんはあまりに広く深くさまざまな書籍を読まれたために読書による知識の方が非常に豊かになり、問題を自ら考へるといふことが若干遅れたのではなかつたか。オリジナルな研究は、文献を渉猟する外に、自ら深く思いを潜めることの中から生れるような気がする。手塚さんの思索の中から生れてた清新な独自の研究が、やや遅れてはいるような感じを持つのは誤りであるか。

第四は、多くの方々と同様に、手塚さんの東亜同文書院大学への転出を不思議に思ふ。このことの理由や動機について書いておられる方が何人かあるが、それを読んでもなお私の疑問はとけない。いづれにせよ、「よくよくやむをえぬ事由」があつたことは察せられる。母校では手塚さんをおかけがえの無い至宝と思つていたろうし、当の手塚さんでもできれば母校における研究の継続を念願しておられたであろう。だからだれの眼にも突飛で異様に見える上海行は何か極めて深刻な切迫した事情によるものとしか考えられない。

この上海行は、手塚さんの運命を大きく狂わしたばかりでなく、その健康を害う原因にもなつたようである。それが手塚さんの宿命と言えばそれまでの話であるが、実に遺憾と思ふ。手塚さんは東亜同文書院大学への

転出を決意されたとき、自らの運命の上でやがて起るこのような恐ろしい変化を、たとえわずかでも考えたことがあるであらうか。結果的に見ると、優秀な経済学者の命を縮める上海行となつた。

五

手塚さんと私は、緑丘において、一ツ橋において、邂逅の機会を得た。しかし、すれちがつてしまひ、深く触れ合う縁を持たずに終つた。今考えて見ると、手塚さんは進んでされなくとも、後輩の私の方から手塚さんへ接触を求めべきであつた。そうすれば、私は手塚さんの人間とその研究について深く知ることができたであらうし、手塚さんによつて大いに啓蒙され、私を成長させることもできたかもしれない。

その人を知り触れうる折角の機会を与えられながら、空しくそれを逸することが人生には往々にしてある。手塚さんは秀才であり個性の際立つた学者であつただけに、この接触の機会を失つた私の損失は大きいように思ふ。

手塚さんが歿せられてすでに二十四年になる。存命ならば七十一才で私より一年三カ月の年長である。たとえ人生の中道で仆れられても手塚さんはやはり大きな足跡を残されている。

私は一ツ橋を中退し母校の先生にならなかつた。その後波瀾曲折の多い道を通りながら平凡な一生を過し、今市井の一隅にひっそり生きてゐる。私は学者になる器でもなく素質もなかつたから、手塚さんのあとに続く道を歩まなくてむしろよかつた

たような気がする。

(四二・五・二二)

生きている手塚先生

松村 義 公

生来の不勉強のせいもあつて此の頃書物や雑誌はあまり読まない。仕事に關係あるもの、場合は別だが、それ以外のものは題名や筆者を見て興味ありそうな部分を拾ひ読みする程度である。所が此の特集号は全頁余すところなく読んだ。読ませられたのである。私にとっては近來になつたことである。

手塚教授と私は同郷である。然し私の在学当時はパリ留学中でその勉強家振りは聞いていたが、直接授業を受けたことはないし御目にかつたことさえない。今此の特集号を読んでやはり評判通りの勉強家ですぐれた学者であつたことがわかり今更ながら早逝が惜しまれる。

私が卒業後半世紀近い今、一番後悔していることは学生時代本當の勉強をしなかつたことである。要領よく試験を受けてこそこの優の数を揃えて学校を通りぬけたようなものである。勿論私共の時代にも何割かの人はよく勉強していた。然しその数はそう多かつたとは思われなかつた。大部分の人は私同様通りぬけ組であつたように思ふ。

ところが此の特集号を読んで見ると手塚ゼミの諸君や、その他の人達も教授の学問に対する態度の影響で随分よく勉強した人が多かつたように思われる。然しそれでも緑丘全体の学問的雰囲気は教授からすれば甚

だ不本意で、学園がそういう状態になつていたのはそれなりの原因があるとして不満を抱いていたのではなかつたか。

私共の大部分は本當の勉強はしなかつたが苦米地先生のコレポンその他は随分しほられたから高商卒業の規格品としては世間に十分通用した。卒業四十数年後の現在でも私共の英語は近頃の一流国立大学の社員より遙かにまさつてゐる。

然しながらそういう恰も旧制高等学校的な當時の雰囲気も真剣に経済学と取り組んでいた手塚教授に東亜同文書院大学に移る決心をさせたのではないだろうかと思ふ。それと学者であるからには大学でという気持もはたらいだであらう。特集号執筆諸氏の文章のどこどこに見えてくる断片的な文言からもこれらのことがうかがわれるように思ふ。そしてこのことはその当時、私の友人である一橋の某教授が私に「手塚さんが上海に行ったのは……」とものつと端的な日常会話の表現で二つの理由をあげていたので全く符合するのである。

然し今更このようなことを免や角云つても詮ないことである。ただかえすがえすも残念なのは戦禍の上海に行かれたことで優れた学者であると同時に、学問の尊さを身を以て周囲の人達に教えてくれたという意味で優れた教育者でもあつた教授の生命を縮めたことである。此の特集号は故教授の姿をあらゆる角度から浮き彫りにしてくれた。直接教授に接する機会を持たなかつた多くの緑丘人もこゝに示された教

授のひたむきな研究態度からいろいろな教えをくみとるのであらう。

手塚先生はその没後二十余年を経た現在尚緑丘に生きてゐるのである。(六十五)

次々浮ぶありし日の憶い出

大谷 敏 治

墓目さん、手塚先生特集号、りっぱに作つてくださつて有難うございます。一日にはじまる連休の第一日に頂いて、このお休みのあいだ中、くり返し繰り返し、読みました。たのしくもあり、かなしくもあり、この稀有に、誠実な、篤学の人を、こうしたいきさつて失はねばならなかつた、時代の暗さ、陰しさを、あらためて、いろいろ思いめぐらさずにはいられません。

それにしても、先生の、学生への愛は、歴代の編纂部の方々の筆のあとに、にじみでてゐます。講演旅行を共にした方々、ゼミナールの方々の、言葉のなかに、うかがわれまふ。同時に、ある年次の卒業生の歓送会で、先生が発せられた「諸君、青空をみて暮しましよ！」の一句これも、当時の緑丘の。内部にあつたなにかもやもやしたものの、やおよろずの神々のあいだのかつとろ、それは松尾さんのいう「行政神殿と学者神殿」のあいだにばかりではなかつたの学者神殿のなかにもあつたかもしれない。その人間くさいかつたの、抑えのかなめ石としての、先生の叫びであつたかも、しれません。こういえばとて、先生を、本當に

神格化して、きれいごとだけに写し
てしまうのは、山本安次郎さんでは
ありませんが「木仏、金仏、石仏」
あつかいするもので、先生の本領を
伝えるものではありません。でも
先生も第一次大戦後のインフレ時代
のフランスにまるまる五年もおられ
たのですから。

麻田教授と向井教授との玉稿は、
亡き先生の学問上の位置づけを明ら
かにしてくだすったものとして、筆
者にはありがたいものでした。それ
だけに、この先生の道をつぐ人が、
緑丘にいてほしいねがいは、いよいよ
よつよく、緑丘の図書館に蔵せられ
るシエル文庫と手塚文庫とが、図書
館は万人に公開とはいえず、緑丘人
によって、いちばん高く評価され、利
用されるように、祈らずにはいられ
ません。木田橋さんの一文、手塚先
生の「学生時代に読まれた本」いず
れも小樽の学生時代から東京高商専
攻科時代と思はれるもの、紹介、そ
の読中読後にものさされた？と思は
れる傍線、側線など、この学者の形成
過程を示すものとして面白く、「哲
学研究」第四巻十二冊（大正八年・
十二月号）にあるという「赤インク
達筆の献辞」左右田喜一郎の署名は
わが国の経済学の発展側面史として
貴重な資料のひとつでしょう。

それからもうひとつ、渡辺龍策氏
の一文、これは、緑丘にも、初代校
長渡辺龍聖先生のことを伝える方が
だんだんすくなくなつたいま、龍策
氏が同先生の御子息とゆうことだけ
で貴重なばかりでなく、亡き手塚先
生が、おそらく、むかし緑丘学園に
あった今村奨学資金とのゆかりで、

芝田村町の今村家の寮か塾かにおら
れたことに触れていられるだけに、
興味ふかい。そういえば、筆者もい
つか亡き先生に、「ぼくも昔は剣道
をやりましたね」ときかされて、へ
え、と思ったことを思い出す。こん
なことも緑丘神代時代のひとこまで
ありましよう。

高垣先生、中山先生、久武先生、
小林先生、椎名先生、糸魚川先生、
南先生、室谷先生、その他の方々の
お筆の跡は、ゆうもかしこし、板垣
さんの筆——「その人と学風」——も
同教授提供と思はれる写真数葉とと
もに、珍重にあたいする、そして在
ニューヨークの横山氏、在北支の鈴
木氏の寄稿も。

最後に、しかし最大の恥かしさを
もって、筆者の一文のうち（第一〇
頁上段中頃）スタンリ・ヴェブレン
とあるのは、ソースタイン・ヴェブ
レン（Thorstein Bunde Veblen）
の誤り、どうしてこんな誤ちをした
のか。引用のときの著者名、書名、
版数や刊行年次にきびしかった手塚
先生についての拙文だけに、申し訳
ない、機会があったら訂正くださ
い。それから、拙文中の思はずぶり
の二節、第十二頁下段後半の、学内
某処分事件は、当のご本人が、「私
の退学と復学」で、かいておられま
すから、ゆうことなすです。いつか
このご本人と当時の首席、応援団長
三木常資氏と、一酌して、往時を偲
んだことでした。単行本「手塚寿郎
先生の追憶」の、ご成功を祈りま
す。昭和四十二年五月七日
（学習院大学講師）

特集号出版に寄せて

越崎 清二

パリの何処で求められたものであ
ったかは知る由もないが、手塚先生
のイメージと表裏をなす大型ワニ革
靴を特集号の表紙として先生のご逝
去以来二十五年振りじかに感じ得
たことは緑丘編集部のこり方による
こともさり乍ら、先生にゆかりを持
つ誰しも感激と感謝の限りであった
ことであらう。しかもその内容につ
いてはどの頁をとって見ても等しく
先生への畏敬と愛惜の結集たらざる
はない。編集部の献身の代償によつ
て特集号敢行の挙々万腔の敬意を表
したい。

待望の記念号を手にして一字も残
す処なく通勤電車の車中で一気にこ
れを読み了えました。学生時代先生
の講義を一句も聞き洩らすまいと耳
を傾けた緊張感を何十年振りに想
い起すような感情を混えて興深いも
のを覚えました。

上海に赴任の経緯等は最も知り度
い関心事であり、夫々ご執筆をいた
だいた方々の関係記事等念を入れて
拝読いたしました。一応通読に及
んで、それは今更に立すべき事柄
ではあるまい。先生のすぐれた業績
の前では問題とされる範囲の事柄で
はなからうとの判断に到達したかに
思われました。母校教官たる麻田教
授が身近な内輪の立場から先生の学
問的紹介の労をとっていただき、先
生とは最も接触の深かった札幌木田
橋氏の寄稿を載せ得たこと等、当然
のことではあらうが、欠く可からざ
るものであったと喜びに堪えない。

在学中の印象

三浦 儀三郎

在学中の印象としては、正直に云
つて、先生は専門学校の教師と云う
より、熱心な学究と云う感じ方をし
ていました。ゼミの諸賢の寄稿から
教師としても立派であったことがう
かがわれました。そして、学者とし

私の願いは達せられた

芳賀 厚

手塚教授が小樽の学園を去られ、
そしてまたご他界されてから約五年
後に私は入学したので、手塚
教授のご生前のことは何一つ存じ上
げません。けれども在学中に諸先生
諸先輩から手塚教授のご立派な業績
そしてお人柄をほんの僅かではあり
ますが聞きかじっていましたので、
実のところ卒業してからももう十五
年にもなろうとする今日迄も何とか手
塚教授についてもつともつと知りた
いと思いつづけてきたのです。幸い
緑丘の特集号により私の願いは
達せられました。きつと私のような
後輩はこの特集号を読んで皆さん喜
んでおられる筈です。ご執筆の諸先
生諸先輩に深く感謝いたします。機
会をみて手塚教授のお墓まいりをし
ご偉業をしのびたいとも思います。

もとより不勉強の私には手塚教授
のご研究のあとをたどれる筈もあり
ませんが、特集号で読みました教授
の「真に学者らしい研究態度」の真
似ごとだけでも出来ればと思いま
す。在学時代にあれもしておけばよ
かった。これもやっておけばよかつ
たなど十五年たつた今つくづく惜し
まれるのは私だけではありませんま
い。私も丁度戦後の混乱期に小
樽の学園に入学したとはいえ旧制か
ら新制への転換期でもあり実に五年
間の修業を緑丘でさせて頂いた幸

学道に殉じた殉教者

早川 延治

学道一筋に一生を捧げつくされた
手塚教授、この懐しい人の面影をく
つきりと浮び上らせた特集号。獅子
奮迅の墓目大先輩と、協力された先
師諸友に心からお礼を申し上げると
共に、この一本こよなき秘宝として
大切に保存致したいと存じます。

手塚先生の悲劇的とも言える終焉
——上海行き——は、先生一代の学業の
完成をはかる為の無理が昂じられ
たというよりも、ひたすらに学道に
殉じた殉教者としての先生の厳しい
学風を永遠化するため緑丘学園全体
の負うべき運命であったと思われま
す。勿論先生御自身はそのような意
識も覚悟も持ち合わせて居られなかつ
たと思いますが、漸く現身の先生の
の年令近くに達した今日此頃、筆者
にはつくづくそう思われてなりませ
ん。

先生の面影に、浄土真宗の開祖と
仰がれる親鸞上人が功成り名遂げた
後、なおもすべてを放擲して唯一人
群生の中に沈潜し鈍化して行かれた
姿、或いはイエス、キリストの殉教
者としての最後の姿を彷彿し、先生
こそはこれら殉教者の正しい血統の
一人であったと言いつつ切つて過言でし

ようか。「天なるかな。命なるか
な。」と先生は懼れ戦き乍ら、招かれ
た一筋の道を、ひた走りに走り続け
られたに違いない、これらはすべて
法輪転ずる宇宙獅子の演出によるも
のか、などとも考えさせられるので
あります。

昭和十五年夏快晴に恵まれた日曜
日、当時二年生であった筆者は「緑
丘新聞」編集部の一員として手塚先
生に従って朝里、張確へのピクニツ
ク行を楽しみました。途中で車を捨て
て小笠原幹夫、菊地誠一、高橋吉雄
の諸先輩と、同年の大河津謙一、稲
田憲君も行を共にし、一年下の三谷
晃一、今福蔵の両君も参加したよう
に思っています。この道すがら先生
は、「偉い人達は、酒を飲んだら学
生でないようなことを言う。何たる
ことですか。君達はそんな狭い量見
に囚われてはなりませんぞ、広く世
界に羽ばたいて貰いたいです。」
日本も随分と狭くなりましたね。」
と言われました。私達はたゞ何とな
く先生が「純粋経済学」に行き詰つ
て、新しい活躍の舞台を求めて苦惱
されて居られるのでないか、学園の
自由も愈々狭くなって来た、などと
語り合ったものでした。

その昔、黒マントに身を包み、飄
々颯々として地獄坂を下りしつゝ、
宗教を語り、文学を論じ、恋愛を歌
った北条恒一先輩が、日本で唯一人
の税制評論家として、大車輪の活躍
をされていること、また中支の戦場
のきらめく星空のもと、フイヒテを
論じ、ゲートルを唄びつつ細かい字で

ピツシリと「外地にて故国を想う」
の長い長い手紙をものされた杵淵雄
一先輩がこれ亦健在であること、を
この特集号への寄稿を通じて知った
ことは望外の幸せであります。

特集号を閉じて 42・5・20
ひたぶるに真理を求めて進みまし
師の君のこえとわに忘れじ
あたたかき日ざしの中をもろともに
歩みし時をわれら忘れじ
時を経ていよいよ大きく迫りくる
師の君のねがいよかに生かさん
（先生に教えを受けし学生の一人）
（昭一六後）

「上海行」について

戸谷 太通三

全頁悉く先生を敬慕愛惜する記事
に満され、今更ながら先生のご人格
を偲び、思はれは三十年前の教室へと
飛んだ次第でした。

同期の羽鳥君をはじめ他の人も一
様に書いて居られる「手塚先生は何
故上海に行かれたのであろうか」と
いう今まで知られていなかったこの
大きな疑問に対する解答が、本間喜
一氏他数氏によって明らかになりました
ことは「緑丘」の一大功績と存じま
す。それにしても苦米地千代子さん
も書いて居られますように、皆さん
にもう少し長生きして頂いて、この
手塚先生の上海行について一筆をお
願いしたかったと惜しまれてなりま
せん。「緑丘」を見終って私は手塚
先生の御逝去の当時（或はその数年
後か忘れませんが）緑丘新聞の第一
面に先輩が、「手塚さんは死んだの
か」という見出しで記事を書いてい

たの思い出出しましたが、これが当時の同窓生全体の共通した「嘆き」の言葉であり、代弁したものであると思っております。(昭一三)

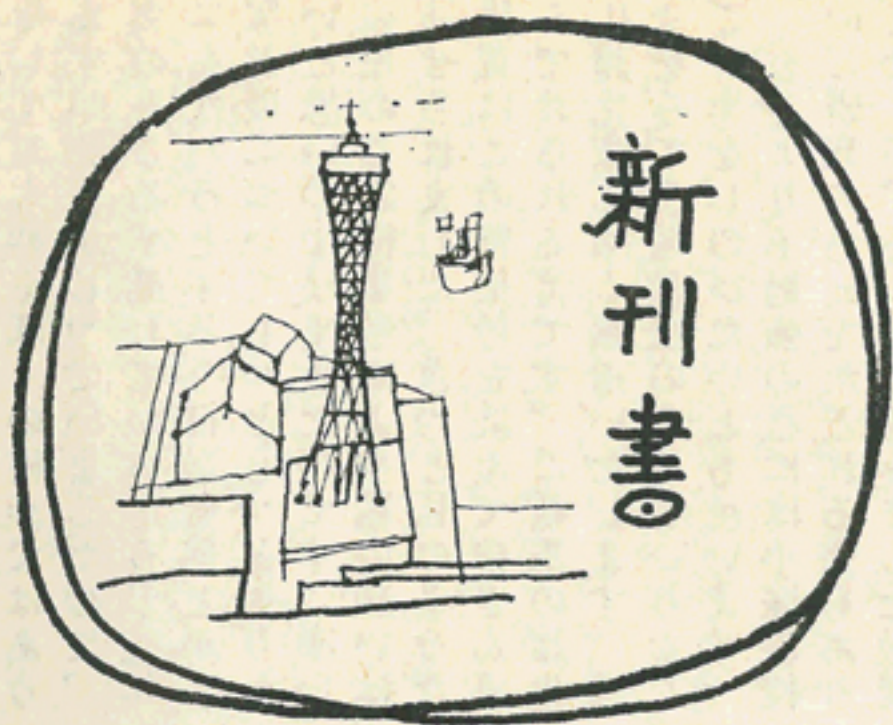
執筆者にお礼を

常川 ヒロ子

先日は早速父の特集号をお送りいただきまして有難うございました。

父の家庭でのほんの一部分しか知らない私共には教師としてあるいは学者としての姿、考え方を知らされ御執筆下さいました先生方緑丘会の方々はもちろん編集にあたられた方々方に心から感謝の気持ち一杯でございます。また五月三日の命日には学長様、緑丘会の皆様方とお参り下さいましたそうで子供の私共がお

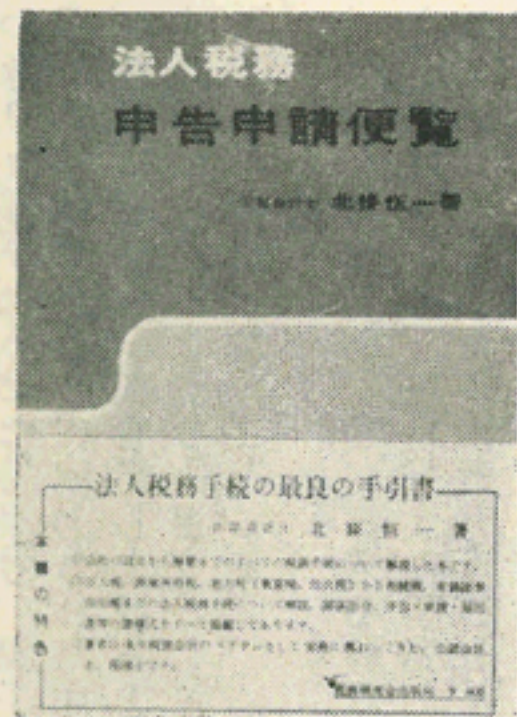
参りもせず親不孝をしておりますのに遠路わざわざおいでいただき、二十五年後の今日までお心にかけていただき誠に有難くお礼の申し上げようもございません。御住所も解りませんので皆様にはお礼も申し上げられませんが折がございましたらよろしくお伝え下さいますようお願い致します。(手塚先生長女)



新刊書

法人税務申告申請便覧

公認会計士 北条恒一 著(昭一五)



参りもせず親不孝をしておりますのに遠路わざわざおいでいただき、二十五年後の今日までお心にかけていただき誠に有難くお礼の申し上げようもございません。御住所も解りませんので皆様にはお礼も申し上げられませんが折がございましたらよろしくお伝え下さいますようお願い致します。(手塚先生長女)

父の家庭でのほんの一部分しか知らない私共には教師としてあるいは学者としての姿、考え方を知らされ御執筆下さいました先生方緑丘会の方々はもちろん編集にあたられた方々方に心から感謝の気持ち一杯でございます。また五月三日の命日には学長様、緑丘会の皆様方とお参り下さいましたそうで子供の私共がお

少年詩集

和 田 徹三著 (昭六)

大谷大の教授をしている同氏が長い間書きためた少年詩二十四編をまとめたもので、小中学校の生徒を対象にしたというがりっぱな大人向きの詩集。

(国文社発行 A5変形 一〇七ペー

税政評論家で公認会計士である北条氏はこの本について次のように述べている
「私がこういう類の本があったら便利だなどと思ったのは、かれこれ一〇年ぐらいい前になります」
「たとえば税務署から更正の通知書を受けとったが、どうしてもその処分に対し不服だというときに、いつまでにどのようなにして、異議の申立をしたらよいかという法人税法上の根拠や、その申し立ての形式的要件

について知らないばかりにその申し立てができる期限を過ぎてしまっただけというようなこともありませう。
税法は「とるため」の法律であることはまちがいがありません。その反面「とられないため」の法律でもあります。いろいろな手続を調べていても納税者の利益を守るためのものもいくつもあります」という。
この本の特色は
◇会社の設立から解散までのすべての税務手続について解説した本です。
◇法人税、源泉所得税、地方税(事業税、住民税)から相続税、有価証券取引税までの法人税務手続について解説、関係法令、申告・申請・届出等の諸様式をすべて掲載してあります。
(税務研究会出版局 定価六〇〇円送料九〇円)

恩師近況

健康を取り戻す

中村 賢二郎先生

平素は全く失礼いたし、申し上げようもありません。ご存じと思いますが昨年十月頃は入院いたして生死の境を過ぎました。不思議にも輪血も各地の学生等より生まれ、九死に一生といったことを如実に経験いたしました。こんなことで連絡も切れて緑丘誌により皆様のご活動の様子を察しておりました。私も昨年末から医者にも喜ばるる状態となりましたが各方面の仕事を引捨て無職平静の身と相成りましたが健康は次第によりくなりました。緑丘にも何か書いて見ましよう。緑丘にも何か書いて見ましよう。緑丘毎号ありがたくお礼申し上げます。(神戸市灘区篠原北町四丁目四四の二)

関西学院大学停年を迎える

椎名 幾三郎先生

椎名先生は小樽商高教授から大阪商大そして関西学院大学、同大学院などの教授をされ今年停年を迎えられた。先生は緑丘会には殆んどご出席になり若い者への激励に尽力をさ



穴(一) 室谷 賢治郎

お望みにまかせANA4(H) anashiをいたします。教室での漫談と思つて下さい。ポタージニが「ポッター汁」であったり、バーゲンセルが「バーゲンセル」であったり、「お肌のお手入れ」が「お肌のお手入れ」であったりなどを摘録した郡司利男著カッパ特製「国語笑字典」に追録されても結構だと思つた材料です。大正年間の学生時代に読んだ和田垣謙三博士の「兎糞録」の中で、西洋人名の最長が「SELF HELP」の著書Smiles 数哩であると空嘯いたり、外人から歌舞伎演劇や黒田節の立ち方に見られる槍を扱かう仕草について訊ねられるや即座にShakespeare=shake+spearと答えて涼しい顔をしたというような故智に做う程には参りませぬ。ANA All Nippon Airwaysは近頃遭難続きでお気の毒ですが、昨年十一月十三日の金曜日の夕刻、四国松山沖で十三組の新婚旅行者を含め乗客全員を亡き教にしたYS11号機そのものに、私自身は老妻と一緒に当日の朝、熊本空港から大阪に向け新婚旅行ならぬ旧婚旅行をしていたのですから、回想すると肌粟を生ずる話でもあります。

次は大西猪之助先生特集を

菅野 祐 治

特集号をひっつけて小樽までとび手塚さんのお墓にお供えして帰った由、何よりの供養でした、故人も恐らく満足なされたでしょう。この心根があるから特集号も編集できたのです。大西教授の一周忌に当時函館

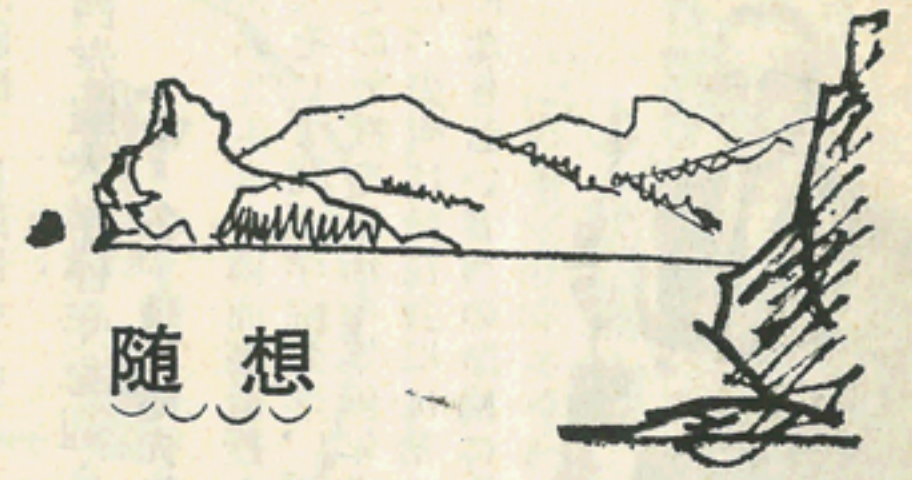
商業奉職中の相沢君がわざわざ参列してわれわれを驚かせました。それ以上の離れ業です。「一難去ってまた一難」この余勢をかって「大西猪之助特集号」を思い立たれませんか。これだけ次々に特集号がでておるのに大西の特集号がなくては画龍点睛を欠くといわれても仕方がありません、大西は神戸が生んで一橋が育てたと思つたら大間違、あれはあくまで緑ヶ丘の産物です。(六一二)

アムステルダムから

拝啓 北極回りでデンマーク、西独を経て和蘭に入りました。フランクフルトのゲーテ生家、ハイデルベルヒの古城など見応えがありました。アムステルダムも古建物多く、船で運河を通りながら市中見物もなかなかよいものです。越崎宗一



Advertisement for San'yō-sha (三優社) featuring 'Mitsuharu' (みつはる) and 'Art Printing & Paper Goods' (美術印刷・紙工品). The ad includes the company name, address (Kyoto, Minami-ku, Kyojo-cho, Kojima-cho, Kojima-cho), phone number (TEL (36) 8171), and a list of services. A logo of a stylized 'U' is also present.



菅野祐治

拜啓 緑丘諸兄様

緑ヶ丘で教わった先生方の思出を少し語って見る。落第生の語る旧師の思出など恐らく前代未聞の事だろ

大熊さんも云ふ如く当時の緑ヶ丘は大西の独り舞台だった。それ丈に

小樽に来て緑ヶ丘にのぼりたれど大西猪之介いまあらずなりと悲憤の思ひを述べられた。真に大西の才を愛でられた海南居士は全く断腸の思ひがしたのであらう。津村博士

自の講義を五十分続けられては全く賤ヶ岳の七本槍で突き刺される思ひがした。あれは全く殺人的講義で、凄いと云ふ以外評しようのない講義だった。

全く対称的だったのは北大高岡熊博士の二週間にわたる殖民政策の講義だった。多分あれが大学教授の講義の見本とも云ふのであらう。恐らく東大でもあんな講義の出来る人は居なかったのではなからうか。

何の変哲もない平易な内容を淡々とした口調で講じられて行く、只それ丈の事に何とも云えない滋味があられて居た。正に名人の至芸と云ふべき名講義であつた。

英語では浜林教授がトーマス、ハアデーの短篇物を講じて下さったが大浜林と云ふ先生自体、ハアデーを日本人にして小樽に引張って来たような人だから、講師とテキストと完全にミートして一分のすきもない名講義であり、名舞台であつた。

国松さんには教わらなかつた。然し私にスキーを教えたのも、ウキス

キーを飲む事を教えたのも玉突きを教えたのも実は国松さんだった。正直な処先生と云ふより寧ろ悪友と云つた処だった。其の国松さんが大著「貸借対照表論」を公刊された時には真実たまげた。「先生、何時の間にあんなもの書き上げたんです。」

三浦新七博士の文明史の出張講義これ文はどうにも頂けなかつた。別に英語で話される訳でなく、衆知の日本語で話されるのであるが、どうにも私にはびんと来ない。我々に對する講義だから御自身では精一杯低い処迄降りて解説して居られるのであらうが、我々と先生とは余りに距離が開き過ぎて居てどうにも付いて行けない。或る若い教授に話した処「あの話が分つたら大変だ。あれは大西さんの授業同様、本日は君達に話すべきでなく、我々に話して貰ふべき話なんだ。尚専門学校である以上一人位は生徒に分り得ない位の講義をして呉れる教授が居なくては学園とは云えないよ」と云われた。

兎に角我々緑ヶ丘人は良き教授と良き環境に恵まれ、全く仕合せだった。日本に於けるハイデルベルクの学園生活を充分に味う事が出来た。多感な青年学徒の夢を存分にみたと呉れる真の学園であつた。

大西先生によって教えられた事

大西猪之介教授によって教えられた事は楯の両面を見る事であつた。たとえマルクスにしてもあの痛烈な論法で散々に、完膚なき迄に論破して仕舞ふ。次に彼の生きた当時の時代精神を顧みる。斯くの如き時代精神をバックとして生きる以上彼の如き誤りを犯すのも亦無理はない。かくて文章に移ると云ふ講義のやり方であつた。謂はば花も実もある観方である。九条武子の歌に「棄てられて尚咲く花のあはれきに、また取上げて水与えけり」と云ふのがあ

恩徳謝し難し」である。本当に私達は仕合せであつた。

小骨の多過ぎる人

この頃、詰将棋に凝つて居る。四五冊本を買込んで来て独りで楽しんで居るが、同種の本を見て居る内つひ感じた事は、中に手順の解説にとて小理窟が勝ち、然も自画自讃が過ぎると思はれるのがある。為に手許に其の本が一寸見付からないと、強いて探さないで他の本で間に合はせる。これは人間に就ても云へるのではなからうか。

有馬稲子と云ふ女優がいる。仲々芸は達者だが、とても小骨の多い人だそうである。外の人だと何も文句を云はない場合にも、何かと註文が多い。自然監督其他から忌避され勝だと言ふ事である。

一言居士も悪くはない。然しそれも程度問題で、度を過ぎると人から嫌はれるようになる。余り小骨の多いのは考え物である。或る女学校の校長から聞いた事である。戦前料理の先生に或る米国婦人を雇つたが、一々用具の購入を請求されるので、それ文備品を用意しなければ料理の授業は出来ないのと思つて居た。其後、米人の都合で退職されたので、後任に或る独逸婦人を雇つた。前同様に種々の用具の購入を要求されるものと思つて居た。処、全然其の要求が出ない。それでこちらからこれこれの品が要りませんかと質ねると、既に学校備品にこれこれの器がありますから、それを転用すれば結構役に立つ、新規の品

の購入に無駄な費用を掛ける事はありませんと云はれたので、成程米人と独逸人とではこうも違うものかと考えさせられたと云ふ事である。

大牟田の三井の製作所の電気課長を停年で止めた人がある。部下としてどのような人を最も好むかと質ねた処、言下に早出、残業、日曜出勤を苦にしない人と答えられ、次のような事を話された。

工員が作業衣を平服に着換え「課長さん、お先へ」と挨拶して退出しようとする処へ、作業現場から電気の故障で、誰か直ぐ来て呉れと電話が掛つて来る。其の時「あ、そうですか」と其の場でまた作業衣に着換えて、気持よく現場に馳付けて呉れると、本場に助かつたと思ひますとの事であつた。斯様な人はきつとどんな職場でも重宝がられるに相違がない。

反省について

よく下僚に向つて反省を求めめる人があるが、寧ろ反省しなければならぬような機会を与える方が、一層効果的ではなからうか。

米軍基地などで日本人従業員間で飲用する珈琲は米人は絶対飲まない。とても甘過ぎてどうにも飲めないと云ふ。彼等にやらせて見ると、勿論ミルクなど加えず、砂糖もほんの一寸、心持だけ、我々にははがくて飲めない位のものである。だから外人をいぢめてやらうと思へば世話はない。羊羹始め和菓子文を喰べきせる事である。大抵の外人はお手あげである。そして云ふ「どうし

て君達はこんなにも甘い物を欲するの。日本に砂糖が出来ないので、斯様に甘い物を欲するの」と質ねる。殆ど砂糖は使はず、且塩を味を付けるから、始めて箸を付ける日本人には、塩からくてもと喰べられるものではない。然し我慢して喰べて居る内に、これが本当ではないかと考へる。我々は大体すきやきの時は酒と一緒に飲用するから、甘い肉も苦にならず、平気で平げる。然しこれが酒なしに、只おかずとして喰べるとなると、到底あんな甘いすきやきは沢山食べられるものではない。外人のやる、塩の勝つたスキヤキの方がずっと喰べやすい。

大体お砂糖は程度問題で、過ぎると野菜其の物の味をなくして仕舞う。日本人は甘い物に慢性になつて居るので気付かない丈の事である。第一回の外遊直後の大熊(信行)さんに聞いて見た。「先生、僅か二三年洋行して、漸く先方の話す言葉が聞き取れる時分に帰朝したんでは洋行も無意味ぢやないですか。」大熊さんが答えて云うには、洋行前は何でも直ぐ実行した。処が洋行後は、「こんな時外人だったらどうするだらうか」と先ず考へる。「まあその位のものでしよう」との事であつた。それで思う事は、只反省を強ひるよりは、寧ろ反省しなければならぬような機会を与える事の方が一層効果的なのではないかと考へる次第である。(大一一)

Advertisement for Nippon Industrial Co., Ltd. (日邦工業株式会社) featuring services like air conditioning, plumbing, and electrical work. Contact information includes address in Osaka and phone numbers.

■恒久化のおそれ

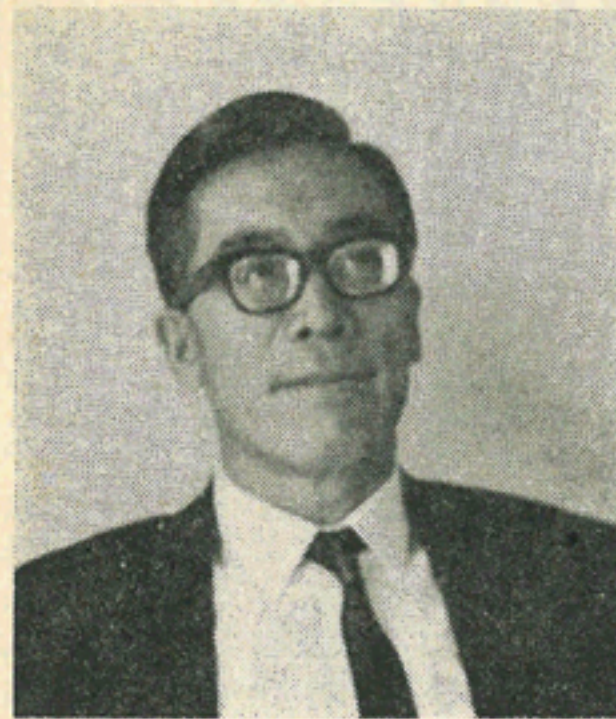
香港でこんどの暴動が起きたとき、ほとんどの人が隣のマカオの暴運を連想した。そしてこの暴動は中

激動する香港の表情

北海道香港貿易事務所長

木下 春 雄

(昭11)



国政府となんらかの了解が成立するまでは、かなり恒久化するのではないかと心配している。というのはその背後で左翼系分子が暗躍していることが明らかだからである。左翼系の新聞、雑誌は当初から香港政府に抗議を申し入れ、左翼系の俳優は現地を慰問し、左翼系の銀行は赤インキでふちどった左翼系新聞をウィンドーに張り出し、バスなどの交通機関にはいつの間にか左翼支持のポスターが張られていた。

■警官もお手上げ

香港は平常でも暴略が行なわれる町、まして事件が起こればなおさらである。群衆は千差万別、ひとたびだれかがせん動するとすぐそれに乗る。こんどの事件の「行動派」はほとんど十代で、貧しい地区の学校へも行けない子供たちが多い。左翼分子に「おまえたちは英雄なのだ」とおだてられハチのように群がり、物を壊わし、放火し、警官に投石したあとクモの子を散らすように逃げ去る。

人口の密集する九竜地域では、警官も手薄で暴動取締は全くお手上げ。手を焼いたあげく、警官側は私服の密偵に毛主席のバッジをつけ毛語録を持たせて群衆の中にもぐり込

ませ、活動分子を捕える新手を編みだした。香港政府は裏側で糸を操る者を探えたいところだが、つかまつた少年たちは「五香港ドルをもらって投石をたのまれた」とドロをばくだけ。五香港ドルといえばこの地区の一日の労賃である。一年ほど前、香港政府がロンドンに留学させ、帰港後警察学校の校長に任命した男が実は中国側の「筋金入り」だったという事実さえあるほど、香港の情勢は複雑である。

■暴騰する米の値段

香港では現在、食糧も衣料も非常に減っている。飲料水すら中国側から購入しているありさまなのだが、米の値段は以前、一斤(六百グラム)〇・八香港ドル(約五十円)だったのに現在、一香港ドル(約六十三円)にもなった。

暴動の翌日、米の在庫がないといううわさが流された。香港政府は約百日分のストックがあり、輸入も順調、と公式に発表したが、このうわさはどうやら米屋の謀略だとみられている。

私の友人夫妻は米の買いだめをめぐって口論したと聞く。奥さんは四人家族で一日一ポンド(約四百五十グラム)を必要とみて、約三カ月の米百ポンド(約四十五・三キロ)を「買い占め」た。ところがこの主人は船会社に勤めているので暴動の行くえがあるていどわかる。いよいよダメとの赤信号が出れば、米を積んだ船がはいってこないのだから、あわてることはないという言いふんだ。

■パン屋は大繁盛

しかし現実には米にかぎらず食糧はものによって飛ぶように売れている。あるパン屋は、以前まで一日の売り上げが四百香港ドル(約二万五千二百円)でいどだったが最近は一香港ドル(約十二万六千円)にも達し、屋過ぎに売り切れになる、とあって喜んでいて。私自身も裕華百貨店でかん詰めを買いだめしたさい、いつもはたなにいったい積んであったかん詰めが、三分の一に減っているのに驚いた。

さらに香港で問題にすべき労働争議は山ほどある。一昨年、当地の資本家と技術提携して当地に来た日本側技術責任者は、工場の操業前、機械の配置方法のほか、職工の着替え室や食堂など共済施設について協議した。だが一向ラチが明かず、結局他の工場同様職工は立ったまま食事をすする羽目になった。低賃金、最低の労働条件で安い製品を提出する建前前の香港でも、生産性向上と近代的な経営への脱皮を叫ぶ人もいる。しかし、がむしゃらに働く以外にないという者も多いところに、香港独特のむずかしさがあるようだ。

■乱れとぶろわき

いま香港ではいろいろなうわさが流れている。「中国が香港を取るのではないだろうか」というのもその一つだ。ある新聞が数日前この問題で世論を調査したところ、回答者のほとんどがこのうわさを否定した。その理由は①香港が中国の自由諸国への窓口となっており、これを通じ

貝の話

林 武

貝殻といえば海水浴へ行つて、浜辺に打ち上げられた色あせた貝か、或は食卓に出るアサリ、ハマグリ、アワビ、サザエ等を連想される人が多いと思う。

しかし貝類は全世界には実に十萬種にも達し、ヒマラヤ連峰より数千米の深海にいたるまで生息している。洞窟にも、砂漠にも、ジャングルにもおよそ棲みうる処なら、どこにも貝はいます。夥しい貝類のなかでも、おのずから人生と関係の深い種類があつて、昔からよく知られており、また美しい貝があつて、そうした貝殻を集め集めたいというの

も人情である。ロマンチズムとエキゾチシズムの流行した十六世紀のヨーロッパには、富豪貴紳のみならず、詩人も画家も貝を競つて蒐集した。貝は貨幣のらんしょうともなり、フェニキアやローマの高貴な染料ともなり、また人類あこがれの真珠を生みだした。フランスやベルギーの旧石器時代の首飾りにも貝は用いられ、エジプト、クレタ、ミノス、アズラク、マヤ、インカ等の古代文化にも貝の形の工芸品は少くなくあつた。美神ヴィナスは海の貝と密接な関係があつた。或る学者が貝について次のような話をした。

「貝殻は凡ての時代とあらゆる民族とを通じて、最も美しいものと承認されてきた。世に美しいものといえ

ある。或はまた花をおすに相違ない。しかし、ひるがえつて考えるに精巧の極致といわれる絵画といえども、よくこの自然美をありのままに写しだすことはできない。また花鳥の姿やその美しさは褪色や老廃によって永久的とは行かないの反して、万代その色や形を変えず、われわれの眼を楽しませるものは貝類以外にない」と。自分は偶然の機会から米人にすすめられて、この貝類の商売に飛込んだのですが、様々の美しい貝を見るたびに、この学者の言葉は真実だと思ひだされます。

昨年大阪で開かれた京阪神の合同新年パーティーの席上、ベニオキナエビスという貝についてちよつと説明いたしました。この貝は日本の代表的な貝の一つで、四円切手にもでているのでご存知の方も多いと思ひます。この貝については、中上川小六郎氏のゆめ蛤三四号に次のように詳しく説明されています。

「明治八年、今の東京大学医学部が東校といつていた頃、御備外人教師がドイツ人ヒルゲンドルフという人がいた。ある日江戸島に遊んで一貝細工店からこの珍らしい殻口に切込みのある貝を求めて帰ったが、もとより名も知らなかった。日本での仕事が終わってドイツに帰つてから、いろいろ貝の本をしらべると、まだ世に知られていない新種であることがわかつたので、一八七七年 pleuotomaria beyrichii と名づけて学界に発表した。その記載を読んだロンドンの大英博物館では、さっそく東京大学へこの貝の採集をたのんできた。一個一〇〇ポンドとい

高価である。東大ではそんな貝が日本にいたるのを全く知らずにいたが、とにかく神奈川県三崎の東大付属臨海実験所に採集方を命じた。当時この実験所には青木熊吉という御備漁夫がいて、三浦半島や相模湾の海底生物は手にとるようになっていた。この採集の名人であつた。

この名人が命をうけてその翌年、とうとうこの貝を釣りあげた。その頃は汽車もなく三崎から一晚どまり(宿賃20文(二銭)、茶代5文(五厘))で大学までもつていった。これを見た飯島、箕作両博士はたいへん喜ばれて大学として20金、博士からごほうびとして20金、あわせて40金(40円)、これが一宿二銭の時代であるから熊さんはおどろいて「長者になつたようだ」とその心境を物語った。それを博士がきかれてこの貝の和名に「長者の貝」と名づけられた。わが国生物学界のよあけばなしである」

北海道を代表する貝にホタテガイが挙げられる。この貝はベニオキナエビスのように数少ない貝ではなくご承知の如く貝柱をとるため道東の海では盛んに養殖されている。この貝殻は Baking Dish として米國へ大量輸出されます。一般的にはシェール石油のブランドとしてガソリンスタンドによく見かけますが、これは十九世紀後半、老 Marcus Samuel がロンドン塔の傍で水夫相手の店をだしてあって、東インドの貝を水夫より買ってもらう、その遺産四万ポンドで息子がタンカーを作り石油業を始めたのが Shell Transport & Trading Co. Ltd. (昭11)

て政治、経済、文化、思想の交流が行なわれている③中国が香港を通じて毎年二十七億香港ドル(約千七百十億円)の外貨を吸い上げ、重要な財源としている一からだという。

中国勢力の介入がはつきりすれば重要産業に投資している資本家はいち早く外国へ逃げるだろう。資本の逃避もまぬかれぬ。華商の香港への送金も滞滞する。残されるのは難民と岩山だけというわけだ。すでに株の取り引きは十分の一以下に落ち不動産の売買価格も下落し始めた。この数日で香港の生産は約一千万香港ドル(約六億三千万円)の減産をきたしたと報じられている。香港は輸出に依存し、輸出品の七〇％は地元工場にたよらざるを得ないから減産は大きな打撃である。

■無気味な夜の静寂

事件のぼつ発した新蒲崗(サンボコン)地帯は低所得層の集団住居地区で、ほとんどが日雇い労働者、仕事がないれば翌日の食糧を入手できないというありさまだ。事件の解決が長引けば長引くほど、さらに第二第三の複雑な問題も起きかねない。夜ともなれば日中きらびやかに並んでいた車が路上から全く姿を消す。暴徒の手の届かない場所に疎開するのためのだろう。商店も午後七時を回るとヨロイ戸を降ろしてしまい、香港は火の消えた街となる。開いている店を求め、日本の団体観光客が案内に引率され、歩き回るのが見受けられるだけ。昼間の暴動と夜間の無気味な静寂—これが香港の昨今の表情である。(道新)

毎日新聞連載

どんな仕組みになつてゐるか

対税問題

北条恒一

(昭一五 税政評論家)



受取配当金は益金ではない

中小企業法人の決算で、とくに目につくことは、記帳整理の乱雑さである。なかでも雑収入に属する勘定で、受取配当金を混同して記帳し、あとで税金を損する法人が多い。そればかりか、損をしていることを自覚しないところもある。

受取利息と受取配当とは性質がちがう。受取利息は金融機関に預けた金に對しての果実か、貸し付けた金に對しての果実である。ところが受取配当金はちがう。法人が他の法人

課税所得を計算するとすれば、配当を支払う法人と、配当をもらった法人と、両方で税金を払うことになる。この二重課税を排除するために受取配当金は法人税の課税所得を計算する段階で、益金不算入といつて利益から差し引くことになつてい

還付される所得税

個人の所得税の申告のときに、預金利子による所得は、どんなに多くても、ほかの所得と合算して申告する必要はない。このことは税制改正のたびに論議の対象になる。法人の場合には利益発生の原因のひとつとして、課税されることになつてい

か、考えてみる経営者もいないようであるが、私は税引前の金額で計上するのが妥当な会計処理だと考えている。なぜならば、こういう経理の方法は、企業会計原則の総額主義にもとづいた処理となる。利子としての収入金額はその金額を収益の勘定に計上し、差し引かれた所得税は、企業の会計の上では租税公課なり損失の勘定に計上するのである。ただし、法人税の課税所得を計算する税務調整の段階で、損失勘定で経理した所得税は損金にならないので、課税所得が増加する原因になる。それなら法人税を余計に納めることになるから、損じゃないかと思われるかもしれないが、最終の法人税計算段階でちがつてくる。

たとえば利子に対する所得税が二万円あり、これを利益に加算して課税所得が二百万円になつたときの法人税は、五十六万円(法人税率二八パーセント)になるが、加算した所得税二万円を差し引いて、納める法人税は五十四万円になる。一方、法人が利子収入を税引き(所得税二万円とする)で計上して課税所得が百九十八万円のととき、法人税は五十五万四千四百円となり、一万四千四百円だけ多く法人税を納める結果になる。極端な例かもしれないが、利子に対する所得税二万円を加算したことによつて、課税所得が二万円になつたとき、法人税は五千六百円になるが、すでに納めた所得税二万円から法人税を控除するので、差額の一万四千四百円は還付される。加算しないために課税所得がゼロであ

景品つき販売の取扱い

消費者の購買意欲を高めるために商店などの広告宣伝がますます花やかになつてきたが、抽選券つき販売のときの景品、旅行招待が税法上どういうことになるか問題である。

この場合は発行した金品引換券について、特別な制限があり、販売価格または販売数量に応じた点数を表示したもので、相手方からたとえ一枚の引換券の提示を受けた場合でも必ず一定の金額に相当する金銭または物品と引き替えるか、またはその分を販売代金(交付の基礎となる代金)に充当することとしているもの

むずかしい現物給与

従業員を慰安するために、旅行につれてゆく費用は、福利厚生費として経費になる。ところが、参加できない一人分の費用を現金で支給したりすると、これは法人の経費に

は違くないが、旅行にいった人たちまで給与として取り扱われる。給与となれば支給をうけたもの全員が源泉所得税を払わなければならないことになる。おみやげを買つてきて渡したのであれば問題はない。最近の税務調査は法人税についての調査と源泉所得税についての調査を同時に

なぜ、このようなことになるかという、経営者が現物給与の取扱いについてのベテランでないことから起る。また、なぜそのような状態に追い込まれていくかという、現物給与の取扱いを適宜したとき、ほとんどケース・バイ・ケースで通達が出されていることが多いことにもよるのである。根本的な課税原理は理解できるが、なにかの形で整理する時期にきているように思われる。

法人が従業員に無料で食事の給与をするとき、その価額の七割を給与所得として、おまな給与所得に合算することになつてい。ただし、その七割相当額が七百円以下のときは課税しないことになつてい。従業員が個人の生活のために消費する電気料、ガス料、水道料などを法人が負担したとき、その額は給与として課税されるが、工場寄宿舎のように個々の従業員の使用料がはつきりわからないものについては、あえて課税しないことになつてい。従業員が契約者である生命保険料を法人が負担したとき、月額三百円を越えて

税制の改正と政治の問題

税金をとる制度はそのまま政治である。政策の流動にもなつて租税の制度はかわつてくる。私はこのことについてでもっと深く思考してみたいのであるが、かなしいかな今のところはその時間が少ない。昭和四十二年の税制の改正については、ほとんどの法案が国会で議決承認され、あますところは登録免許税法案だけとなつた。改正の主眼はまず減税にあるのであるが、今年度の減税は微々たるものである。それよりも消費者物価指数の上り具合からみれば、国民生活の支出がふえ増税されたのと同じ結果になるおそれがある。当初マスコミは相当の課税強化をしなければならぬと、世論をリードした。ところが現実には大した強化にもならず、かえつて計算を複雑にしただけに終つてい。これが政治というものかもしれないがどうも筋がとおらない。(六月十二日)

戦塵録

(五)

|| 苦米地英俊日記 ||

(小樽高商三代校長)

七月十八日

経済係検事の会議に於ける諸問題。「現下の闇の瀰漫状況及びその激化ぶりに対して統制の緩和あるいは自由市場を開き、また、米、塩、味噌、醤油、スフ、人絹等の値上げが、かくの如き日和見態度は禁物である」と。「検事諸君、経済が判っていますか」と誰かが訊ねている。軍人が経済を語り、政治を論じ、遂にこれを支配する。検事が同じことを希う。そんな不詳事はなからう、神国日本には断じてあり得ない。スターリンの経済政策の転換施策、その効果、それは何を物語るか。「軍需資材の奪い合い」、ブローカーもよくない、しかし奪い合いの本質は「統制官庁および統制団体役員の不正、不徳義行為は道義類廢の根源をなしている」と正にその通り。しかし不正、不徳義はそれらの範囲に限ったことではない。これこそ権力者に瀰漫しているもの。

東京から疎開してきたK君、「小樽へきてから三週間で体重が一貫近く減った。配給は東京より遙かに悪

い、小樽ではあるときは魚などたくさん配給するそうだが、自分がきてからは一回もない。東京は平均して絶えず肉魚野菜を問わずくれる。小樽では配給もなく自作もなくともやり切れない。それに寒さで困る。もう冬がくるのにと家内が心細がっている」と話した。

これが暗い闇のない生活の実情、自分もこの五月病気に罹りかちるしく衰弱した、命が余程縮んだ。容易と恢復しない。栄養不足が原因、考えて見れば以前、猟犬に喰わせた食物よりはるかに悪いものを、そして少い量を食べる今日この頃。主食は米に大豆粕交りの餉、その飯の残りに澱粉をまぜ野草を混入した代用食、それから日に一度だけ豆粕交りの普通食、これが三度の食事。今日はご馳走があるなあと、思つて食卓に向つて見ると、豆腐粕一錢配給—大根葉の漬物、昆布の煮つけ、それに一家庭半ちよう配給の湯豆腐。こんなものが近頃でない珍しい美味。幾月ぶりかて豆腐・昆布は貰い物。これで栄養がとれよう

か。お方は自分は絶対食べたことがない、胃に悪いから、しかし今夜は食べた、食わねば腹が充ちないから。これは飢餓線にある証拠。闇退治—それもよい、しかし忠誠なる国民が飢えぬだけのことをした上でやるべきこと。

敵艦上機十二時十分頃から鹿島灘より侵入、主力で茨城、千葉、一部で、栃木、群馬、埼玉、神奈川を攻撃、その機数は発表されていないが相当のものだろう。二五〇機戦爆連合で横須賀に襲撃B24・P61水戸、土浦、それから鹿島灘、房総南部へP61は初見の新鋭、六五〇キロ時速、双発双胴、二十ミリ四門、十二・七ミリ四門、上昇一〇・七五キロいや大したものだ。

B24の内地奥深く入ったのもこの度初めて。B29は勝浦、東京に爆弾、郡山、直江津、柏崎にも同様、新潟には機雷、その他各所、北陸では富山、福井、四国、九州では計三〇機他に小型八〇、他に上海、広東にも六〇、五〇と行っている。艦砲射撃、水戸、日立。

神風隊沖繩の偉勲、神雷隊等の勇士二三名発表、その中に昭和十八年卒業の二人の名がでてきた。その一人は札幌出身の足立安行海軍少尉。第七神風特別攻撃隊、神雷部隊。五月四日この隊は中尉一人、少尉四人、その他三六名、計四一名で戦艦一、大型巡洋艦一を撃沈。他の一人は茂木忠海軍少尉、根室出身、神風特別攻撃隊第七隊に属し本年五月十一日出撃、具体的戦果はない。隊名は八、人員は五〇、これから見るとなかなか戦果は挙げぬもの

らしい。

七月十九日
白浜を艦砲射撃、空襲益々熾烈。

七月二十日
「米も食糧難に喘ぐ」という記事。何を云いやがると叫びたくなった。昨夜放送をきいたときからの感じだ。米国が「欧洲国民に対し実情を知らせるべきで米国が供給できる以上の期待を彼等に抱かせてはならない」ためのアングスの放送、まだ輸出の余裕があるのだ、米国の欲する以上の輸出をせぬための予防線を張っているにすぎぬ話、それをこんなふう国民に伝える真意が解せぬ。敵も食糧難だ、お前達ばかり腹がへっているのではない、我慢してというのかも知れぬが、それは事実をゆがめた形。

わが荒鷲が沖繩を夜襲し戦果を挙げたと報せられている。一回二回はだめ、連続覆滅的であるを必要とする。線香花火式のもの国民に対する宣伝価値もなくなっている。君之を知るや否や。

A26と××奴が沖繩から延岡に新見参。

B29一七五、福井、尼崎へ、これは十九日二二・三〇一・三〇、両市の工場がやられたとある。岡崎へは八〇、P51一〇〇、豊橋、岡崎へ。十九日夜大型編隊に引続き二十日十二時頃より。富山にも投弾。B29一五〇、日立、銚子を焼燬、十九日二十三時—二十日二時。茨城県の高萩、多賀、豊浦、大津等々を攻撃その他右の他多数。

異動

栄転

- 久木久一教授(大一一) 専修大学教授(小樽商科大学)
- 小河 成美(大一一) 東海大学(札幌校舎) 教養学部長(同校第四高校)
- 一谷 秀男(昭八) 太平洋興発(常務取締役)
- 東京都中央区八重州五の七(八重州三井ビル)
- 塚越 誠(昭九) 三井建設(常務取締役) 経理部長(取締役企画室長)
- 下斗米安藏(昭一一) 雪印乳業(取締役)
- 川村 勉(昭一一) 雪印乳業(取締役)
- 宇佐美猪一郎(昭三四) 三井物産(高松支店)(同社大阪支店)
- 高松市古新町三番地東明ビル
- 平賀 泰正(昭一一) 三菱地所(総務部)(菱和不動産)
- 名雲 賢(昭八) 長島総合開発(常務取締役)(三井不動産)
- 滝沢 中(昭三) 三重県桑名郡長島町又木
- 安宅産業(顧問)(住友銀行常務取締役)
- 渡辺 秀作(昭一一) 同和火災海上保険(広島支店長)(新潟支店長)
- 広島市基町一二の五 進藤 孝二(大一一) 大阪商船三井船舶(会長)(社長)
- 竹島篤二郎(昭一四) 大阪商船三井船舶(札幌支店長)(門司副支店長)
- 札幌市北二条西四丁目三井ビル 高橋 景則(昭一一) 大阪商船三井船舶(香港支店長)(札幌支店長)
- 岩沢 正二(昭一〇) 住友銀行(常務取締役)(取締役)
- 三野 六郎(昭一一) 住友生命(取締役)(住生住宅社長)
- 村山重三郎(昭一一) 北海道東京事務所(商工課長)(大阪商工事務所)
- 東京都千代田区永田町二の二七 高崎 徹(元講師) 札幌大学(外国語学部教授)
- 森松 定男(昭五) 北洋相互銀行(副社長)(専務取締役)
- 波方 清(昭四) 北洋相互銀行(専務取締役)(常務取締役)
- 寺山 清(昭五) 太平洋炭鉱(社長)
- 五十嵐世次(昭二三) 伊藤万(東京支店)(大阪本社)
- 東京都日本橋大伝馬町二の六 田村 正司(昭一九) 武田薬品工業(札幌支店農薬課)(東京支店)
- 札幌市北一条西四丁目一番地 桐田 鉄郎(大一一) 日本新業(本社人事部長)(京都市立西京商業高等学校校長)
- 木曾 栄作(昭二)

住所変更

- 小樽女子短期大学(小樽商科大学教授)
- 小樽市入舟町四丁目九番一号 進藤 彰(昭一一) 日産化学工業(大阪支店次長)(名古屋支店)
- 大阪市北区梅田二 第一生命ビル 紀野 重仁(昭九) 住金鋼管工事(常務取締役)
- 大阪市東区北浜五丁目二十二番地 新住友ビル(第二号館) 浜林 正夫(元教授) 東京教育大学(文学部助教授)
- 神沢 重治(大一一) 北陸代行(辞退)
- 酒井 誠(昭一一) 石塚硝子(常務取締役)
- 名古屋市中区和区江越町二の二二
- 久木 久一(大一一) 東京都小平市上水南町五四三
- 小河 成美(大一一) 札幌市手稲宮の沢一〇九
- 越崎 清二(昭一一) 千葉県流山市江戸川台東二丁目三二二の一
- 高橋 一男(昭四) 名古屋市中種区南ヶ丘一丁目七の二五(表示変更)
- 木村 新(昭一六後) 帯広市東六条南二十二丁目二番地の二〇
- 野口 直吉(昭六) 小樽市潮見台二丁目四番一〇号
- 鈴木 三七(昭八) 小樽市松ヶ枝一丁目二四の八
- 湊 富美男(昭八)
- 東京都小平市花小金井南町二の一 一四 福吉 俊夫(昭一六後) 神奈川県逗子市久木三丁目六の一七(表示変更)
- 野口誠一郎(昭九) 小樽市汐見台二丁目四番一和光荘内(表示変更)
- 吉田平太郎(昭九) 東京都中野区中央一丁目一五番三—三〇三(表示変更)
- 渡辺 秀作(昭一一) 広島市庚午北町九の八二
- 桑島 喜助(昭二) 東京都杉並区成宗一丁目一三三 長谷川 莊十一号
- 齊藤 進(昭一五) 小樽市最上二丁目一〇—一二五
- 浜林正夫(元教授) 鎌倉市由比ヶ浜三の十一の三一 稲山方
- 古関 周蔵(大一一) 東京都目黒区三田二丁目十二番一〇号(表示変更)
- 遠藤 周寿(昭八) 東京都調布市富士見町三丁目二六一四
- 五十嵐世次(昭二三) 千葉県八千代市高津新田四四三—三 伊藤萬(本社三三三号室)
- 福田 耕作(昭一一) 東京都中野区白鷺三丁目一六
- 田村正司(昭一九) 札幌市南十六条西四丁目
- 木曾 栄作(昭二) 小樽市松ヶ枝一丁目一五番一〇号(表示変更)

- 久木久一教授(大一一) 専修大学教授(小樽商科大学)
- 小河 成美(大一一) 東海大学(札幌校舎) 教養学部長(同校第四高校)
- 一谷 秀男(昭八) 太平洋興発(常務取締役)
- 東京都中央区八重州五の七(八重州三井ビル)
- 塚越 誠(昭九) 三井建設(常務取締役) 経理部長(取締役企画室長)
- 下斗米安藏(昭一一) 雪印乳業(取締役)
- 川村 勉(昭一一) 雪印乳業(取締役)
- 宇佐美猪一郎(昭三四) 三井物産(高松支店)(同社大阪支店)
- 高松市古新町三番地東明ビル
- 平賀 泰正(昭一一) 三菱地所(総務部)(菱和不動産)
- 名雲 賢(昭八) 長島総合開発(常務取締役)(三井不動産)
- 滝沢 中(昭三) 三重県桑名郡長島町又木
- 安宅産業(顧問)(住友銀行常務取締役)
- 渡辺 秀作(昭一一) 同和火災海上保険(広島支店長)(新潟支店長)

- 広島市基町一二の五 進藤 孝二(大一一) 大阪商船三井船舶(会長)(社長)
- 竹島篤二郎(昭一四) 大阪商船三井船舶(札幌支店長)(門司副支店長)
- 札幌市北二条西四丁目三井ビル 高橋 景則(昭一一) 大阪商船三井船舶(香港支店長)(札幌支店長)
- 岩沢 正二(昭一〇) 住友銀行(常務取締役)(取締役)
- 三野 六郎(昭一一) 住友生命(取締役)(住生住宅社長)
- 村山重三郎(昭一一) 北海道東京事務所(商工課長)(大阪商工事務所)
- 東京都千代田区永田町二の二七 高崎 徹(元講師) 札幌大学(外国語学部教授)
- 森松 定男(昭五) 北洋相互銀行(副社長)(専務取締役)
- 波方 清(昭四) 北洋相互銀行(専務取締役)(常務取締役)
- 寺山 清(昭五) 太平洋炭鉱(社長)
- 五十嵐世次(昭二三) 伊藤万(東京支店)(大阪本社)
- 東京都日本橋大伝馬町二の六 田村 正司(昭一九) 武田薬品工業(札幌支店農薬課)(東京支店)
- 札幌市北一条西四丁目一番地 桐田 鉄郎(大一一) 日本新業(本社人事部長)(京都市立西京商業高等学校校長)
- 木曾 栄作(昭二)

- 小樽女子短期大学(小樽商科大学教授)
- 小樽市入舟町四丁目九番一号 進藤 彰(昭一一) 日産化学工業(大阪支店次長)(名古屋支店)
- 大阪市北区梅田二 第一生命ビル 紀野 重仁(昭九) 住金鋼管工事(常務取締役)
- 大阪市東区北浜五丁目二十二番地 新住友ビル(第二号館) 浜林 正夫(元教授) 東京教育大学(文学部助教授)
- 神沢 重治(大一一) 北陸代行(辞退)
- 酒井 誠(昭一一) 石塚硝子(常務取締役)
- 名古屋市中区和区江越町二の二二
- 久木 久一(大一一) 東京都小平市上水南町五四三
- 小河 成美(大一一) 札幌市手稲宮の沢一〇九
- 越崎 清二(昭一一) 千葉県流山市江戸川台東二丁目三二二の一
- 高橋 一男(昭四) 名古屋市中種区南ヶ丘一丁目七の二五(表示変更)
- 木村 新(昭一六後) 帯広市東六条南二十二丁目二番地の二〇
- 野口 直吉(昭六) 小樽市潮見台二丁目四番一〇号
- 鈴木 三七(昭八) 小樽市松ヶ枝一丁目二四の八
- 湊 富美男(昭八)
- 東京都小平市花小金井南町二の一 一四 福吉 俊夫(昭一六後) 神奈川県逗子市久木三丁目六の一七(表示変更)
- 野口誠一郎(昭九) 小樽市汐見台二丁目四番一和光荘内(表示変更)
- 吉田平太郎(昭九) 東京都中野区中央一丁目一五番三—三〇三(表示変更)
- 渡辺 秀作(昭一一) 広島市庚午北町九の八二
- 桑島 喜助(昭二) 東京都杉並区成宗一丁目一三三 長谷川 莊十一号
- 齊藤 進(昭一五) 小樽市最上二丁目一〇—一二五
- 浜林正夫(元教授) 鎌倉市由比ヶ浜三の十一の三一 稲山方
- 古関 周蔵(大一一) 東京都目黒区三田二丁目十二番一〇号(表示変更)
- 遠藤 周寿(昭八) 東京都調布市富士見町三丁目二六一四
- 五十嵐世次(昭二三) 千葉県八千代市高津新田四四三—三 伊藤萬(本社三三三号室)
- 福田 耕作(昭一一) 東京都中野区白鷺三丁目一六
- 田村正司(昭一九) 札幌市南十六条西四丁目
- 木曾 栄作(昭二) 小樽市松ヶ枝一丁目一五番一〇号(表示変更)

「緑丘」42年度申込者氏名

(四)

(七月二十日現在)

- (あ) 青塚寛二、相田正、荒田清司、秋元金四郎、荒木慶司、浅野潔、秋山朔雄、青木鎮夫、青田滝藏、相原正美、明田伊造、赤津俊樹、相磯成令
- (い) 池田宜弥、一瀬茂、稲川直孝、今井慎一、岩永周生、今坂朔久、板倉誠、井林清介、伊藤静雄、猪股昌介、板谷鶴太、井上恵司、石黒政夫、井上保、一瀬義三郎、岩本正義、泉安治、井上勲、石田芳郎、井上克己、伊藤豊行
- (う) 薄井晴次、梅野弥太郎、梅野卓男、上田藤一郎、内山三郎、梅原卓、梅津正一、内海唯利
- (え) 榎本喜久次、江川裕一郎、江口武雄、江上芳雄、越前谷順治、江原昶夫、蝦名哲郎
- (お) 岡本喜知子、岡林豊樹、岡野哲二、岡田礼三、大庭定男、大友敏弘、近江龍三、太田正勝、小沢松次郎、太田省三、小田島一雄、大久保勇、沖田寅之介、大本良一、越智直行、大田未穂、奥井康夫、大野晴史、大沢一雄、尾倉剛、岡林宏、大塚誠四郎、岡本元次、大島重男、大嶽英雄、大津利隆、老月雅彦、越智易延、大沼恵五、大場忠久、岡部良造、太田正雄、小原寿、大泉宗次
- (か) 川田健二、神田徳造、金垣英雄、川原俊一、亀山英夫、川島道雄、門脇逸司、金吉忠吉、亀井尚一、片岡亮一、河合邦吉、川崎法太郎、金岡達郎、鹿島懐策、川岸巳代治、川村寛治、菅孝夫、海崎臣一、梶川亨司、神田正英、加藤英文
- (き) 紀野重仁、北村幸、木村徹郎、木島忠男、菊田小太郎、北村正一、木立哲夫、北村匡弘、木村俊也
- (く) 窪田信一、久保吉幸、栗本周也、倉島正、功刀素重、黒沢道雄、栗原勇次郎
- (け) 剣物二三男
- (こ) 小島東、駒井幸一、児玉廉平、小林憲、小柴謙吉、小林孝平、香木正雄、小島憲市、小柳信輝、小林啓作、小長谷勝己、根田順治、小柴川重彦、小寺三郎、小竹泰夫、五味泰造
- (さ) 桜庭多一郎、坂井直人、齊藤雄治、佐藤清定、佐々木利七、坂本信之、酒谷鉦五郎、桜井純一、酒井康正、佐藤庄一、佐竹繁寿、佐々木光雄、佐々木繁雄、沢村重一
- (し) 白方与次郎、真藤松吉、新崎鈞、塩谷精一郎、白石琢二、塩田信男、白勢慶吉、篠崎万次郎、白土栄一、篠原守、進藤影
- (す) 角栄、須藤一郎、杉原貢、菅井長平、鈴木信亮、杉原芳彦、杉山秀雄、助川哲郎、寿原九郎、須永誠一
- (せ) 関根鉄郎、瀬下雅也、瀬尾幸三郎
- (そ) 惣方四郎、莊子直
- (た) 田中修吾、只野重太郎、滝沢中、竹内隆、武岡達良、谷村龍雄、高田裕己、田村正司、高橋亘、武林俊三、田代耕二、武内守次、立石市郎、武智敏、高橋徹男、谷弥太郎、田所良穂、谷口輝時、高杉隆平、堂城不二人、武智次郎、竹島篤二郎、田中三郎、高橋宏造、谷本朋次、高田正明、田博久、竹内富蔵、田中慶四郎、田中滝一、高橋喜久雄
- (ち) 帖佐猛、地主忠次郎、忠善男
- (つ) 佃弘、都築実
- (て) 寺尾八郎、手塚寿一郎、寺田良和、手嶋恒二郎
- (と) 冨永義、東島常夫
- (な) 名雲賢、中尾雄平、夏村三郎、永井敏太郎、内藤義信、永井正一、仲尾弥之助、中野祐良、中道良徳、中野醇子、中尾弘、長岡鉄雄、中木常豊、永井民一、中野孝太郎、永井久、中川精一郎、中田昭生
- (に) 西村百太郎、西村保、西田豊彦
- (ね) 根元敬二、根本博美
- (の) 能沢正義、野口正二郎、信田英吉、野界作成
- (は) 林武、林崎二郎、服部奎吾、馬場清義、伴野晴治、早川卓良、林宏哉
- (ひ) 樋口幸治、疋田吉晴、平塚達夫、広岡一男、曳地金治、久松寛
- (ふ) 藤沢静雄、福吉俊夫、福田治、福田誠、福田次助、藤原愛子、福田勇一郎、藤城敏雄、藤井忠信、古屋隆作、藤井幸男、藤田享也
- (ほ) 本間誠一、本間英作、本間毅郎、星野敏男
- (ま) 牧野栄二、増田常次郎、松岡俊一、前田重郎、松ヶ野寿夫、町野正雄、丸山伝治、町野勉、松本義男、丸山恵三、末永俊治、松浦文太郎、松井要吉、松林敏、間室守親、松山宏道、松川誠治
- (み) 宮崎三善、宮崎志、三輪栄作、三沢秀雄、湊富美男、三森龍次、水垣敏正、三浦栄、三浦正
- (む) 村上武夫、村田錦一
- (も) 森尾正七、望月鷹雄、森隆郎、諸橋昌保、森本秀勇、百田嗣郎、森川正明、山中晴雄、山本信爾
- (や) 山内雅一、山名寿、山崎均、山村太兵衛、山口秀雄、山本俊雄、柳瀬伊蔵、矢野健太郎、山口一、八木四郎、山田清彦、山田孝三、山崎真治
- (ゆ) 湯川勲、弓削為一
- (よ) 横山栄二、吉田和悦、吉川友記、吉田忠、横井七之助、吉田博、横山秀男、吉田忠正
- (わ) 亘光雄、渡辺一夫、渡辺一雄、渡会丑春、渡辺秀作、若林幹

(領収書に代えて紙上発表)

緑丘通信

選挙当選

今年度知事・市長・市会議員の改選で次の緑丘人が当選した。

- 札幌市会議員(自民) 松本 允史(昭九)
- 小樽市会議員(自民) 小林 敬作(昭一一)
- 尼ヶ崎市会議員(自民) 大久保 鹿 式(大一一)

この他札幌市長に立候補した阿部勤吾(昭一六後) 共産党は落選、この人たちの選挙事務所では選挙は水もの例にもれず、予測は楽観を許さず、全くやせる思いで斗っておられた。然し開票の結果は尼ヶ崎市議の大久保鹿式氏などは上位で当選している。やはり老功、戦作のうまさである。それに前市会議長という強みもあったかも知れない。雨の日も風の日も連呼、連呼と選挙参謀に尻をたたかれ乍ら戦を続けるには体力がものをいっただと云えよう。三者何れもどうぞ今後とも身体に留意し、よい政治をお願いしま



小林啓作氏



大久保鹿式氏

選挙落選

しかし理想の灯は

消したくない

北条 恒一

(昭一五)

選挙というものは面白いような馬鹿なもののような気がするが、民主的な政治の上では非常に重大な意義がある。昭和二十二年四月、私は神奈川県会議員に立候補したことがある。若気の至りというのはこのうろたえである。しかし、精一杯のことを心をこめて、しゃべりまくった。「アメリカ兵のいない静かな町にしよう。」なんて大きな声を出している目の前を、ニグロの兵隊がそのそ歩いていたりした。ところが不思議なものである。しゃべっているうちに、どうしても自分が口約していることは、実現するように努力しなければならぬのだと思ひ込んでしまふのである。

県会議員は見事落第したが、昭和二十七年の教育委員の選挙には、繰上げ当選した。いざ当選すると立候補した当時の理想の実現がいかに難しいかを思い知らされた。それというのも、当時の学校の教員の大部分が、人間的養育も稀薄な、ダルな連中であるのをなんとかせねばと気負い込みすぎたためである。

マツキン招待醸金を!

マツキン先生の来日が決定、先生のかずかずのご希望を叶えてさしあげるために、いま一段のご奮発を、送金先は左に

- 北海道小樽市緑町 小樽商科大学内緑丘会
- 振替貯金小樽口座三〇〇一番
- 東京都中央区銀座東七双葉ビル緑丘会
- 振替口座東京七九六〇番

マツキン先生来日決定

待望の同先生は、夫人同伴、八月下旬羽田着、直ちに小樽へ、札幌中心に北海道各地訪問二週間あまり、その後京阪神地区へ直行して滞在八日前後、船で別府をへて北九州、それから山口地区で前夫人の跡を弔い、九月末名古屋地区、二、三日の後、東京への予定、すでに小樽・札幌・東京に、同先生歓迎委員会がつくられた。★いよいよ来るとなったら、マツキン先生、あそこもみたい、こども訪ねたいと、ご希望の純出、受けいれ予算は一応現在の醸金額で賄うよう計画はされたものの各地委員は、日程その他の調整に苦心、お金は多々ますます弁じますから、お志のある方は、どうか至急に醸金をお願いします。

なお各地の同窓会合も、同先生滞在の日取に合せてご準備下さい。

積水化学工業(株) 特約代理店 プラスチックの総合商社
チッソ(株) 旭化成工業(株)

田中弥商事株式会社

取締役社長 田中 弥三郎 (大12)

- (本社) 大阪市東区北浜2丁目74番地 TEL 06 655640~9
- (東京出張所) 東京都千代田区神田淡路町2丁目19番地 TEL 03 2271・5259
- (九州出張所) 福岡市奈良屋町2番19号 TEL 093 3391・6022

まんびつ五人集

次回

田岩 渡梅 越
森岡 辺原 前

誠一郎 (昭一八)
秀三 (昭二二)
文郎 (昭九)
音二 (昭一一)
宗一 (大一一)

測量山の四季

島田 恵 治

(室蘭支部)



室蘭に転任してから一年余りになる。名所旧蹟と云つても、あまりパツとしたものがない当市では、何かといえば地球岬灯台と共に、測量山が挙げられる。幸い私は、測量山のすぐ下の杜宅に住み、頂上まで約十五分、朝食前や夕食後の散歩にちょうど手頃なので、日頃親しんできた測量山の四季を紹介しよう。

春は先づ測量山の梢よりやって来る。冬中強い潮風に吹きさらされてくる木は、雪が融けてもまるで枯木のように突つ立っているが、春の息吹きは寒暖計の目盛のように、微妙に現われてくる。固い殻に包まれた木の芽は、近くでは分らないけれど、遠くから眺めると、日、一日と薄紅、萌黄、淡褐色と、その木独得の彩りを、ほんの僅かづつ深めて行くのに気付く、そしてやつぱり枯れていなくなったと安心すると同時に、自然の営みの偉大さに打たれる。さんさんと輝く春の陽に暖められ

た山の斜面に、芳香を放つてアイヌネギが鮮やかな緑の葉を出す頃、笹藪の中には筍が顔を出し、可愛いすみれやたんぽぽが咲き出す。そして枯葉の間から、紫紅色のひつそりつつましく咲いているカタクリの花を見つけたとき、散歩の足も思わず止まって、うつ向いて咲いている花の顔をのぞき込む。

夏の夜、山頂より見下せば、眼下に広がるのは七色の光の海だ。すぐ下は室蘭の繁華街のネオンがややしく輝き、街のざわめきが山の静寂を破って聞えてくる。港には船の灯が賑やかにともつて水に映えて波にゆれ、行き交う通船の舶灯が静かに海面を渡る。目をあげれば、近年発展の著しい蘭東、蘭北に広がる青白い光のさざ波は、螢光灯の下に営まれる団地の近代生活か。そして、きらめく光の海を縫って動く強烈な光は文明度の表徴、自動車のヘッドライトで、まるで海に泳ぐ魚のよう。それが一つの帯のようになって流れて見えるのは、室蘭、いや本道の経済の大動脈、国道三十六号線三十七号線だろう。

測量山より約一軒西にあるマスイテ浜は、秋の紅葉がきれいだ。海岸よりそり立つ奇岩絶壁にまつわり

ついた草木が、それぞれ特有の色の紅葉となり、岩の色、海の色、空の色に調和した天然の美は、月並みな表現であるが「筆管に尽し難し」である。従つて、風景についてはこれ以上書くことは御免蒙らう。

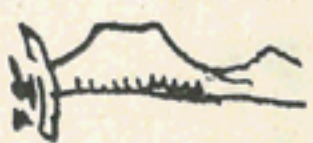
朝露にぬれた叢には、淡紫色の小さな釣鐘をいくつも下げたツリガネニンジンやミヤマシヤジンが一面に咲き、アイヌが毒矢に用いたというトリカブトも、紫の見事な花をつけている。また海岸の岩には、あんな所にまでと思われる所に、ちようどマーガレットを小さくしたような、白い小さな菊の花が咲いている。名前は知らないが、丈が小さい割に花が大きく、高山性の植物のようだ。この海岸は気象条件が烈しいせいにかけて美しく彩っている。昨年海岸に近い岩の上で、僅か十五種位にしかのびないで、それでも三、四種もあるろうと思われ大輪の鮮やかな紫の花を、一株に唯一個しかつけない桔梗が大群落をなして咲いているのを見つけたときは、その美しさに我を忘れて見とれてしまった。

霜柱が立つ頃になると測量山に行く人は、余程の物好きであろう。しかし、空気が澄んで来るので、遠望

灰皿を前に

茂垣 英 夫

(東京支部)



「私は皆さんがうらやましく思われてなりません……」
と云つて話を切りだし、
「たのは二年のYさん。四十何年前の春の夕、北斗寮で我々新寮生のための歓迎会が開かれた時のことである。多くの志望者の中から選ばれ入学した優秀

次は昨年熱海で卒業以来始めて元気な風貌に接した。そして北斗寮では同じ部屋で何かと指導にあづかっていた岩岡秀三さんをお願いしたいと思います。」

(昭二 弥生X線工業KX)

剣を握って四十年

塚 越 誠

(東京支部)



中学一年に入学した時、剣道部に入部を勧められて初めて竹刀の握り方、打込み、切り

返へし、を教つてから今年で丁度四十年、振り返つて見ると懐しい想出ばかりである。寒稽古には雪の中を毎朝一里の道を往復して皆勤したが苦しいと感じた事は一度もなかった。練習だけは真面目にやっていたが新入部員としては一番下手で試合になると何時も負けてばかり居た。然し諸先生、先輩の御指導で徐々に精神面も、身体も鍛えられ、とうとう四十年間剣道をやり通して現在に至つて居る。仕事の関係で、北海道、九州、東京に数多くの剣友を持つ事が出来、その人達と時折思はぬ処で出会う、懐しい話の出来る事は何よりも嬉しい事である。

小樽に入学して二寮に入った。寮には剣道部の主将懸さんを初め高橋さん、寺田さん、が居られ、また同年の田中君も二寮で年中剣道部の合宿をして居るような状態だった。道

場には桜井先生、小泉先輩を初め西村、鎌倉、小林、八十川の諸先輩が来られ我々後輩の指導に當つて下さった。殊に合宿練習になると小泉先輩が夜遅く来られて泊られ、翌朝四時半起床、道場での朝稽古には立てなくなる位に稽古をつけられた。道場の片角に追い込まれ、打たれて、突かれて参りましたと云ふと、そんな事で予科戦に勝てるか、と叱られ、また飛びかかつて行った事もいまは懐しい想出である。昨年十一月初旬社用で久し振りに北海道に出張し、短い時間だったが丘を登り母校を訪ねて道場に立った。大部古くなつては居たが柔剣道々場は昔のままだった事が何より嬉しかった。道場の床板を踏み鳴らして見ると何か三十三年の才月が飛んでしまつて柔剣道と一緒にやつた人達が、いまにも教科書を小脇に集つて来るような錯覚に陥つたのである。もう少し時間があれば現役の学生と是非共稽古したいと思つたが、忙しい出張の身でそれも出来ず汽車の時間を気にしながら丘を下つて来た。

予科戦の最後は昭和八年六月十一日、北大道場で両軍十名宛で対戦した。我軍は、中島、岡村、岡田、明石、金森、小野、桜井、福田、塚越、田中の十人、我軍明石二段の奮戦物凄く北大軍の四将迄倒してしまつた。しかし敵の三将、副将の健闘で小生の処で対となり、小生予科の大將に敗れ大將同志の決戦となり、田中君の出甲手が決つて我軍の勝利、控室に戻つて先輩と共に一同感

な諸君を心から歓迎するといふような寮委員のあいさつがあつて自己紹介といふ段になつた。まだ同室の人ぐらいいしか名前も知らない時で、我々は小さくなつて順番を待ちながら神妙に聞き入つていたが、その中に私は何々校(何れも当時の秀才の目ざす入学のむづかしいので定評のあつた学校)を志望受験したが不幸にも失敗して小樽にくることになつた云々、といふ人が何人かあり、そんなあとでYさんの順番が廻つてきたのである。

「私はこの学校だけしか志望できなかった。唯一の目標に向つていわゆる背水の陣をして苦しい勉強を続けなければならなかつた。その点いくつもの学校を志望できた諸君は幸福だとさい思われるくらいだ。だが然し、それだけに入学しえたときの喜びは諸君よりも大きかつたに違いないし、いまもなおその感激を続けて学んでいる……」といふようなことを静かに語つた。

その時は軽く聞き流したが、あとでYさんは二年の首席で凄腕秀才であるといふので、あれはYさんの皮肉だつたか、だとすると相当鋭い皮肉だと思つたものだ。

後日学究となつたYさんの著書をよく書店で見かけたが、戦後なくなつたそうだが、またその時寮の運動部の紹介があつたが、K野球部長のいふ話も忘れられない。Kさんは「伝統ある本寮野球部は……」と盛んに強豪ぶりを披露したあと

「新入生諸君を迎えて一層強化したい、そして近く行われる対寮試合に優勝することはもちろん、さらに余勢を駆つて小樽の全小学校を薙ぎ倒し、今年こそは先輩諸兄の悲願を達成する覚悟である」と結んだ。強い野球部がなんで小学校を?と一時耳を疑つたが、すぐ起つた満場の爆笑になる程と合点しその渦にまきこまれてしまった。

卒業以来札幌まではいつたが今日まで小樽を訪れる機会に恵まれず北斗寮には遂に再会することができないでしまった。があの深夜の静寂を破るストームに跳びおきたことや、食堂に忍んで冷たい汁をかけて整理した残飯の味など思い出は多い。

この六月には卒業四十周年記念の集まりが小樽であるので出席する予定だが、その時は丘に登り今はなき北斗寮のあたり立って「つわもの共の夢のあと」の感慨に浸りたいと思つている。

激の涙に暮れた。あの時の様子がな
んだか未だ昨日の事のように想ひ出
されるのである。学校を卒業して三
井鉱山に入社、北海道砂川に着任。
最初のボーナスで剣道の道具を買っ
た。そして小学生青年学校の生徒を
集めて毎日稽古、三十年の会社生活
中、北海道の砂川、芦別、九州の山
野、田川、三池と勤務、各所で剣道
部員を指導したが、その後対予科戦
で戦った北大の大将高橋さん三将の
高山さん共に砂川、芦別の病院長と
して赴任せられ剣道部長として小生
の後を指導して下さった事も面白い
因縁である。三井鉱山の剣道部員か
らもう七段が八人も出来た。小生も
三十七年五月京都で七段の試験を受
験、折から京都の大学に居る娘が見
に来たので子供に附添はれて親が受
験と云う面白い風景となった。娘に
見守られながら地稽古、形、学科試
験と三科目受験、何年振りに答案を
書いたが運良く六月には合格の通知
があつてほつとした次第です。

まんびつ五人集

します。

(昭九 三井建設常務取締役)

不義理を重ねて

大井 健一

(東京支部)

四国から北海道、中支
瀬戸内海、房総そして昨
年暮も折し迫って東京
へ。新年早々私達弓の同
期のグループが岡本君の
肝入りで三〇年振りに会
つた九州の小谷君を交へ
一々懐旧談に花を咲かせ
ました次第、その節曾根君からま
んびつ五人集のバトンをつつされ、
今迄の不義理が先に立ち筆も重い次
第ですが、思いつくまゝ過ぎ去つた
年月を振りかへりつゝ、ペンを取らせ
てもらいます。



遠く瀬戸内海の造船所の戦時、終
戦、再建、安定の生活を二十年、数
年前京葉工業地帯での新ドック建設
の生活それも三度目の戦場のような
日々、誠に過ぐる年月は走馬燈の如
くであります。たゞ戦場でも現在で
も折りにふれ心を支へてくれ励まし
てくれたものは自由な緑丘の学風と
逞ましい北海道の自然であつたよう
に思います。

諸先輩の戦の跡が緑丘の学風となり
私達の人生を支へてくれているよう
に思います。はるばる四国から小樽
へ行った私には、道産子と内地の
人、みがきニシン、すゞ子、五月に
なつてから忘れられた頃の花見、燃
えるような若葉、対寮試合の数々、
ストーム、対北大予科戦、春秋の合
宿、サツポロピール、公園通り、妙
見川、小樽の港、大演習、行幸、数
々の思い出が蘇って参ります。

所) にお願ひします。

(昭十二 三井造船勤務)

水府の鰻

神 沢 重 治

(富山支部)



十年前富山で国体が
開かれた時、水戸商高
校長であつた白土栄一
氏(大一一)が大会役
員として来富、旧交を
温めることが出来た。以来同氏から
「富山の鱒ずしの味は忘れられぬが
水戸の鰻も天下一品だよ」と勧誘切
なるものがあつたので、先般上京の
節、足を同地へのぼした。駅頭に出
迎えられ車で旧藩三十五万石の城
下町を一巡の上、待望の鰻料理「中
川」の客となる。床に芋銭の俳面幅
をかけ、維新志士の書簡を額面にし
た座敷に通され、武家の妻女風の女
将が三ッ指ついで最敬礼。烈公以来
の学府だけに先生には最大級の敬意
を払う風習がいまも残っている。
食後藤田東湖が水戸学を講じた弘
道館を経て借楽園に杖をひく。
「水戸で名所は借楽園よ
萩につつじに梅の花」
の磯節の文句通りの公園であつた。
次の執筆は越崎宗一氏にお願ひし
ます。(大一一 硬波市教育委員)

迫りくる技術革新、資本自由化の
波、只今コンピュータの仕事に関
係しておりますが、三重革命とか、
近代化とか、現代化とか、誠にめま
ぐるしい時代、若々しい仕事にあて
られたのか、大学生の子供と議論す
るためか、若い緑丘の世代と話を
しているような錯覚を起してゴマ塩
頭を忘れてとりとめもない手前勝手
な事のみ書いてしまいました。
お次は同期の梅原音二君(三菱地

(まんびつ執筆者)

- (委員) 松尾教授
- (大三) 高橋徹男、下吹越栄吉
- (大六) 八木康之助
- (大八) 伊東小四郎
- (大八) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
- (大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
- (大一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重
- (大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中実、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
- (大一一三) 古関周蔵
- (大一一四) 畑信太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
- (大一一五) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善裕、西野嘉一郎、竹内隆、吉田荘太郎、祐村脩平、松村義公、川上貞光
- (昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎、山中晴雄、太田英治、広瀬久一、石田平八、中沢勝平、加藤正善、古川敬止、清水文男
- (昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
- (昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三

(昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助

(昭七) 八家要、鹿島操

(昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄、鈴木三七

(昭九) 梅野弥太郎

(昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘

(昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亜津視、秋葉隆一郎、藁目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷榮作、上野茂、村山重三郎、国安猛、小島典春、砂子沢正

(昭一二) 内藤好生、皆川荘一、西谷作太郎、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰、岡本元次、立石市郎、佐藤清治、山下政道、高橋景則、金三郎、須永誠一、白鳥良造、曾根重四郎

(昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄、柳川憲夫

(昭一四) 井原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、志岐雄雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鑽三、市橋宏一郎、内藤義信

(昭一五) 柿本恒一

(昭一六) 相原正美、相田正、河上鎮男

(昭一六後) 中村平之助、小林芳美、松村克己、山内孝、杉原貢、久保宗司、若林幹一、阿部英一

(昭一七) 初谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男

(昭一八) 亀井尚一、湊誠

(昭一九) 高山博男、荻村茂雄、赤津俊樹

(昭二二) 牧口富伍、福田和、服部奎吾、北野巧

(昭二五) 我満博仁

(昭二九) 古内一成

(昭三〇) 石津洋三

(昭三一) 小田島和夫

(昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一

(昭三六) 神田隆志

まんびつ執筆年次ベスト5

- 先輩・同輩・後輩に執筆バトンを渡して昭和三十三年から今日まで上記のように続けて参りました。何年の年次がベスト5に入ったでしょう。
- 第一位 二十六名 昭和十一年
- 第二位 二十四名 昭和十二年
- 第三位 二十四名 昭和十四年
- 第四位 十六名 昭和二十年
- 第五位 十三名 大正十二年
- 第十二名 大正八年
- 十二名 大正十五年

- まんびつ執筆者は年次の面子にかけて棄権なきよう同期の方々の支援をお願いします。
- 今回昭和十一年が一人脱落しました。
- 住所変更(二頁より続く)
- 青木 勇夫(昭二)
- 福島市瀬上町字東町二丁目七一〇(七月二〇日以後)
- 母 健(昭四臨)
- 福井市松本三丁目十八番三号(表示変更)
- 進藤 彰(昭一一)
- 兵庫西宮市南昭和町二九
- 高橋 宏造(昭一一)
- 小樽市奥沢町一丁目(表示変更)
- 紀野 重仁(昭九)
- 神戸市東灘区住吉町反高林一八六七一一 住友クラブ内
- 田中 正三(昭一一)
- 東京都中野区鷺宮四丁目三二一一一
- 杉江 猛(大一一)
- 小樽市松ヶ枝一丁目二五一一一(表示変更)
- 高崎 徹(元講師)
- 札幌市美園三条八丁目一四安西方
- 千野 秀夫(昭一一)
- 東京都中野区本町六丁目一七一一一(表示変更)
- 一 二(表示変更)
- 剣物三三男(昭三二)
- 名古屋市昭和区伊勢町二丁目五三
- 大野純一(元学長)
- 東京都国分寺市本多三丁目六一二二

緑丘 余話

若松清太郎元教授 逝去

五月二十四日



元教授若松清太郎氏は老衰のため五月二十四日逝去。小樽高商退官後鳥取商業高校校長を勤め上げた同先生のため同校同窓会葬として告別式

が二十六日一五時から取り行なわれた。行年八十三才。大正十五年五月小樽高商教授となり、英語教育に専念せられ。昭和十三年四月三十日退官まで北斗寮(第一寮)舎監として厳格にして温情味豊かな訓陶をされた。日本経済界の重鎮と目される人物がこの北斗寮から多数配出されているのは一に同教授の教育におう所が大きいという。寸鉄人を射る「学生時代秀才といわれた男はみんな水臭いなア」とは同教授をしのぶ語り草として今も伝えられている。(五一頁参照)

失明の五十嵐幸雄君(昭三四) 頑張れ!

小樽商大昭和三四年卒の五十嵐幸雄君(札幌市南十七条西十六丁目)が卒業後、失明し、「今光りを失った人」たちの相談相手として、週二回札幌中央福祉事務所で盲人相談員として新しい第二の人生を切り開いて行こうとしている。苦節八年、夢多い青年の日を失明の苦しみにあえいだこの五十嵐君に幸あれと、祈らざるを得ない。以下北海道タイムズ記事を転載する。

五十嵐さんは、小樽商大を出た前途有為の青年として拓銀に勤める新進のサラリーマンだった。不幸のおとし穴は、いっどこに待ちかまえてあるかわからない。昭和三十五年、満二十四歳のとき、突然青年性反復

性網膜硝子体出血という病魔に襲われたのだ。視力は失われかかっては再び回復し、また徐々に見えなくなつた。文字どおり反復性の病氣、そしてだんだん、見える期間が短くなる。五十

嵐さんの焦燥と不安は筆舌につくしがたいものだった。そして三十六年六月ついに失明。病院のベッドの上で絶望に身をもちだした五十嵐さんは、それから一年間を虚脱状態で過ごした。何とか自活の道を。やっと気力をとり戻した三十八年、人生のやり直しを決意して札幌盲学校入り、一年間は中学部で勉強しながら気持ちの整理をし、改めて三年間の専攻科にはいってあんなま、はり、きゆうの実技に取り組んだ。

の人の手をかりることも多かった。二カ月目にはいって、やっと少しづつ仕事にも慣れ、二、三の相談も受け付けるようになったが、まだ本格的な仕事はなく、関係団体との連絡や、カナタイプでの書類作成などが日課。「ほんとうに手さぐりの二カ月でしたが、周囲の方の助けをかりてどうやら仕事の内容のみ込んできました。これからは本格的な仕事です」と張り切っているが、目が見えぬため、どうしても行動性が弱く引つ込み思案になりがちの盲人たちを、どうして社会へ引き出し、力づけてやれるかが課題。まだほんとうの相談ケースは一件しかなく、五十嵐さんの存在を知らない人も多い。「視力障害者は登録者だけでいま札幌に千人近いのですが、協会にはいっているのは百二十人ほど、もともと団結し、自信をもたせるために私が仲だちになれれば……」と「手さぐりの人生」に新しいビジョンを見いだしていた。

大平頼母元教授 逝去

七月十五日

元教授大平頼母氏は去る七月十五日午前二時脳軟化症のため大阪市東住吉区鷹合町二五二の自宅で死去。八十三才の天寿を全うした。喪主は二男大平勤氏。大平頼母氏はニューヨーク・コネル大学卒、大正七年五月十八日小樽高商講師として赴任。大正九年六月二十一日教授となり、大正十二年

七月まで勤務された。(英語担当)大坂高商、大阪外大、近大教授を勤め在阪時代「緑丘」の送附を受けて小樽時代を懐かしんでおられた。七月十六日密葬の後七月二十五日午後二時から大阪市西区江戸堀北通二の日本キリスト教団大阪教会で本葬をとり行なつた。

中野喜一郎氏、北村太郎氏、児玉兼平氏、伴野晴治氏緑丘関係、講道

学問と母校愛し五十年

大野純一元商大学長小樽を去る

小樽商大の名誉学長として敬愛されていた同大学名誉教授大野純一先生(六八)が五月二十二日午前十時四十七分急行で、学生から商大の教授まで文字どおり半生を送つた小樽を後にした。緑丘会小樽支部はご出発に先立って五月十九日午後六時から中央ホテル三階で緑丘会員四十五名が集まり送別の宴を催した。

先ず新谷幹事長から開会の辞に次いで杉江猛支部長の送別の辞があり、実方学長も立って挨拶された。大野先生はこれに答えて「戦後十四年、国立小樽商大の初代学長に就任した混乱期の学園は講師、助手をひっきりぬめて二十人に満たない教官をやりくりしてなんとか授業を再開、学生も服装はまちまちで懸命にノートをとり学問に打ち込む真剣さは迫力があり、教官としての生がいししみじみ感じた。自分は学長としての器でないと思つていたが苦米地前校長のすゝめで学長を引き受けたのであるが、八年間勤める事が出来た事を喜んでおります。今は実方学長を迎えて小樽を去る自分としては満足しています」と挨拶された。次いで記念品の贈呈式があり、懇親会に移つた。緑丘会副理事長金榮西吉氏の音頭で乾杯、大野先生のご長命を祈つて。「第二の故郷をいつまでも愛し続けて行き度い」と語る先生を囲んで高らかに校歌がこだまして、この送別の宴も幕を閉じた。尚大野先生のご住所は左記の通りである。東京都国分寺市本多三丁目六一二三

叙勲に輝く緑丘三氏

昭和四十二年春の叙勲

勲三等 瑞 宝 章 南 亮三郎(大九)

(経博 駒沢大学大学院教授)

勲四等 瑞 宝 章 種 田 堅次郎(大八)

(損害保険料率算定会専務理事)

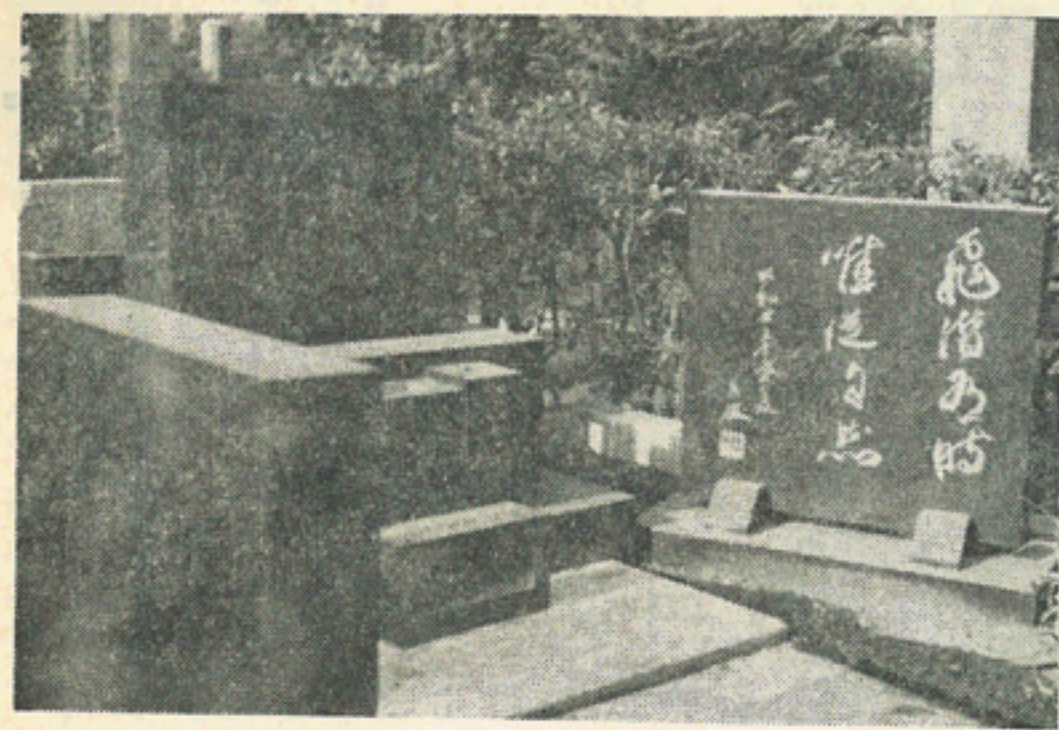
勲五等 双光旭日章 富 樫 長 吉(大四)

(北海道食品衛生協会連合会長、道冷凍事業協会会長)

(判明分一記載もれがありましたらお知らせください)

苦米地英俊氏(小樽高商三代校長)の一周忌

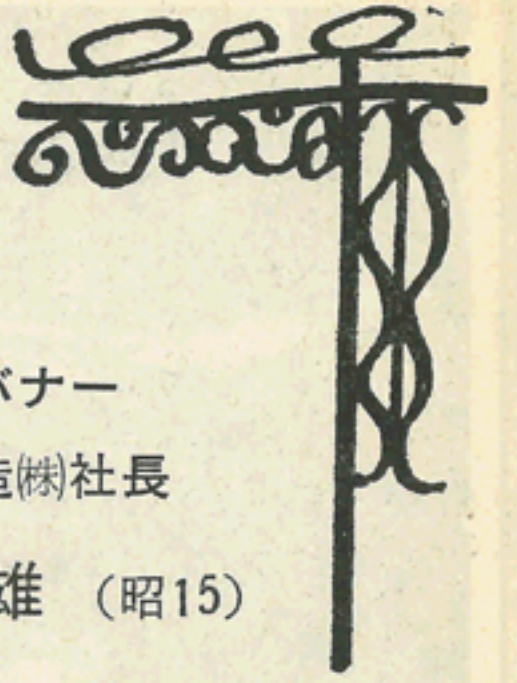
雑司ヶ谷に墓碑建立、納骨の儀



五月五日苦米地家では故苦米地英俊氏の一周忌を迎えるに当り雑司ヶ谷霊園に会津黒御影の墓碑を建立。午後一時から苦米地千代子未亡人、嗣子俊博氏夫妻、次男英彦氏夫妻、三男正昭氏、四男和夫氏、毛利家令嬢、緑丘関係、大谷敏治氏夫妻、中野喜一郎氏(六一五)など参集して小樽正法寺住職荻野一山師読経の裡に納骨の儀を滞りなく終えた。この苦米地英俊氏の隣りに長女故(毛利)昭子夫人の分骨も納められ、集るもの新たな涙に暮れた。午後三時から麻布長谷寺(永平寺別院)にて一周忌法要が営まれた。講道館々長嘉納履正氏、武田北海道工業大学々長(旧自動車短大)上村緑丘会東京支部長、神田正英氏ほか



大野純一元商大学長小樽を去る



緑丘人物譚 (18)

国際ロータリー 第350地区ガバナー 旭川 北の誉酒造(株)社長 岡田正雄 (昭15)



岡田正雄氏

昭和十五年卒、緑丘会理事、緑丘会旭川支部長 旭川市出身、大正八年九月生まれで四十八才 旭川北の誉酒造(株)酒造業 旭川市酒造(株)酒造業 旭川市酒造(株)酒造業 旭川市酒造(株)酒造業

このように本業の外公職の多い人で国際ロータリーガバナーとして東奔西走、文字通り多忙な中、四月中旬のある日折りよくお会い出来た。

家庭は美恵子夫人と一男二女 長男一橋大学在学中 長女一神戸女学院大学在学中 二女一北都中学 (趣味)

読書—経済学(主にケインズ) 仏教書、評論、探偵小説 音楽—クラシック、声楽 囲碁、麻雀、スポーツ、野球、山スキー、登山など。

私は昨年国際ロータリー第三五〇地区のガバナーをお引受けしましたが、ロータリーの発祥は一九〇五年(明治三十八年)で今年で満六十二年になります。

旭川ロータリークラブは昭和九年に発足、日本で早い方から二十番以内に入る筈で初代会長は私の祖父(重次郎)でした。

ロータリー精神というものを、皮肉屋のバーナード、シヨウが「あ、彼はロータリアンか、それなら彼の行く先はわかっている。彼はこれからメシを食いに行くだけさ」この話のように、ロータリーと云えばなにか金持ちが集まって昼メシを食う会だと思っている方が多い。わかりやすくいうと、まず自分の足もとから社会の役に立つことをしよう。それには一人一人の活動ではいけないから同志相集ってやろうじゃないか。そのためには第一に知り合いを広めよう。その次には職域を通じ接

する人を通じて社会に奉仕しよう。つまり職業奉仕です。

ガバナーとは 総括者ともい、ましようか。全国で十三地区あり私が北海道地区総括者です。任期はアメリカの会計年度と同じで昨年七月から今年の六月までです。

仕事は全クラブの公式訪問が主で道内に六十四クラブ(会員数三千百人)あり現在までに全部訪問をすませました。自分で云うのもなんです。が激務です。

外国へ行つてロータリアンに合った場合、初対面でもたちまち百年の知己になるとかですが。

いま百三十三の国にわたり一万三千のクラブが結成され、会員も六十万人以上になります。ただし独裁主義国家にはありません。こんなことがありました。シカゴである所を訪ねようと思ったが道がわからない。先方から警官が来たので聞いてみたら、そばにいた男が「やあ、お前はロータリアンか、おれもそうだ、案内してやる」ってね。その男は株の仲買人だったので「取引所を見せよう」お蔭でアメリカの株の取引の現場を見ることが出来ました。やはり方はやはり指でサインしていただいた日本と同じでした。おもしろかったですよ。

旭川北の誉酒造(株)は地元第一位の清酒メーカーとして業績抜群の会社である。「北の誉」の銘酒で広く親しまれており道内酒としては味、品質共超一流と云われている。先輩は当地財界のホープとしてこ

活躍中で、財界の青年将校とも云われており、将来の商工会議所会頭(祖父重次郎氏は会頭歴任)との呼び声も高く、毛並み育ちもよく、地元における超一流の人物である。かかる立派な先輩のおられることはわれわれ緑丘人にとって心強いことであり誇りでもある。

「和顔愛語」 この言葉は先輩のモットーだそうである。常に微笑をたたえたその温容に接すると、何とも言えない人間的魅力を感じる。反面、内には烈々たる闘志を秘めた経営者として、かつまた人間としての力強さを汲みとることが出来る。先輩は中々多忙な人であるが、われわれ若い者でも及びのつかない程の勉強家でもある。趣味は多趣味で何でもござれで、すべて相当の域に達している。例えば基は日本棋院の四段、たいしたものである。また麻雀の腕前は名人級と云われ氏の右に出るものがないそうである。(小生も腕に相当の自信をもっているが、幸か不幸かお手合せしたことがないのが残念)

最後に「お酒の方は」とお尋ねしたら「酒は断然日本酒に限る」とかで、やはり商売柄か? 本文執筆には内藤先輩より何かと協力をいただきました。誌上を借りて厚く御礼申し上げます。



(訪問者) 石崎 秀策 昭和二十四年卒、富士銀行旭川支店副長

意味では、僕の書齋は、僕における緑丘の延長面であるといつていいかも知れない。つまり、ここでは、僕は現在にたいして距離をおくと同時に、仕事にたいしても距離をおくことになっている。

仕事に生き、仕事に生甲斐を感じずるといふことは立派なことだし、人間の基本的な在り方でもある。けれども、何かの理由で、その仕事から離された時、まるで唯一つの支えを失って、もぬけの殻のようになり、為すべきことも知らないような有様では人間としてはどういうものであるだろうか。外界から隔離された世界の中でも、自分自身と対話し、思索して少しも退縮を感じないようでない、人間は「離乳」したとはいえないと語ったのは古谷綱武であった。△裏座敷△の必要なのである。

僕の住んでいる青森市には、比較的若い緑丘出身者を中心とした木曜会という読書サークルがある。暫く中断していたが、こんどサムエルソンの「経済学」の訳本がでたのを機会に、それを取りあげることにして、つい先頃、第一回の会合をもった。僕の書齋におけるたのしみも、また一つふえたわけである。

一九六七・五・一五

次の「僕の書齋」は若山永太郎氏(昭一三)が登場します。自薦・他薦を問わず執筆の御協力をお願い致します。

僕の書齋



渡辺泰助(昭14) (青森・丸屋醸造KK社長)

僕が今使っている書齋は、末弟がまだ僕等と一緒に暮らしていた頃、彼の仕事部屋としてつくられたものである。弟の居室は、はじめ、父達の居間と僕で仕切られた八畳間であった。彼の趣味はハリ絵と新聞の切抜きで部屋の中は、いつでも、絵の具皿や

筆や新聞や、その切抜きが散乱し、足の踏み場もない有様であった。おかしいもので、弟にしてみれば、そうした雑然とした、手のつけようもないような部屋の中でない、落着いて仕事ができないのであった。これには父も母も閉口して、結局、弟をどこかへ隔離するより仕方がない、ということになった。

回り廊下を隔てて、裏庭の一隅に張り出すようにして、それは建増しされた。設計は弟がした。アトリエと書齋のチャンポンみたいな、矩形の八畳室である。入って正面の北側二間は腰板から上は天井までのガラス戸で、それからカギの手に西へ一間余も同じようにガラス戸である。ガラス戸は換気にも便利にように三段になっている。ガラス戸の面積が大きいので、部屋は明るい。けれども冬はそのためなかなか暖まらないのが難点である。東と西のその他の壁面は書架になっている。入口のすぐ左手に小さい手洗いがついている。絵筆を洗うためのものであったろうが、なかなか便利である。

さてこれが出てきて、隔離されたのをいいことにしたわけでもあるまいが、この部屋での弟の散らかしようは、まえにもましてたいへんなものであった。書物、レコード、新聞、スクラップ、それに絵の具や何かが散乱し堆積している中で、本を読んだり仕事をしたりしている弟は、いかにも、この仕事部屋を、いつばいに生かして使っている、という感じであった。

弟が新しく世帯をもって一戸を構え、ためにこの部屋を僕の書齋とし

てからもう七年ぐらになる。はじめの頃、床板には方々に絵の具のいろいろな色が見ついていた。その頃から見ると、今の僕の書齋ははるかに整理され綺麗にはなったが、それだけ、かえって空疎になり、充実感がないといえるかも知れない。

書齋の系譜や空間について少し語りすぎたようである。梅棹忠夫の「文明論」でなくても、系譜や素材よりも、だいたいのことは、その機能だろうからである。

僕は書齋人ではない。読んだり、書いたりするのが僕の仕事ではないからである。いつてみれば、書齋は僕にとつては、△全く我等のものなる、全く何物にも煩わされざる、裏座敷を一つとつておいて、其処に、真個の自由と、本当の隠遁孤獨を、持たねばならない△とモンテーニュが教えてくれる時、ややそれに近い一つの△裏座敷△に違いない。

僕は、現代のいちじるしい特徴の一つは、△忙しい△ことだと思ふ。そして、明日へ立向う思考の再生産も、その△忙しい△の中で、△忙しい△と離れ難く行われるものではあるが、そのさい、現在の検証をも含めて未来を展望するためには、かえって現在の△忙しい△にたいし△距離をおいて△対する必要があると思ふ。こうした意味では、現代人はそれぞれ心の中心に、それぞれの書齋を持つ必要がある。もともと、それは必ずしも我が家の△裏座敷△であることを要しないかも知れない。

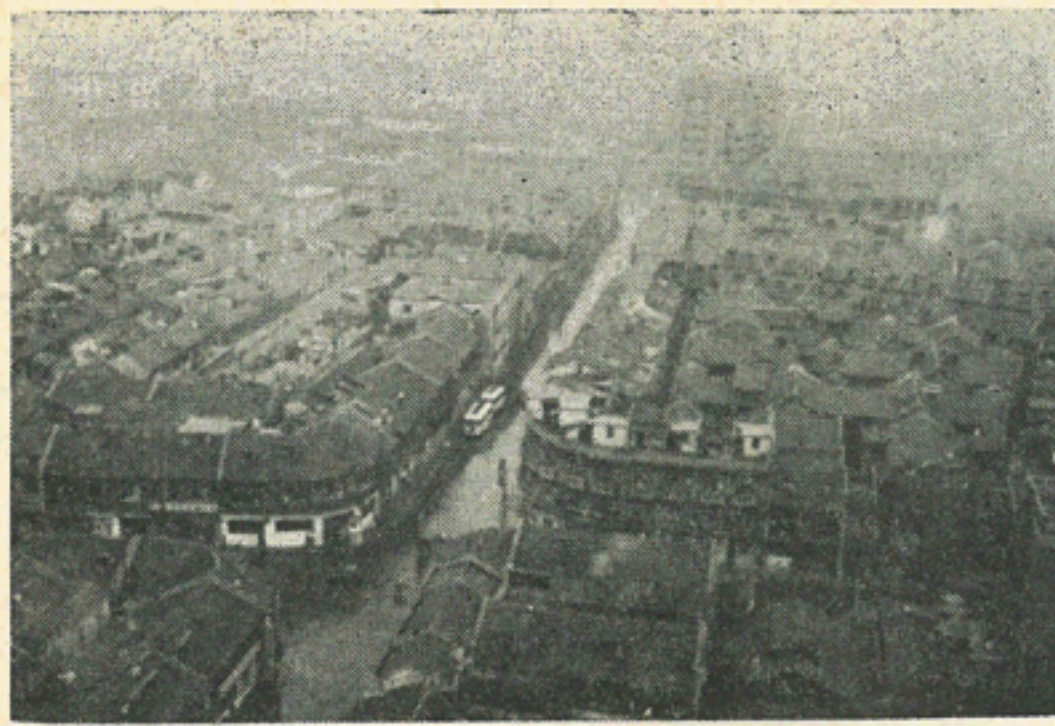
僕は書齋では、いわゆる仕事のことは考えないことにしている。その

中国の旅 (二)

羽鳥忠一 (昭十三)

上海市内

翌日、朝八時三〇分ホテルを出発し、貸し切りのハイヤーでまずバンド沿いに東に向かい蘇州河に達する。ここで有名なガーデン・ブリッジを渡る。中国語では現在「外白渡橋」と称している。すなわち「外人は口で渡れた橋」という意味で当時中国人は三文（現在の約二〇銭）の金を払わねば渡れなかった橋だ



上海・旧日本租界

という。この辺にも新中国の政治教育が徹底しているのに驚く。黄浦江は長さ八〇キロメートル、上海付近で幅四〇〇メートル、深さ九メートルの大河で、衆知のとおり呉淞という所で揚子江に合流している。現在は昔を忍ぶよすがもないが、それでも一万トンくらいまでの船が出入りし、一〇〇以上の国と貿易し、それらの国の船が出入りしているのとこのである。

上海大夏 (Broadway Mansion Bldg.)

に登り屋上より市街を眺めたが、あいにく朝からの驟雨にけむって遠くは見えない。しかし共同租界跡、フランス租界、眼下の旧日本租界など興味深かった。

通訳氏の説明で市内を次々と廻る。やはり北京と違って賑やかな街である。特に南京路などは日曜日なので相当の人出である。私は「康さん、スマ路というのはどの辺ですか？」と聞く。通訳氏は一瞬考えているので、私は続けて「夢のスマ路の街の灯」という歌があったじゃありませんか。というので、やっとわかって「ああ、スマ路ですか。あれは色街ですよ、今はありません」とのこと。私はガッカリしたが、この歌（上海ブルース）は現在の中国ではどうやら禁句のようだった。

車はやがて玉仏寺に着く。私はここで始めて玉仏というものを拝見した。一八八二年に開山した慧根法師という坊さんが、ビルマより持ち帰ったものだとのことであるが、乳白色の玉 (Jade) でできたおしゃカ様は非常に美しく、エロチックでさえあるように思えた。

ためつ、すがめつしたあげく、お賽銭をあげて黙禱し、案内の坊さんとしぼし問答。玉仏の安置されている壇の両側の柱に金文字で「仏説無定法 衆生多善根」とある。

通訳を介して種々の質問によって仏教の教えの中にもこれといって決定的な真理というものはないのだ。否、むしろ、一般大衆の中にこそ多くの善果を招く善行は存するのだ。と解した。がしかし私の、この解釈は怪しいかも知れない。私はふと、これは仏教の現代中国的解釈の一つかとも思いつながら、あまりにも語呂が良いので、「不佞は仙骨 多情即仏心」の対句を思い浮べたのであった。

延安路からチベット路にぶつかった角に、有名な大世界という四階建の建物がある。ここは一種の総合 Amusement センターであって、各階ごとに食堂があり、左右が手頃な劇場となつてゐる。まず、曲芸、奇術、映画 (電影) のほか、錫劇、瀟劇、越劇、黄梅劇、京劇、准劇、揚劇、講義場 (ピワの演奏のようなもの) など、演劇も中国各地の古来のものが演ぜられている。毎日午後一時より開館、夜の十時まで入場料は二五銭 (日本円で約三七五〇銭)

人民大衆は半日以上をゆつくりこの中で楽しめる。私は上海に着いた夜、夕食後の七時頃よりここでもっぱら通訳氏と曲芸、奇術の見物をした。私共の子供の頃、よく日本の各地を巡業して歩いた支那手品の伝統はここにはつきり残り残り、私共が感心すると、通訳氏は「中国の手品は世界一です」と鼻高々であった。

また、午前中ドライブした中で華嘉浜という所があったが、ここは新中国の上海で自慢の土地らしく、以前 (解放前) はドブ河 (クリーク) で夏は蚊、蠅、伝染病の源泉地だったらしい。それが今ではすっかり改造されて、道路の中央は緑地帯で両側にはりっぱなアパートが立ち並んでいた。「上海は解放後、実に面積で七〇〇万平方メートル、一〇〇万人以上の住宅問題を解決しました」とのことであった。

たしかに人口七〇〇万、郊外を含めて一、〇〇〇万人の大都会上海も現在は苦力 (クリー) などの姿は見えず、狭いながらもすべての人民に住居が与えられていたことは事実である。また、毎年のごとく、何万人と出る餓死者や凍死者もなく、殺人も強盗も心の中もない中国のように一見観察されたが、きわめて低いながらもあらゆる人間の生活水準を平均化し、完全独立をなし遂げた現政権の偉大なる指導力、実行力には感嘆せざるを得なかった。

私は中国が、かくも短時日の中に社会主義化に成功した理由の一つは農業中心の経済発展段階にあったことが幸いした主要な原因の一つであると思ふが、なんといつても全人

緑 丘

口の大部分を占める農民を対象とした土地改革を行なったところに成功の第一の原因があったように思う。

午後、静安区の少年文化宮 (日曜および課外学校) と美術博物館をゆつくり見学したが、いずれも感銘深いものであった。

上海の美術博物館は、ニューヨークのメトロポリタンやボストンの Fine Art あれは、エジプトのカイロにある古代博物館を見た私の目からみれば、小さなものであったが青銅器時代の出土品については実にりっぱなものが多かったと思つてゐる。通訳の康君は専門家だけあってハニワ (中国では俑像という) の説明や青銅器の説明は堂に入ったもので、私に中国では、南方は細緻、北方は粗獷という言葉でいろいろと特色を説明してくれた。

組 (サークル) の遊びに分けられ、社会主義の教養 (自覚) を持つ労働者を養成するということが主目的である。おもなる思想教育は団結一致の精神、正直、勇敢、労働を愛する。といったもので、当日はちょうど日曜日だったので、組の遊び (サークル活動) が盛んであった。

以上、一通りの紹介を女の先生から受け、校長先生と思われる若い白哲の美男子と男女各一人の子供達 (男子は沈雨山、女子は謝拉凡提) の案内で各部屋を巡回する (四階建各階とも部屋数六つくらい)

午後一時半のアポイントメントに少し遅れて康君と静安区の少年宮殿に着く。少年文化宮というのは課外学校と日曜学校、遊芸設備を兼ねたような所で、上海市の場合でも市営が一、区営が一二、その他各町ごとにこの「少年の家」に相当するものが多数あり、子供達の体育、智育、徳育に役だてられている。だいたい八十五才まで (中には幼稚園級の子供もいた) の男女の子供達の集会所で、静安少年宮の場合でも毎日延べ八〇〇人の子供が出入りしている。先生 (指導員) は二六人、ほとんど師範学校出の男女、ほかに四八人の少年に対する教育愛好者が自分の仕事の終わったときに来て、子供達の指導に当たつてゐるという。

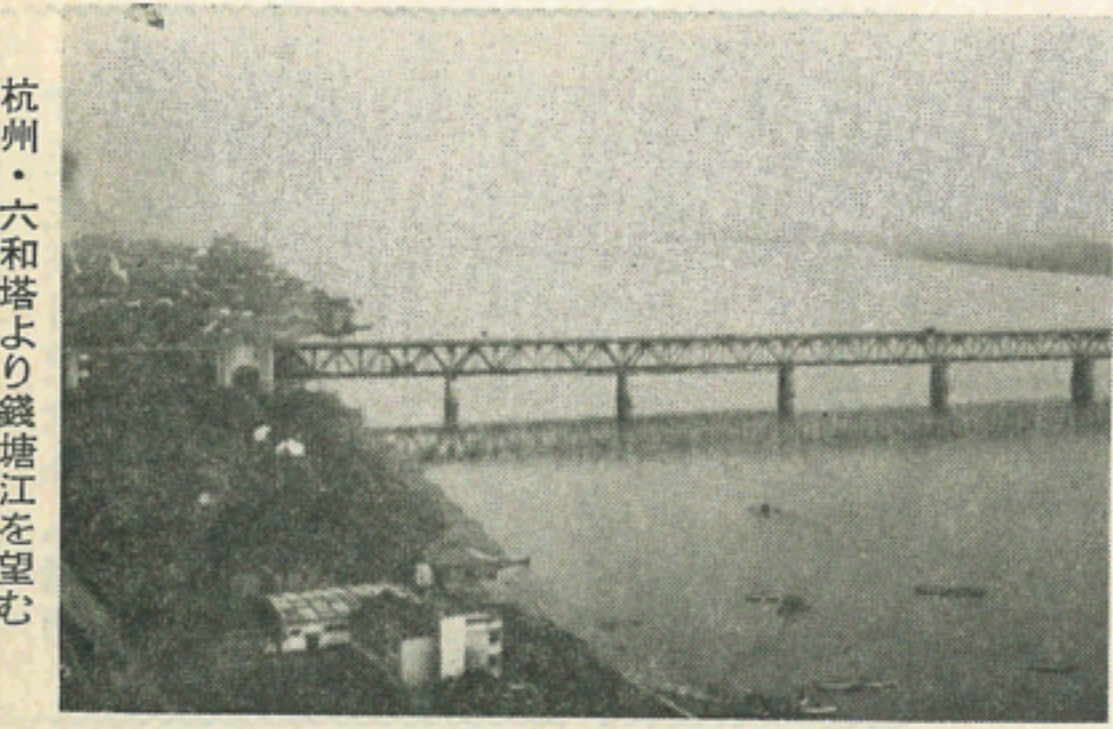
背獨共憐深夜月 踏花同借少年春

私は広州の郊外でハダシで歩いている子供達や北京の郊外で砂糖キビをかじつてゐる子供達を見かけたし遊びといえれば、ゴーゴマ程度しか見なかつたが、かかる施設もあるのかと感心し、通訳の康君の配慮に掛値なしに感謝したしだいであった。

夜はまた、康君の勧めで芝居見物、日本のアカハタにも連載され、50万部も単行本で売れたという「紅岩」という現代中国小説のベストセラーの翻案劇で、題して「紅姐」(赤いおねえさん)。完全なる実話で思想劇であるが、私は北京の人民大会堂で観劇した大オペラ「東方紅」とともにやはり感銘深いものであった。

杭州へ

二月一四日朝、ホテルを出発、ガーデン・ブリッジを渡り、旧日本租界をとおって抜けて上海停車場 (旧北停車場) に着く。杭州まで約三時間足らずであるが、汽車の旅、外人は皆一等寝台車 (軟臥車) に乗り込む。窓外の農村風景はクリークあり石橋ありで全く平和でのかである。所々に望楼があるので、つわもの共が夢のあとを連想する。



杭州・六和塔より錢塘江を望む

ある杭州飯店に落ち着き、またさつそく見学スケジュールの打ち合わせ。

許誠君の日本語は独学で、私の英語のようににはなはだあやしい。しかし杭州には日本語の話せる通訳はいないかもしれないといわれて来ただけに一安心である。以後半ば筆談で観光する。午後から日暮れまでに見物した場所は次のとおり。

西湖 (湖心亭) | 三潭印月 | 花港觀魚 | 六和塔 | 虎跑 | 靈隱寺 | 岳飛廟 | 友誼商店

中国には昔から、

「天に天国あれば、地に蘇州杭州在り」という諺があるくらい蘇州、杭州は風光明媚な名所である。蘇州へ行く

緑丘卒業50年

大正6年卒(第4回生)記念会



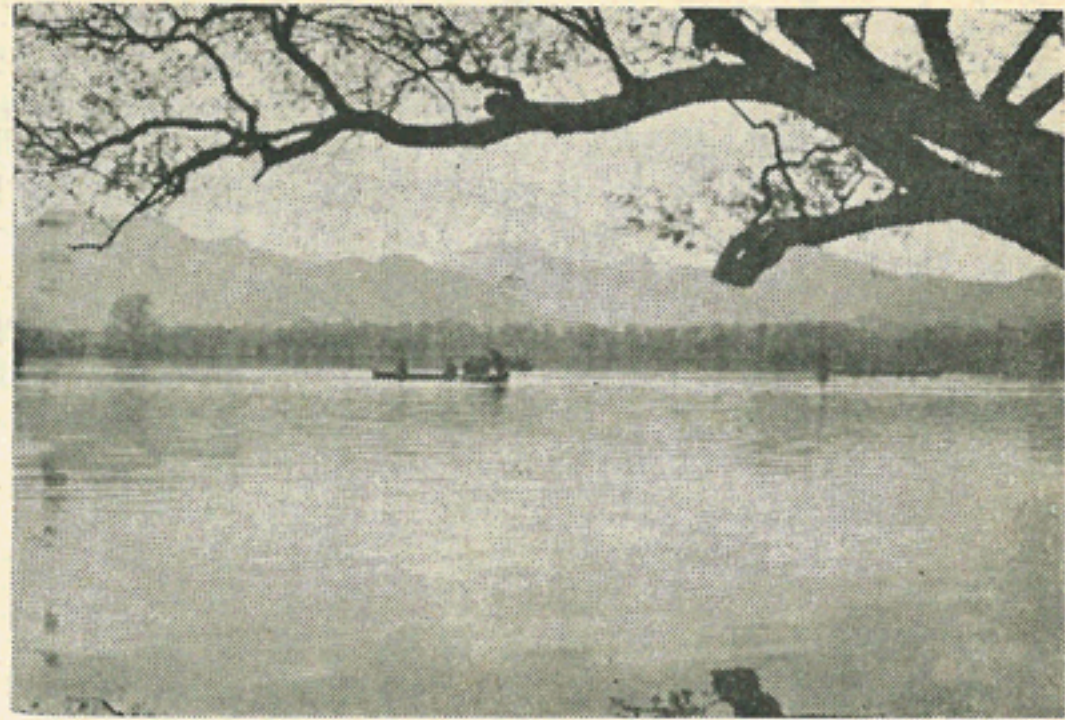
上段 (左から) 滝沢金三・山崎英雄・河野治四郎・佐藤久市郎・江口信一・稲垣芳雄・市川金吾・小池省三・横 啓三・乗金林之丞・高階龍雄・吉井友彦・奥野又郎
 下段 (左から) 雨宮保造・橋本 一・榎本喜久次・杉浦義陳・五味泰造・佐々木俊雄・板垣元久・服部大六

過去年半世紀の間
 われわれの生活の上にもたたくの出来事と変化がありました。そういふさまさまざまな風雪をしのぎ、これまで生き抜いてきた

一体何人出席してくれるだろうかと、だれとだれがきてくれるだろうかと、その返事を心待ちにしていた。結局出席する旨回答してくれたものはわずか二名でした。欠席の返事があつたのは九名、その内病氣療養中のもの一衣斐申造・泉武夫

(一)
 本年三月は、われわれ第四回生が大正六年に小樽高商の校門を去つてからちょうど満五十年に当ります。最初われわれは、再び会いがたきこの年を記念するために二つの行事をもくろんでいました。一つは、卒業四十周年の記念に編んだ「緑丘追想」の続編ともいふべき記念文集をつくること、いま一つは、全国の級友相集つて記念祝賀会を催すことです。

(二)
 東京とその近県に居住している級友は、かねて五味泰造君の肝いりで「大六会」と称する同期会をつくり合せていました。近年は隔月に集つていてすでに六十八回を数えています。この「大六会」でわれわれはたびたび記念祝賀会について話合つた末、江口・榎本・橋本・小池・杉浦の諸君と私の六名が実行委員としてそれぞれ分担の上準備を進めることになりました。



西湖蘇堤

のは道順ではないし、さらにまる一日費やさねばならないので割愛し、杭州を見物した。杭州は浙江省の杭州湾の付根(最奥端)錢塘江に沿つた都市であり、例の柳川兵団の上陸で有名な所であるが、西湖という湖があるのも高い。

つて美しい形を現存しているのである。私は、これも中国婦人のこぐ小さな舟に乗つて、支那茶をすすりながら通訳の許誠君と湖の周遊を行なつた。湖岸には大小のサナトリウムがあり、一二月というのに緑の美しい風景であつた。



杭州・虎跑の泉(二匹の虎が掘つた泉)

ぼれ落ちない。約二センチくらい水が盛り上がり、全然水平面からは向う側が見えないくらいであつた。またこの付近は茶の産地であり、竜井茶という有名なお茶を産する。この色、味、香りのよい竜井茶を虎跑の水で煮立てて飲むというのが自慢です」と通訳君の説明であつた。

マ先生来日記念外人講師
 特集号原稿募集
 マッキンノン先生招待を記念して緑ヶ丘に登つた外人講師(英語、仏語、露語、中国語、西語)の懐い出を書いてお送り下さい。執筆希望者はハガキでご連絡下されば原稿用紙をお届けします。
 締切日 九月末日

前学長加茂儀一氏は新校舎新築に引き続き、卒業半ばにして出陣した戦歿学生の記念館を建立し、永久にその霊をまつり度い旨を機会ある毎に提唱されてきた。しかし昨学年長改選によって丘を去られ、これが実現は困難視されるにいたつた。

これは具現化は一に同窓会有志の協力にまたねばならない。しかもこれが実現は同期の親友を失つた昭和十年一昭十九年までの緑丘人に期待するところ大きいという。単なる提唱に終らずことなく、道内有力者(小樽、札幌、函館、旭川)による「戦歿学生の碑」建立委員会を結成されてはどうであらう。

小樽高商・商大の

「戦歿学生の碑」建立について

或る提案

・高和豊二郎・鷲尾一栄の四君、やむをえぬ事情や差支えのあるもの、田口茂・大谷健二・橋本米次郎・大村弥一・山田園武の五君で、全く返事の来なかったもの五名でした。

(三)
五月十一日の前日は終日雨でした。一生に一度の意義深い日ですから、十一日はぜひ快晴にしたいと思いましたが、私ひとりではなかったと思います。十一日は小降りになりましたがまだ雨は残っていました。しかし正午ころから幸い晴れ上って来ました。

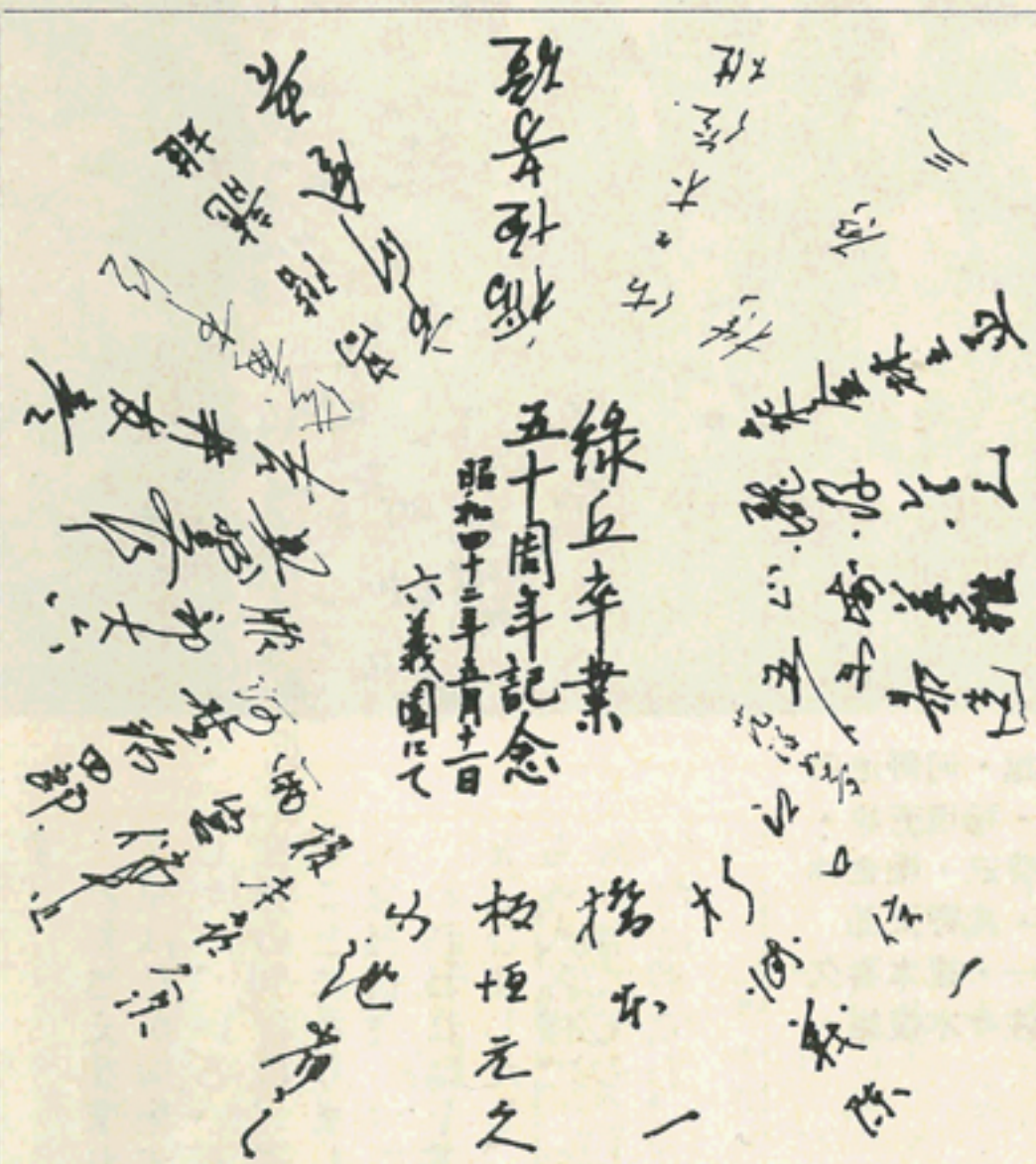
実行委員は正午ころから心泉亭に詰めかけていたのですが、出席の級友は二時の開会を待ちかねて次々に集って来ました。

当日の出席者は次の二名です。
板垣元久(小樽) 市川金吾(柏崎)
河野治四郎(四日市) 乗金林之丞(神戸)
雨宮保造(広島) 江口信一(東京)
榎本喜久次(東京) 五味泰造(藤沢)
橋本一(東京) 服部大六(船橋)
小池省三(東京) 榎啓三(東京) 奥野又郎(熱海) 佐々木俊雄(東京)
平野久市郎(東京) 杉浦義隆(藤沢)
高階龍雄(千葉佐原) 滝沢金三(東京)
武蔵野(山崎英雄) 千葉我孫子(吉井友彦(東京) 稲垣芳雄(東京)

江口君以下の十六名は、隔月開く「大六会」で顔を合せている馴染みの面々です。しかし、板垣・市川・河野・乗金・雨宮の五君は、特にこの日わざわざ遠くから馴せ参じてくれた珍客です。

一別以来五十年にして初めて相見の人たちも多く、お互に顔を見合わせ

ながらだれであるかを思い出せないで、瞳をこらしている情景がいくつもありません。名乗りあつて見ると、今は年老いた面影の中に、若かりし日の面影を見出して、「ああ君か」となつかしうに堅く手を握り合うのです。



あるいは同じ寮で起居寝食を共にしたことは、尊い共通の経験であり、共通の思い出であります。われわれが小樽高商に学んだ同期生であったことは、まことに不思議なありがたいうれい緑だと思えます。

(四)
会費の納入や寄せ書きをすまし、大輪の菊花の飾りを胸につけたあと、美しい新緑の六義園の庭園を一

眸のうちにおさめる座敷に、それぞれ座を占めました。
二時半、橋本一君が司会して開会しました。まず私が、再び会いがたい貴重な日に会いえた喜びの思いを語って開会のあいさつを述べ、つづいて六七名の多数にのぼる物故者への冥福を念じて深く黙禱を捧げました。

それから並んだ席順に出席者全員、約五分その所懐を語る懇話会に移りました。橋本君は、語る人を名指すと共に、その人の人となりや経歴を描く要領のよい紹介の言葉を加え、まことに手慣れた名司会振りでした。五十年の長きにわたる生活や関心を、わずかに五分に圧縮して語ることは容易のわざでありませぬ。しかし、一

同実に見事にそれを成し遂げました。私はみなのお話を一応メモしましたが、長文のものになりますからそれを録するわけにゆきません。われわれの年齢は六十九才から七十七才にわたっています。現在なお責任ある地位に就いて遅く活躍している人もあれば、すでに社会的活動に終止符を打ち悠々自適か晴耕雨読のような静閑の余生を楽しんでい

る人もあります。病弱なからだをいたわりながら加療中の人もあります。略歴を語るもの、趣味を話すもの、人生観を述べるもの、仕事や事業を説くもの、既往症について告げるもの等々、話の内容は一人一人違っていました。順調に坦々たる道を進んだ人もあり、私のように、失敗を繰り返して、死生の間を彷徨する長期の難病をたびたび生き抜いたものもあります。一口に五十年といっても、その歳月の間に開いた生活の歴史にはたくさん山が河が流れています。一人の子女も無きもの、十五人の孫を有するもの、わずかに二名の級友でも、運命と境涯のすがたは、まことに千差万別でした。

十九人集ったところで開会したのですが、明治大学での講義を終えて山崎英雄君が駆けつけました。四時半ころ辻堂から五味泰造君が、令息淳芳氏の夫人玲子さんに附添われ、自動車ですべて来ました。五味君は昨年の夏から病気で臥床していたのです。しかしどうしてもこの記念会に出席したいと熱望し「短かい時間なら」という医師の許しをようやく得出席したのです。和服姿で、運転手に背負われて心泉亭まで運ばれ、座に着いたときは、全員拍手でこれを迎えました。このあと六時過ぎ祝宴半ばでまた背負われて帰って行きましたが、懐かしい級友に何となくも会おうという執念が達せられたためか、案じていたような疲れもなくすすみ、ほんとうによかったと思えます。

陽がかげらぬうちに、六義園の庭園に一同出て記念撮影をしました。

(五)
ついで祝宴にうつり、滝沢金三君の発声で乾杯してから、一座の談笑は尽くるところがありません。五十年の星霜が一挙に逆運して、みな緑丘の学生だった青春の日に還ったようです。恩師の話、欠席の級友や亡友の話、寮生活のあれこれ、小樽の街の夜の思い出、エスケープのこと、思いをかけた女のはなし、しくじり話、すっぱぬき合い等々、ビールのコップ、酒の盃をあげて、続く歓声、湧く爆笑。喜びがみな表情に溢れ、いかにも仕合せそうでした。共通の回想が無限にあるだけに、共通の話も無尽蔵です。余興をやることなどすっかり忘れて、話、話、話。そして笑、笑、笑の渦のうちに時間が過ぎてゆきました。「よくこそ生きて会うことができた」の思いが期せずしてみな胸を強く打ったからだと思えます。

何といっても、わざわざ遠くから出向いてくれた板垣・市川・河野・乗金・雨宮の五君が一座の花形で話の主役でした。

往年の美少年はみな変じて、白髪になり禿頭になつても、かつてお互を結んだ友情はいささかの变化も無いのです。クラスメートは好いもの、ありがたいもの、仕合せなもの、ありがたいものを、この日この夜からい切実に感じあったことは無いと思えます。

江口信一君が見立てて作らせた記念品は、平和の象徴である「羊」の置物でした。ことしが「丁未」(ひのと・ひつじ)の年で、羊にゆかりがあるためでもあります。見事

な出来でした。土産品は、杉浦義陳君が見立てて用意した文明堂の美しいクッキーでした。

まことに名残は尽きなかったのですが、心泉亭の締切の時間は八時なので、その少し前、榎本喜久次君が最後の乾杯の音頭をとり、閉宴のあいさつを述べました。胸に満ちあふれる無量の感慨を切々と語っていました。感極つたのでしよう、だれからともなく一斉に万歳が三唱されました。そして心惹かる思いで座を立ち上りかけたとき、またおのずからにして「螢の光」の歌声が奏せられました。本来なら校歌がうたわれるところですが、遺憾ながらわれわれの時代にはそれがなかったのです。

お互にこれからの一年一年は、文字通り胸突八丁ともいうべきわしい坂です。三年後、五年後、十年後に、今日今夜相会った級友はみなそろって元気でいるだろうか。旧友交歓の喜びの思いの中に、「人生のたそがれ」の齢に立つもの一抹の哀感を覚えたのは、私ひとりだったでしょうか。

友よ、お互に自愛して、一日でも長く生きて、またまた相会う日がありますように。(四二・五・一八)

(稲垣芳雄 記)

各支部長にお願い
緑丘会各支部長はこの「緑丘」を御購読下さいませようお願いしますと共に緑丘会員にも購読をすすめてやって下さい。
緑丘会大阪支部長 石田平八



営業科目

- | | | | |
|---|--|--|---|
| <p>日立商品</p> <p>各種電機器具</p> <p>各種電機器具</p> <p>各種電機器具</p> <p>各種電機器具</p> | <p>日立汎用機</p> <p>各種搬送機</p> <p>各種搬送機</p> <p>各種搬送機</p> <p>各種搬送機</p> | <p>日立冷凍機</p> <p>各種冷凍機</p> <p>各種冷凍機</p> <p>各種冷凍機</p> <p>各種冷凍機</p> | <p>電気工事</p> <p>各種電気設備</p> <p>各種電気設備</p> <p>各種電気設備</p> <p>各種電気設備</p> |
|---|--|--|---|

日本電気機器株式会社

取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社 大阪市北区曾根崎新地2の50 TEL (361)8871~9
神戸出張所 神戸市兵庫区西上橋通り1の1 TEL (56) 5306



昭二会40周年会合

小樽天望閣で
四二年六月十日

六月十四日私達の心の故郷小樽赤岩の天望閣で、卒業四十周年会合を行った。是は昨夏熱海で催したいわゆる四十周年クラス会に全国より参加する者三十余名、余りの楽しみに小樽にて改めて会合し、地元多くの悪童とも会ひ、同時に新学長となつて苦勞しているに違いない実方君を一同で心から激励することに象徴一決したためである。

当日は偶々緑丘会総会が、母校で開催されるので、これが開会前学長室に参集。四十年振に会った友も数多かつた。

学長の案内で昔懐しいあの木造の教室を彼方此方ブラツキ廻つた。思出の雨天体操場兼ホールは今流行の「ランゲージ・ラボ」になつており階段教室の机上の名句名彫刻「マツキンヤ、ドント、ムーブとワイフに云ひ」一會話に弱い悪太郎のせめてものレジスタンスの跡形も発見できなかつた。が四十年前の落書、貼紙の跡を探して静かに右手を白壁に当て瞑目して感慨に耽つている友もあり其姿は「エルサレムの敷きの壁」を思い起こさせた。本館正面の芝生の校庭。よくエスケープして其樹下に横たわつた白樺も八重桜も今は跡形もない。

神田辺にある三文大学のようなコンクリート教室が建築中で、切角あつた美しい全国でも稀な「港の見える美しい丘の学園」の面影は跡形もない。馬鹿なことをしたものだ。アプレの所業と云ふにも余りに情けない。米のアーモスト、英のエディバラに例えられる床しい教育の殿堂が切角の無比の好立地条件を旨く利用

瀬の重なる早瀬にさしかれば船は大ゆれにゆれ、荒波の水しぶきを浴びて思はずひやりとする。かくて航程十三軒の豪快なスリルを満喫し、木曾の秘境の山水絶勝を心ゆくまで觀賞して、火山橋下に下船する。

一行は互に名残りを惜しみつつ、また来春の再会を約して解散、ここに大会の行事は滞りなく終つた。

(出席者)

茶谷豊彦、宮尾藤之助、伊部政次郎、井上保、佐藤庸夫、久保田敏三、谷弥太郎、田中修吾、広田力一、広野允幸、中尾晃、渡辺清、二馬吉郎、佐藤泰一郎、徳橋周吾、近藤勇、香川清夫、久保吉幸、岡本政治郎、古関周蔵、蓮田勉二、服部兵吾、松川一馬 以上二十三名

(ゴルフ) 久保田、谷、広野、古関、松川の諸氏

(註) 緑丘大正十三年卒四十周年以降開催地を全国的に拡げ、毎年集合のことにしている。「明日あり」と思ふ心のあだ桜……新顔の奮って出席を望むや切なり。

(服部記)

しないどころではない。其恵れた美しい自然の環境を全く破壊してついで。如何して伝統ある精神的豊かな真の教育ができるのだろう。嗚呼々々せめてもの慰めは萌る若葉の目に泌みる裏山から郭公の鳴声が伝つて来ることだった。

天望閣での会合は出席の三十名各自の「自己紹介」に始つた。父祖伝来の家業を守り更に是れを大発展させている友、幸運と健康に恵れて其

緑丘十三会

四十三周年記念全国大会



前列右より 渡辺、宮尾、岡本、田中、佐藤泰、香川、広野
後列右より 広田、久保田、古関、徳橋、伊部、谷、中尾、久保、近藤、蓮田、井上、佐藤庸、茶谷、二馬、松川、服部

昨春大津のホテル紅葉館に於ける全国級会の席上、次回は中京地区でという要望で引受けた。いろいろ困難はあつたが、われわれ数次に亘る協議の末次の通り決定し全会員に通知するの運びとなつた。

時 昭和四十二年四月七日(金)
正午新幹線名古屋駅コンコース壁面前集合

所 愛知県犬山遊園

名鉄犬山ホテル
和風別館白帝閣宴会一泊
翌四月八日午前中 日本ライオン下り乾杯して散会
尚ゴルフ同好者は解散後四月八日午後一時スタートにて犬山カントリーにてプレーする。

というもので、期待に略近き二十七名の出席回答を得たが、やむなき事情の不参者出で、結局当日二十三名の顔合せとなつた。

定刻をやや遅れ駅西口からマイクロバスにて名古屋城に向う。天気晴朗春酣、濃尾の沃野に聳え立つ天守の金鏡燦然たり、境内春を装う桜花爛漫、身心爽に快適である。城を背景に記念撮影し少憩の後、次の観光に向う。五穀豊穰の守護神、田県神社と大県神社に参拝する。ここは男女の性器を祀り神体とし、毎年三月十五日は天下の奇祭として広く世に知られる。次は博物館明治村の見学である。ここは明治時代の貴重な建物や風俗、資料を収集管理、当時のままに再現されている。恰も開村二周年記念とあつて、明治三文豪展ほか多彩の催物中、日本最古の市電がチンチンと文明開化の音をはずませて走つていた。

一行は再び車中の人となり、右に左に車窓から今花ざかりの桃畑のひろがり眺めつつ、午後五時名鉄犬山ホテルに着く。かくて七日午後の日程を終る。

一風呂浴びて夜に入り、宴会場は和風別館白帝閣の一階大広間、(ここは成瀬氏所有の日本最古の国宝犬山城の眼下にある)六時きっかり全員着席をまつて松川幹事から改めて歓迎とお礼の挨拶、経過と会員の動静報告をする。蓮田幹事立って次の大会を東北地区仙台開催の提案すれば、全員拍手賛成と見受けた。次で古関幹事の物故会員のため黙禱と、皆の健康を祝う乾杯の音頭により宴にうつる。名古屋から出張の名妓連、地元犬山の美形連のお酌に次第に酒杯を重ね、宴席は和やかな雰囲気につつまれ皆樂しそう、談笑に笑声は絶えない。やがて名妓連地元美形連の歌と踊りに始まり、会員のの祇園小唄の踊りか十八番の続々出するに及んで宴は正に最高潮に達し、飲を尽して会を閉じる。時に午後九時三十分。

明くれば八日、快晴、朝九時半旅館出発、マイクロバスにて中の島乗船センターに向う。ガイドさんの整列歓迎を受けて乗船、待望の日本ライオン下りをする。漂々として止まるところを知らず美しい木曾川の流れ兩岸にそそり立つ巨岩怪石に眼を見張る、蛙岩、カメ岩、ライオン岩、ラクダ岩、新赤壁などと名のつく奇岩絶壁のガイドさんの説明に耳を傾け一々うなずく。所々に急流あり、大湊ノ瀬、鷲ノ瀬、可児合ノ瀬、西保ノ瀬、観音ノ瀬などという。瀬と

才能を充分に發揮し現役として大企業をマネジしている友、一旦現役を退いても尚關係事業其他の重責を負つて奮闘している友、稀には大きな山荘に籠り好きな詩や絵を楽しみ悠々自適の生活をして居る友、学者教育家として重きを占めて居る友。これら各々が他の何人の氣持感情をも顧慮せず、誰にも不憚、又自己を卑下せず、卒直に近況を語り合ひ丁度「友の憂に我は泣き吾が喜びに友は舞ふ」と云う楽しい自己紹介であつた。

日頃年賀状一つも互ひに出さないでいて然かも四十年の長いインターバルを置いた級友のこれが態度であらうか。全く奇跡と呼ぶべきであらう。これは緑丘に学び、三年の契り、如何に力強かつたか、其友情の濃きの現れであろうか。よく飲みよく喰い実方君を中心に夜半まで語り続けた。語り明かした友もいるだらう。翌十一日朝食後名残りを惜みつつ再会を約して一同左右へと散つて行った。

最後に地元の諸兄にお願ひします。如何なる事情にや出席率悪く折角元氣なお姿に接することを楽しみに海を越えたのに、淋しいことでした。小樽では実方、木曾の二君のみ函館勢に到つては全員とは如何したことでしょうか。長い四十年間には色々のことがあつたでしょう。然し私達はもう皆んな還歴を越えて再び昔の小供になりました。緑丘再入学の年齢です。皆んなお手手つないで仲よくしましょう。実方君を頼みマッ

(黒羽記)

- (昭二会出席者) 四二、六、一〇
 (北海道) 金巻賢宇、木曾栄作、中島良治、西田尚生、坪谷浩一、実方正雄、小西征夫、牧野吉男、佐藤一郎、福原省吾
 (東北) 岩岡秀三、大沼金治、関根正一郎
 (関東) 加藤正善、茂垣英夫、早川和男、稲垣光男、中沢勝平、西村保、岡田政次郎、太田英治、陸田清、武内武一、手嶋恒二郎、鳥山泰雄
 (中部) 山崎一
 (関西) 石田平八、黒羽秀夫、近藤己芳
 以上二十九名

昭和十一年便り 名古屋・小樽から

★酒井誠君が今度石塚硝子佛の常務取締役として(富士銀行、池袋支店長) 五月来名、これで進藤君が大阪に転勤した後の在名昭一組が又元通り四名となりますので再会を楽しみにしています。(斎藤利一)

★過日雨の中、小樽商大第二十七回総会に出席同期生は小林啓作、本間誠一、藤田徹、根本、惣万、高橋宏造、小田島、高山の八名出席でした。帰途本間君宅に小林君と二人で行き手塚先生の供養の時の8ミリを見せてもらいました。(小田島一雄)

昭11年 同期会の記 (小樽)

四二年五月三日



五月三日は手塚教授の命日であり手塚教授の特集号とした「緑丘」を四月中に刷り上げ命日の五月三日、最上町の墓前に捧げ教授の冥福を祈りたいから、然るべく準備を頼む旨の速達便が墓目君から着いたのが、四月中旬、書中、本間誠一君とはかつてやってくれ、特集号を意義あらしめるか否やは、本間君と小生の責任であるとしてあり、「寝耳に水」とはこのことで全く驚いた。

早速本間君に電話をした所二十日過ぎてなければ帰樽しないとの事、そうしている中に市議會議員に立候補している小林啓作君の公示あり、十八日から二十八日まで小林君の為に同期生として事務所結末切りの演説会場で推薦演説したり、車に乗つたり、其後、再三本間君に電話するのだが、仲々多忙な彼と見えて合

三時墓前に集つた同期生は小林啓作、高山貞一、本間誠一、高橋宏之、札幌から国安猛、竹内守次、惣万四郎それに墓目英三と小生の九名墓前供養の後、小林啓作の提案で、会場のある花園学校通りまで公園を抜け徒歩で、日頃の運動不足を補ひ且つ札幌からの諸君に久し振りに小樽の郊外を味わってもらおうという事になった。約二キロ位の行程だらう。花園公園の忠魂碑のある丘にのぼり、一息入れ、会場に向つた。

その結果これを機会に同期会を開く事に意見の一致を見、五月三日午後三時最上町の手塚教授の墓前集合、五時頃から花園町の割烹畑中で懇親会を開く事にし、その連絡は小生が引き受けることにした。手塚教授墓前献本の記は本間君が之を記す。

札幌・緑丘ゴルフ親善大会



第二十七回総会に際し恒例のゴルフ大会が総会前日の六月九日、新緑の島松カントリーにおいて、東京を始め道内よりはせ参んじた緑丘健児?、三十二名により午前十一時より開始された。また今回は個人戦の他支部対抗戦もあり、個人戦には理事長杯、支部対抗戦にはトロフィーが六月十日、母校学生会館において佐々木理事長より授与された。

順位	氏名	卒業年次	成績			
			OUT	IN	GROSS	NET
1.	柳谷富次郎	昭9	55	44	99	71
2.	野沢 悌三	昭17	44	46	90	73
3.	今井 健一	昭13	44	47	91	74
4.	杉江雄太郎	昭24	41	43	84	75
5.	池田 昇一	昭4	51	47	98	77
6.	山田 恒夫	昭23	56	50	106	78

谷富次郎昭九、山田恒夫昭二三がネット、二二六で優勝した。佐々木理事長、武内武一氏(昭二)の東京勢は遠征のつかれのためか振わず等外となった。(世話人 昭20 瀬尾幸三郎)

サレた珍談あり、旧友の消息談あり墓目君の特集号の苦心談、小林君の選挙談等、益が廻る程に談話、活潑、何時果つとも分らぬ和氣萬々の雰囲気は四人のホステスのサービ

名古屋から進藤彰君を迎えて (大阪)

昭一一年・昭一二年集る

じ寮で飯を食った浅野潔君が幹事を買つて出て京阪電車天満橋近くレストランはなぶさに集つた。丁度昭和十二年は三〇周年記念を近く北海道で会合するとの事で打合せもありここで計らずも合同集會となった。

午後六時半いよいよ浅野君の進藤君を迎える開会の辞にはじまった。幹事の配慮で飲むことよりも食べる方に力点を置き次々出る料理に圧とうされた。一寸場所が広過ぎてお互の話が遠すぎたか、湧き方が不足であった。しかしお互が健在で活躍の様子を互の目で確かめ、息子の話が話題になるのも昭和一一年一二年の親爺にふさわしい会合であらう。

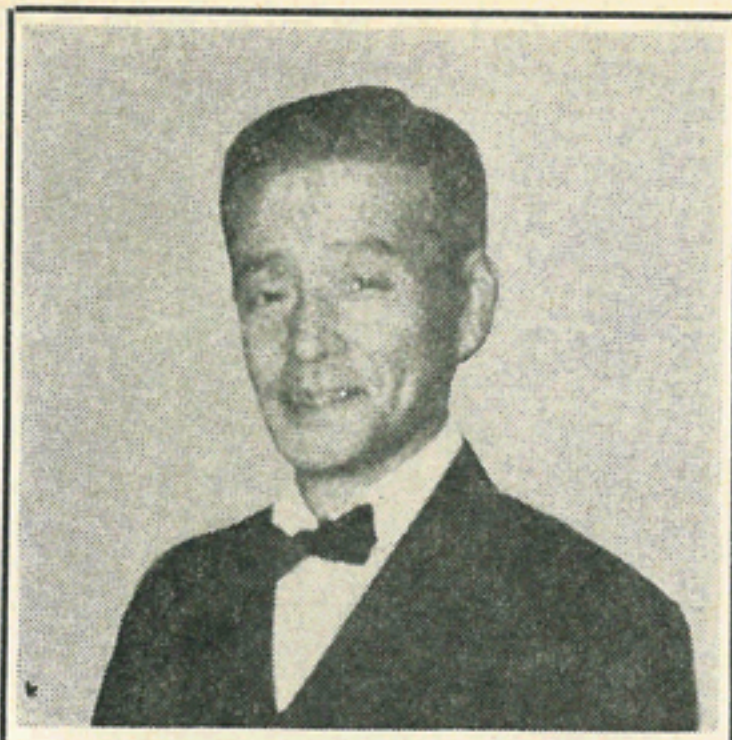
昭和一二年の三〇周年は小樽で開催されるが関西から四人は出席したいとの事又の機会にこれらのメンバーで集ろうということで解散した。

(出席者) 森尾、上野、村山、墓目、夙、三崎、藤川、進藤(昭一一、八名) 川村、内藤、林、森川、山村、岡田(昭一二、六名)



昭和十三年卒のページ

守野幸夫君 逝去さる



学友守野幸夫君は去る五月十日午前八時半岩見沢の病院で死去された。病名は、すい臓、肝臓胃のガンで、ことに肝臓は三倍大になっていたとのことである。

同君は北海中学より小樽高商へ無試験入学の秀才組、卒業と同時に鹿島建設に入社、戦後はお父さんの希望に従い、岩見沢市郊外、栗沢町宇上幌の実家の農業に従事、最近では同町農業共済組合の役員その他の公職にも就任されていた。

守野家は、戦前田畑山林約二百八十町歩を有する大地主で、戦後農地解放によりその一割を有する中農となったが、彼は之を受け継いで食糧増産と植林事業に精進されていた。商業経済関係者の多い同期生の間に於て、彼は異色の存在としてこれ

からの一層の活躍を期待されていたのに全く痛恨の極みである。

学生時代の同君は一年生の時は二寮に居り、性質温厚誠実且つ明朗で友情に厚く、多くの友人に親しまれていた。

葬儀は五月十一日上幌の自宅で行なわれ、同期生を代表して戸谷が弔辞を捧げ焼香した。

同君の戒名は「妙法深教院法幸日円信士」と号す。 合掌

哀悼 守野君

君が遺影笑みまいていませり春光に君が棺にメイフラワーを入れ飾る春の陽のぬくき石にて棺を閉ず君が虚空知の春の野を行けり (戸谷記)



昭和10年秋 二寮寮祭における 守野君一後列左端

【緑球会参加のすすめ】

昭和十三年同期生の有志で年数回懇親ゴルフ大会を催しておりその名を緑球会とし、去る五月十三日(土)第五回緑球会を千葉の姉ヶ崎カントリークラブに於て快晴に恵まれた一日の清遊を楽しみ事ができた。当日の参加者は大塚、福田、富永、三森、高野、青塚、金垣、関根、江川の九名だったが、松ヶ野、岡田、河井、皆川の四君の欠席は残念だった。

今回の成績は高野憲一郎君(丸嘉機械)がグロス一四七ハンディ四五ネット一〇二という六アンダーパーの抜群の成績で優勝された。二位江川裕一郎君(金商又一)、三位大塚誠四郎君(第一銀行本所支店)であった。試合終了後のパーティでは最近広島県に出張された高野君より広島県庁勤務の山本亀雄君及び木下弥次衛君(呉市内外運輸)の動静につき

報告があった。なお浜松在住の鈴木啓介君の過般の浜松大火に依る類焼被災につき報告あり早速御見舞する事を決めた。

扱てこの会の如く社用ゴルフを離れ水いらすず何のきかねもなく、学生時代の若さに帰り、コース一杯に笑をまき散らしながらプレイできるのは緑球会ならこそと思う。

在京同期生の中でゴルフをされる連中は沢山居る筈、未参加の同期生よ次回八月中旬開催予定につき万障繰合せ参加をお待ちしている。

なお緑球会の常任幹事を福田次助君(不二興産)に御願いしているがこの会を永続させる為に行けるだけ低廉にする考えであり同君の肝入りで姉ヶ崎カントリーの会員券利用している。若し姉ヶ崎カントリーへ入会希望者があれば有利な条件で斡旋願える筈故お伝えしておき度い、 (江川記)

技術革新に貢献する



丸嘉機械株式会社

大阪(本社)・東京・名古屋・岡山・広島・姫路・仙台

東京支部総会ひらく

新入会員二十五名出席 副支部長二名増員決定

六月二日午後六時
於 東京ステーションホテル

- 支部長 上村 甚四郎(大 四)
- 副支部長 小 貫 武(昭 二)
- “ 武 岡 嘉 一(昭 三)
- “ 八 木 勇 平(昭 八) 増員
- “ 野 口 正 二 郎(昭 一〇) 増員

東京支部総会は、六月二日午後六時から、東京ステーション・ホテルで、来賓、大野純一、加茂儀一の両前学長、浜林前教授および新入会員二十五名の歓迎をかねて、小貫武副支部長の司会のもとに開かれた。

上村甚四郎支部長の挨拶、武岡嘉一副支部長の事業ならびに会計報告を満場一致で承認、さらに、副支部長二名増員の件を可決して、昭和八年の八木勇平氏、昭和十年の野口正二郎氏を選任した。これは東京二千五百にのぼる会員の増加に対応するため、支部役員構成に新風をいれて、明治・大正から昭和への流動性をもたせるためのものである。

なお武岡支部長の報告中、総会の通知、発送二五〇〇余、返信三〇〇余、出席五〇は、なんとかして、返

事の回収二〇〇〇、出席三〇〇〇くらいにしたいもの、との言葉は、満場の同感をえた。各年度幹事の努力に期待したい。

佐々木理事長から支部の活動への感謝要望の後、ひきつづいて、宴をひらき、新入会員歓迎会にうつった。まず、在住五十年の小樽から、今般東京へ引きあげ転住された大野前学長、世界連邦協会の会議で今夏渡欧される加茂学長、つづいて、今春教育大学文学部助教授に転出された浜林正夫前教授の挨拶があり、新入会員代表の元気の良い、挨拶があつて、午後八時、総出席八十名万才三唱のうちに、賑やかに散会した。なお、食事中、マッキンノン先生招待の件進行状況につき、大谷会員より報告と要望とがあつた。

skin dew

朝と お休み前に
5分間だけさいてください
スキン・デューに含まれた
天然の成分コラーゲンが
あなたのお肌に
栄養としめり気を与え
1日中うるおいをたもちます



Paris・London・New York
Helena Rubinstein
ヘレナ・ルビンスタイン



大阪支部定期総会開かる

▲六月二〇日 今橋クラブにて▼

例年に劣らず、極めて盛大且充実した総会であった。また従来とかなり感じの違った会合でもあった。緑丘会は元来が、世間一般の儀礼的ないわゆる同窓会の常識的定型から見れば、些か型破りで、楽しい空気が光っているのが特色だと思ふ。当大阪支部は中でも特に出色だと自讃している次第である。

石田支部長が全国総会出席報告の中で、昨年の大阪で開かれた全国総会の好印象を語る声が非常に多かったと述べられた事が、之を裏書きして居るといえるようか。さらに懇親パーティーでの、諸先輩のスピーチの



中にも、同一の共感が期せずして、貫ぬいて流れていた。こうした、ケマインシヤフト的雰囲気の中で、実方学長の挨拶は、出席全員に、深い感銘を与えるものであった。いわゆる「学長という行政管理者という立場のゆえには、南大の発展は望みえない。学問一筋に生きて来た自分が敢て、学長を引受ける以上、他のすべての仕事は投げ棄て、何よりも学問の向上をはかる事に力を尽したい」と。先輩であり学長である先生の心境をお聞きし、その出馬に種々、無理をお願いした大阪支部として、考えねばならぬ事



が多いことに、いまさらながら気付き反省する。

同窓生として、学校は学校、同窓会は同窓会として切離して考える傾向が一般であったと思われる。そこでは、小樽は過去の映像としての学校にすぎない。また国立大学の運営に容喙する事を常識としてさけていく点もあるだろう。

しかし、少くとも小樽の伝統を、さらに燃え広げたいためには、学長の誠意と努力に万腔の声を送らねばならぬと痛感する。同時に在学の学生諸君に対し、大いなる自覚と、抱負を持って前進する事を期待する。

昭和四二年支部役員氏名

- 支部長 石田 平 八
 - 副支部長 滝 沢 中
 - 同 臺 目 英 三
 - 幹事長 若 山 永 太 郎
 - 副幹事長 山 内 孝
 - 同 桜 井 純 一
 - 相談役 宮地邦介(大一一) 大久保鹿式(大一二) 香川清夫(大一三) 天野雅司(大一一五)
 - 渡辺祥吉(昭二) 樋山三郎(昭三) 玉井英雄(昭四) 三浦儀三郎(昭五) 一ノ瀬茂(昭七) 田代耕二(昭八) 紀野重仁(昭九) 北村匡弘(昭一〇)
- 次いでパーティーに入る。パーティー会場には校歌のバックグラウンドミュージックが流れ、まず乾杯からはじまった。このパーティーで椎名元教授、大久保鹿式氏より実方学長激励のことが出る。
- 宮地邦介氏よりの提案あり「母校後援会募金残金の運営状態について

の報告が各支部に流れていない。この資金運用について実方学長に一任すべきでないか」と。

この件に関し石田支部長に一任する事を大阪支部の決議として拍手をもって承認した。

四二年卒新会員は次の通り
御厨敏雄(川鉄商事) 佐藤次宏(ダイキン工業) 桜井章、木田敏斌(松下電器) 本間信道(東洋建設) 橋本俊昭(大阪大学大学院)

以上の新入会員の紹介があり、宴は活況を呈して来た。最後に新入会員を中心にストームが繰りひろげられ老年組も交じって学園讃歌を唄い、乱舞する。万才三唱で四一年度定期総会の幕をとじた。

(出席者)

- (来賓) 実方学長、椎名元教授
- 大七 竹井虎男
- 大八 谷本朋次
- 大九 十二町恒次
- 大一一 四谷宗義、宮地邦介
- 大一二 田中弥三郎、大久保鹿式、喜多村久盛
- 大一一五 天野雅司、栗原軍司
- 昭二 石田平八、渡辺祥吉、黒羽秀夫、森美之助
- 昭三 江上芳雄、樋山三郎
- 昭四 玉井英雄
- 昭五 三浦儀三郎、堀池善弥
- 昭九 梅野弥太郎、紀野重仁、藤井幸男
- 昭一〇 北村匡弘
- 昭一一 臺目英三
- 昭一三 西谷作太郎、志摩角美、若山永太郎
- 昭一四 河西辰男

札幌支部総会

女性4名の会員も交え

ローヤルホテルで開く

昭和42年5月23日



去る五月二十三日夜、札幌はローヤルホテルに於て、昭和四十一年度定時総会および新入会員歓迎懇親会を、学長はじめ百五拾名(女性四名)の会員参加のもと、この一年間に不幸にして物故なされた故会員と苦米地先生の霊に黙禱を捧げて開会された。

議長の挨拶は富樫支部長が叙勲その他で多忙のため欠席、井本二郎氏が代ってなされた。恒例の会計報告満場一致で可決。支部役員改選、満場一致で再選、故加藤信吉氏(昭一七)の後任横井久氏(昭三二)が選出された。

本部報告では中島事務長が出席されて、マッキンノン先生来日の消息について説明、招待の件を承認、ついで全国会員分布状況報告があっ

た。総会員八、七五八名であるが消息不明者約一千名もあるという。聞き入る者啞然たるものあり。宴会場を三階に移して新入会員歓迎懇親会に入る。

井本氏が歓迎の辞を述べ、次いで実方学長から最近の母校事情を聞く、勉学に対する不熱心さは二百数十名の内講義に出席するもの僅か五、六十名に過ぎず。量より質への信念にもとづいて、この春カンニング学生に勇断をもってしたと学長の決意の程を披露された。

新入会員代表の挨拶(当日の新入会員二二名)その後乾杯で開宴。

会場はパーティー形式、料理の丸テーブルを十数名で囲む、テーブルの数にして十二テーブル、およそ百五六十名。

胸隔を開くに妙なり

札幌のビールは美味し乾きたる空気が美味し日の昏れもよし(宮田泰歌集より)

本場の味、最初のうまさを持続するサッポロビールと、昨年から北海道で醸造されているアサヒビールが卓上を飾り飲み放題。受けて立つサッポロ、ぶつかりゆくアサヒ、かつて同じ釜の飯を食った兄弟同士だがここにも現実のホロ苦さが、厳しさが感じられた。

宴半に、緑丘ゴルフ会の成績発表あり、優勝者遊佐憲三氏(昭七)一等実方学長。

盛宴の最中室谷先生が「緑丘名門論—商大は名門なりや否や—」の大演説を打つ、結論「名門なり」拍手が湧くその間「緑丘」手塚先生特集号を片手にふりかざしつつ同誌の紹

- 昭一五 松本義男、神谷彰一
- 昭一六 多次喜一郎、武智鉦、河上鎮男
- 昭一六後 山内孝、山本健一、清水撰三
- 昭一七 鈴木信亮
- 昭二二 桜井純一、佐々木繁雄
- 昭二八 安彦貞三
- 昭三二 金子秀夫
- 昭三三(短) 武田知之
- 昭三四 遠藤真吾、角响
- 昭三八 神崎榮輔
- 昭三九 那須国興
- 昭四〇 松岡〇、湯浅泰郎、仲野豊
- 昭四一 竹内晃、山崎敏一、上田康雄、宮内昭治

介もされた。浜林教授転出の話も出て胸を締めつけられる思いする。

酒杯重なる頃、新入会員は一列に肩を組み、身体を左右にゆきぶりながら歌を唄えば、木曾先生の音頭で「緑丘讃歌のデーゲン作詞の「ホエンナイケイム」を唄い、ついで三〇年代が応援歌を二つ、終りに「昭和十年代昭和二十年代集れ」の号令がかかる。今は早や「こっぴびみじん」のストームに入る。

女性を交えての進軍歌、応援歌。万才三唱、校歌合唱で八時半散会。会員多数の支部総会運行にもうひと工夫欲しいとの声も聞えた。

女性出席会員名
杉若 泰子(昭二六)
中野 醇子(昭三六)
杉山 暢子(昭三九)
中西美美子(昭四〇)

緑丘会神戸支部総会

六月二十一日 天京にて



神戸支部は京都・大阪両支部の総会のあとを受け、実方学長を中華料理店「天京」に迎えて支部総会を開催、神戸支部本間幹事長の開会の挨拶に続いて、学長から母校の近況を聞く。

学長問題が出た時、自分の研究に精進したいと思っていたが、卒業式も学長不在では出来ぬ状態にあったのでやむなく引受けた次第です。私が赴任の決意をもったのも過去三ヶ年、学生として勉強した土地でもあったからです。私も学長を引受けたからには学校の発展を願ひ、その覚悟で赴任したのでありますが行って見て学

内が非常にたるんでいることが見受けられました。学校は歴史もあり、このままではとうてい駄目だと判り、時代は異なっているが酷く教育を行う方針をたて、先づ試験を六ヶ敷した。これについては教授連から相当な反対も受けたが強行に実行に移している。学校を内容的にも立派にする覚悟で赴任した以上方々の公職を断り、学長が教鞭をとれない規定になっているのを文部省にたのんで許可を得、自分の研究科目について講義をしています。

マ先生の来日の事を聞いておりますが学校で講義をして貰う関係上、夏期休暇をばづして訪日するよう要請しています」と語られた。久々に集う神戸支部会員、今日は十六名の集りで、水垣、八家両副支部長も参加されて懇親会に入った。自己紹介がはじまったが、それぞれ学長の教育方針を支持する意見続出し、神戸支部として、学長教育方針賛成を決議する。

実方学長が就任されて、初めて緑丘会各支部を訪問され、当名古屋支部には六月十七日に御来名されました。支部では学長歓迎会と六月度十日会を兼ね東海銀行主税町クラブにおいて開催しました。愛知、三重、岐阜の緑丘人は、増田前支部長、高橋支部長を初めとして、総勢二十三名、来賓として、今春、愛知県立大学外国語学部へ転出された久納先生も御出席頂きました。温顔溢れる中

実方学長 来名歓迎会開催 —緑丘会名古屋支部—



- | | | | | | | | | |
|----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|
| 後列 | 岩井 (昭41) | 水越 (昭19) | 桑原 (昭30) | 北山 (昭25) | 宮脇 (昭17) | 佐藤 (昭36) | 矢部 (昭12) | 森俊男 (昭34) |
| 中段 | 弓田 (昭11) | 石川 (昭16) | 酒井 (昭11) | 新崎 (昭15) | 森本 (昭12) | 阿部 (昭30) | 鳥栖 (昭23) | |
| 前列 | 齊藤 (昭11) | 久納 (昭15) | 増田 (昭15) | 高橋 (昭4) | 吉田 (昭8) | 加藤 (昭36) | | |

にも極めてきびしい学長より、我々の心の故郷である母校の現況、並びに就任の経緯等について御報告がありました。

まず、私的な家庭事情を度外視して、三年間学んだ母校小樽商大のため、決然として、寒い北海道へおもむかれた心情に、同窓生一同胸の痛くなる思いをかみしめたのであります。学長の御話によりますと、母校商大は、

①まだ、専門学校的なる色彩が強

緑丘

緑丘会京都支部総会

六月十九日 京都産業会館にて



実方学長の西下された機会に、本年度、京都支部緑丘会を、都心の四条烏丸に新築成った京都産業会館五階、ツリーストグリルに於て開催した。一年振りの会合であり、準備おさおさ手をつけて、小田島幹事の早

くからの案内通知により、今回は隣接滋賀県下から北村、水谷の両氏、三井銀行京都支店長大島氏、日本新薬本社勤務になった高橋、曲淵の両君等五名の初顔を迎えて、総員二〇名の盛会であった。

定刻が近づくと、早くも来賓の小林象三先生が、カクシヤクいつ見ても変らぬ元気で、靴をかかえて姿を見せられ、続いて実方学長の笑顔が、次いで森下支部長と、陸続とロビーに集まる人々、何れも懐かしい笑いに包まれて、早や既に時ならぬ懇親の風景が醸し出される。別室に設けられた会場の大テーブルを囲んで、間もなく山村幹事長の司会により、

如何にも京都支部にふさわしいなごやかな緑丘会が始められた。森下支部長から学長来賓の歓迎と、会員諸氏の健在を祝する挨拶が述べられ、引き続き学長からは、当初の断難き諸々の障壁を乗り越えて、猶且つ我行かんとしたご着任の心境から今は唯母校への烈々たる愛着の一念に、ひたすら学究の徒として新しい商大の建設に、ひとすじに邁進するのみとの所信を改めて明らかにせられ、続いて学内の感慨を籠めて話中の人となる。

小林先生は例によって、新学長へ贈られたSANBKATA THE SIN-CERE(誠実)の称号を披露された。緑丘にとって又格別情の通ずる意味慎重な親愛の五つ目の言葉が生れたことは洵に嬉しいことである。大阪支部から今一人の賓客、墓目さんが馳せ参じたのは、北村老先輩の乾盃の音頭が切られ宴も正に酣のさ中、支部恒例の自己紹介がビールの合間を綴って、次々と爆笑をひき起している頃であった。直ちに同氏の発言となり、巧みな話術のうちにいつしかCMを織り込んだPR紹介に早変わり、席上頓に熱気を帯びることとなった。京都支部が緑丘誌の購読率極めて低いことは遺憾であるとの苦言には、さすがの支部長も一本取られ態、緑丘全国版編集の蔭の人、墓目夫人のご内助を心から讃える声が盛り上って一同の心を激しく打った

実はこのような緑丘同窓の気持はどの会合でもよく聞かれるのであるが、この際緑丘誌の今日ある所以の墓目ご夫妻永年のご労苦を何等かの形で顕彰したいことを改めて提唱します。最後に日本新薬の茶木君より、最近の台湾情勢について、既に十回に及ぶ訪台の体験によって、広い角度から調査された研究発表があり、一同に感銘を与へた。学長がメモをとっておられたのが極めて印象的でした。斯くて尽きぬ名残りを惜しみつゝ、一夕の集いもやがて定刻を過ぎる頃、今君のリードで一同校歌を斉唱し、再会を約しつゝ、散会した。

なお当日ご出席を予定せられた中野先生(大立一五立命館大学産業社会学部教授)が止むなき事情でご参加が得られなかったのが残念でした。(山村記)

出席者は次の通り
(来賓)
実方正雄(母校学長)
墓目英三(緑丘会大阪副支部長)(会員)
森下弘(大一一四 京都支部長) 桐田鉄郎(大一一四) 北村良吉(大一一四) 越智易延(昭七) 伊藤実(昭九) 大島三郎(昭一〇) 山村太兵衛(昭一二) 堤正五郎(昭一五) 中村平之助(昭一六) 水谷和夫(昭一八) 茶木博治(昭二五) 高橋正彦(昭二六) 小田島和夫(昭三) 一) 曲淵正(昭三二) 神田隆志(昭三六) 今俊明(昭三八) 古水祥進(昭三九)

く、単科大学の体系をなしていない事。

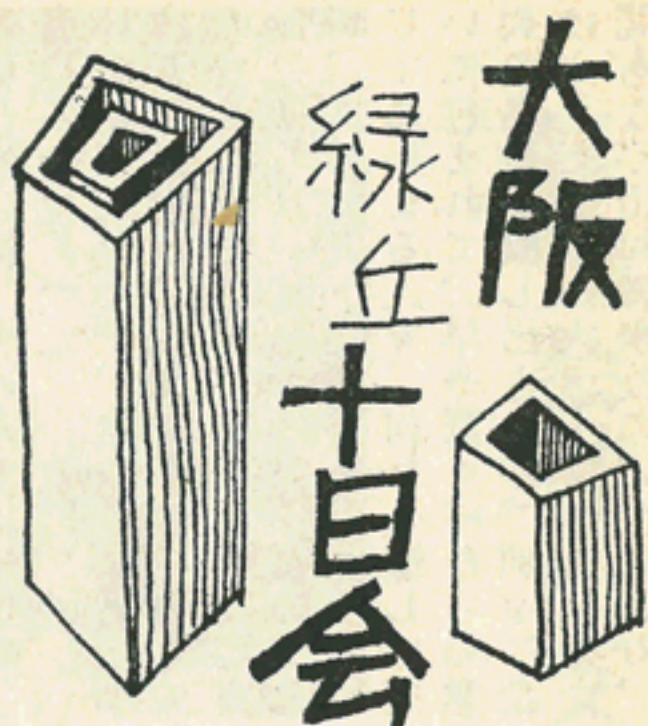
②教官に大巾な欠員があり、目下鋭意補強中である事。

③学生が権利意識が強く、階級闘争的である事

等をふくめ、大阪でいうノレンの食い潰しをする危険性等もあるときびしい指摘がありました。しかしながら、本年度入学者の成績はきわめてよく、地域的比率も、道内69%、道外31%であり、全国的スケールから俊才の応募者があり、名門の名に値する存在価値を示している。また、学長、自から、必修科目である商法の講座を担当し、卒業して、学問的なるきびしいトレーニングをしてい

る等の決意のひれきがあり、同窓生一同、深い信頼感の内に、会が進行しました。同窓生からは、各人各様、人生体験をおりませた軽妙なるテーブル、スピーチがあり、愉快に杯を重ね、進軍歌を大合唱し和気あいあいの内に散会しました。

思うに、明治、大正、昭和の三世代の歴史の中に、多くの同窓生の努力により、名門としての実績を挙げている母校は、今、多くの新制大学が直面していると同じようなきびしい現実を直面しているが、先に学んだ同窓生の協力の基に、今学んでいる学生を含め、後の世代の人が彼等の歴史的なる条件の中で、新しい実績を切り開いてくれるものとの確信を強くした次第であります。(昭三六 加藤一幸)

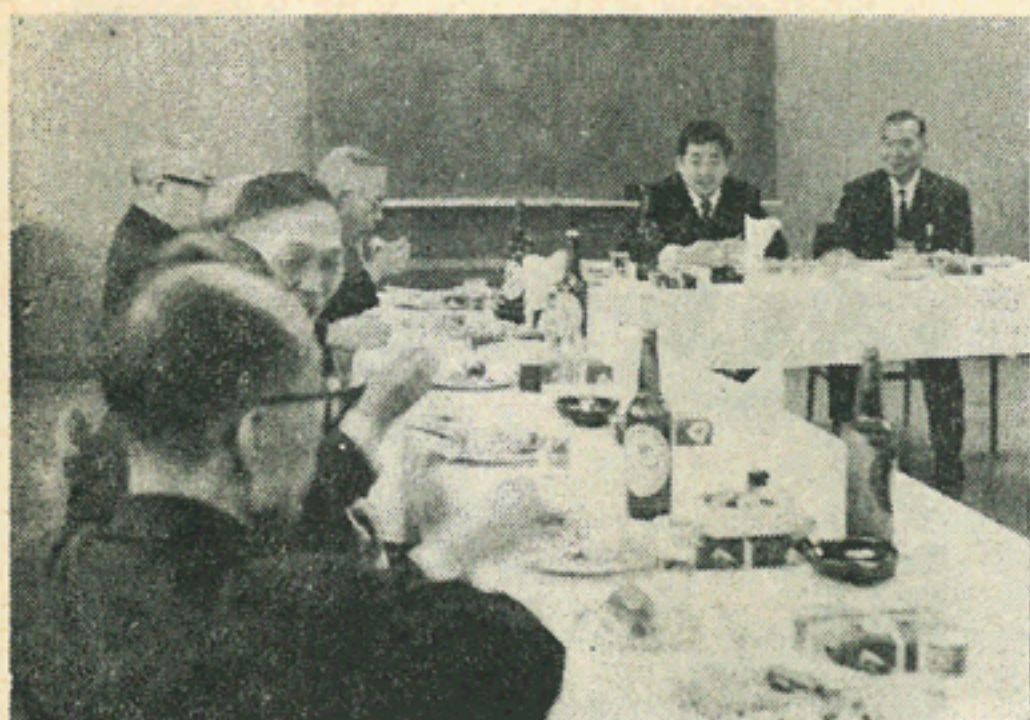


三月度例会

(第八二回)

スピーカー 武田知之氏 (昭三三短)

三月十五日昼、サッポロビール株式会社で武田知之氏(昭三三短)による「そば談義」についてのお話で



あった。そばの歴史、おいしいそばの食べ方、その作り方など興味のある話が約一時間にわたって語られた。彼武田君はナンパで浪花そばを経営しており、緑丘人中異色の存在である。

当日出席者に「そば寿し」なるものを一折宛試食のため提供され、彼のアイデアになるという「そば寿し」は風味よく、この珍品に皆舌鼓を打つ。

緑丘会大阪支部長石田平八氏が今回サッポロビール株式会社常務取締役就任された旨幹事長から紹介。拍手をもって心から御昇進をお祝した。

(出席者)

- 竹井虎男(大七) 宮地邦介(大一一) 喜多村久盛(大一一) 大塚武雄(大一一) 石田平八、渡辺祥吉(昭二) 江上芳雄(昭三) 三浦儀三郎(昭五) 藤井幸男(昭九) 藤目英三(昭一一) 若山永太郎(昭一三) 市橋宏一郎(昭一四) 角响(昭三四)

四月度例会

(第八三回)

スピーカー 張無為先生

今月の十日会は幹事長のはからいで竹中虎男氏(大七) 新就職された大東楼(北区堂島船大工町二八双葉ビル)で開催すること準備を整え、講師張無為先生(神戸商大講師)に「古典から見た古代経論者の考え方」と題する講演をお願いした。この張無為先生は中国人で大東楼中華料理店の経営者でもある。ニツ



五月度例会

(第八四回)

スピーカー 大久保鹿氏

今月の例会は椎名先生を迎え、先般、三期連続上位当選された尾ヶ崎市議会の重鎮、大久保鹿氏(大十二)をスピーカーにお願ひし、後進者の為にと、「選挙雑感」と題して有意義な選挙の実体をお話し頂いた。

最近とみに叫ばれている金のかからない選挙、清潔な選挙、これに對比する様々な実態、大小選挙の比較、市議選の実態、有権者の政治不感症等々、数字を巧みに駆使しての選挙裏話は、日頃我々の知る世界とは異り非常に興味深く、質疑応答、有権者の一人として反省すべき面も多く選挙に対する認識を新たにされた次第である。

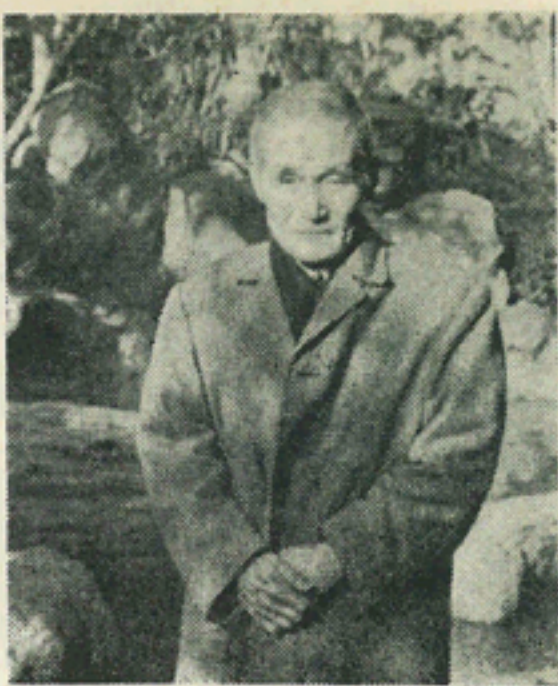
最後に紀野重仁氏(昭九)から、住金鋼管工事株式会社常務取締役として大阪勤務の御挨拶があった。副支部長の滝沢中氏(昭三)が五月末日をもって現職、住友銀行常務取締役を退き、安宅産業株式の専務取締役に就任される旨みんまに披露された。

(出席者)

- 椎名先生、宮地邦介(大一一) 大塚武雄(大一一) 石田平八、渡辺祥吉(昭二) 滝沢中(昭三) 紀野重仁(昭九) 若山永太郎(昭一三) 市橋宏一郎(昭一四) 山本健一(昭一六後) 田辺靖雄(昭三五)

故若松先生の葬儀に参列して

鳥取商業高校同窓会会葬



昭和四十二年五月二十四日午後三時五十分若松清太郎先生が鳥取市の自宅において、八十三才の真実一路とも、勤厳実直そのものともいふべき生涯を閉じられました。明治四十四年鳥取県立商業学校の開校に当り招かれて英語教師として教壇に立たれたのであります。先生は創立当時の質実剛健の校風を打立て、また体力づくりのスパルタ式鍛練をもつて、生徒と行動を共にし、校内マラソン等常に先頭に立って活躍され、現在も同校の行事として受継がれているのであります。

の指導をされ、北斗寮生には忘れ難い感謝と感激に溢れるものがあります。当時、鳥取商業の同窓会は強引な呼び戻し運動を起し、先生も教え子達の懇望もだし難く、再び鳥取高等校長として、郷党の指導に当たられたのであります。本日ここに、鳥取商高同窓会会葬として、先生の霊に哀悼の意を表し、あつく霊を慰められる盛大な葬儀が行われるのもむべある故と思われまふ。

藤井幸男

若松先生に私程お世話になった者は数少ないと思う。勉強は最低だったし、ストームは好きだし、寮雨はするしてホトホト先生を困らせた私である。殊に一年生の前期の試験が終ったところで、学生課から貰った注意票は、60点以下50点まで数課目、50点以下に二、三課目平均点は不足と言う有様であった。早速舎監であった若松先生が来られて、落第必至との御托宣を賜わったのである。後期の試験が始まると、毎日一度は私の部屋に顔を出されてしっかりやれ、最後まで努力してみようものだと励ましていただいた。その御蔭で木曾先生のコレポン一つを握って仮進級出来たのである。本人の私よりも遙かに心配しておられた先生である。いまにして思えば、先生は落第する私本人よりも、そんな子供を持

若松先生と私

三崎嘉郎

った親の気持の方をより深く考えておられたのだと思う。そのようなほとんどの人間らしい愛情を持っておられたのが若松先生である。在阪の昭和一〇年から一五年位までの一寮出身者の間で、忙しい先生のことだから多分駄目だろうが、一度大阪まで来ていただけないだろうかと尋ねた。ダメでもともとと当って砕けるだと言われた。先生は折って呉れて、思いがけなくこれが実現した。昭和二六年春休み、先生は米何升かの大荷物で来阪されたのである。私達一同正に欣喜雀躍、卒業以来十数年ぶりにお会いする先生を囲んで、ほんとに楽しい数日を過ごした。その時の写真がある筈だと随分探したが、とうとう見つけれなかった。その翌年の昭和二七年秋、私は人

教育者としての若松先生

平間 義

秋田中学から北斗寮へ入寮、父が小樽をみたいと言つてついでにきた。舎監に会つた。先生かねえ、と言つたのを覚えてゐる。一年の英語は若松先生だった。英語教授らしからぬ先生から中学で聞いたのとはちがつた、英語らしい音読を聞いて成程と思つた。

二年生でタイプ実習を選択した。

何かの都合で私一人が追試験を受けた。之は誤字だよ、この字が良く打たれてないぞ、と二回程打ち直しされた。試験点数とは関係なく、五分ほど英文手紙のありかたを教へてくれた。

△

私にとって若松先生は、先生としてよりは寮舎監として印象強くなつてゐる。二重廻しを着て雪下駄をはき、夜十時過ぎ懐中電燈を持って各部屋を静かにノックし、火の用心もかねて、見廻つてゐた。夜遅くなり、帰らぬ寮生がいて、薄暗い炊事場の傍で残火にあたり乍ら、しばしの時を過してゐる姿は、学生時代は何の気にもかゝらなかつたが、世に出て部下を持ち、子供を育てるようになって、初めて父母の交代りとしての先生の有難さを覚えたものだ。今の世の何でも金銭ではかりたがる世間とはちがつた教育者としての心情が思われてならない。

多分、冬だつたと思う。風邪をひかれて、暫く休まれた。夕食後、先生の官舎に見舞いに伺つた。五人の御息がおられたが、書籍



と家具で一杯な部屋、失礼ながら之高専教授の官舎かと、帰途何となくわびしくなつた。時折、奥様が小さな御子さんと寮に入浴にこられた。我々寮生のあとで、何となく遠慮深げであつた。

そうしたことどもは、スネかじりの我々学生にとっては別のこと、して気にはしてなかつた。しかし、当時の舎監という御仕事か、命ぜられたものか、自発的なものは判らないうが、教育者としての仕事のきびしさ、わびしさを思われてならなかつた。

▽

北斗寮は第一寮、第一だから他寮に負けるなど言われた。励ましてあつたらう。学校敷地内にあるために学生の溜りになることをきらわれた。そうした事を、声を大きくして言うのではなく、静かに、帯に手をはさみながら言つておられた。

先生の死去を聞いたのは五月下旬だつた。三月に宇尾五郎氏(昭八年卒)を訪れ、先生の消息を話していた矢先だつた。卒業後、東京のホテルで、一度お会いしたが、若かつた私は何の御馳走もできず、今にして先生に御恩返しのできなくなつたことが悔やまれてならない。

北斗寮がなくなくなり、そして先生が永眠され、母校への大きなキツナが亦一つなくなつた。先生の御家族の写真をお見せ願ふと思ひ、私のアルバムからはずしたので御手許へ届けていただきたい。

(昭一〇 日産化学工業株式会社取締役)

事部次長のお伴をして鳥取へ採用試験で赴いた。先生はわざわざ駅まで出迎えて下さり、その夜は先生のお宅で御馳走になつた。私のことなので遠慮もせずがぶと酒をのみ、御馳走を頂戴したのである。是非泊れとおすゝめいただいたのだが、そこは宮仕えお伴の悲しさ、そうもならず辞去したのだが、先生は暗い夜道を宿舎まで送つて下さつた。つい昨日のことのように想ひ出される。

このようなことを書いてみると、いくら書いても書き切れるものではない。このような私達一寮生にとつては親のような先生をなくして、ほんとは茫然自失である。淋しい限りである。

願つて我身を考えてみれば、自身自身がそろそろその順番が廻つて来る年頃である。殊に私は先生とは違つて酒のみである。到底先生のお年までは生きられそうにない。御生前御世話になりつ放しの私だが、事の隣りの席を空けておいていただくようお願いして筆を擱く。

(昭一一 三和銀行取締役)

△ 広告についておねがい▽

ますますよい「緑丘」を作るために広告の御協力を御願ひ申し上げます。

一回(一頁全段) 一、〇〇〇円
一回(半頁) 六、〇〇〇円
一回(1/4頁) 三、〇〇〇円
年間契約の場合は割引いたします。代金は掲載後で結構でございます。

故若松清太郎先生を偲び申して

昭・八 北斗寮土方村々民一同

風薫る五月——流石の東京も何んとなく爽やかな毎日が続く。そんなある日、宇尾五郎君から若松清太郎先生のご訃報が電話されてきた。追いかけるように、われらの総元締、小樽の鈴木三七君からも報らせが入つてきた。

丘

われら一同、襟を正して、ここに先生のご冥福を心からお祈り申しあげよう。

土方村——北斗寮にお世話になつた昭八組の別名、いや尊称である。誰れが付けたのか、何日頃か、お互に言ひだしたのか——五十を半ば過ぎた今となつては、定かに思ひ出せない。

昭和六年から八年——この三ヶ年。今となつてみれば、われわれ人生の青春時代の珠玉であつた。実に



期待をかけたながら、じつと若い者の三年間を温かく包んで下さつた御温情——ただ頭を下げて合掌するのみである。学業を終え、二人三人と土方村々民が、昭和八年の春三月、それぞれ故郷へ一まず帰つて行く……春とは言え凍つてついた地獄坂を振り返りながら去つて行く土方村寮生の中に、襟巻をグルグル巻きに

貴重な時代であつた。有り難いことである。堅く言えば、人間の形成があの三年間に、何んとはなしに作られたような気がする。

青春の思い出——小樽——北斗寮……そして舎監・若松先生……とこの一連のことが、誰れにでも自慢して話せるわれわれ青春の思い出の立派な、そして懐かしい舞合である。

少しやせ型ではあるが、金縁眼鏡をかけた温顔——が、小樽の思い出、北斗寮の朝夕の村民の学生々活に、必ず現われてくる御存在であつた。夜中の一時頃、青春の美酒に酔いながら地獄坂を帰つてこようが、徹夜麻雀をしていようが、余りにも毎日続く練の寮の暗に不平を言おうが……とに角、お叱りの一つも受けた記憶は今だにない。われわれ寮生を信じ、その将来に

期待をかけたながら、じつと若い者の三年間を温かく包んで下さつた御温情——ただ頭を下げて合掌するのみである。学業を終え、二人三人と土方村々民が、昭和八年の春三月、それぞれ故郷へ一まず帰つて行く……春とは言え凍つてついた地獄坂を振り返りながら去つて行く土方村寮生の中に、襟巻をグルグル巻きに

マ先生の受入委員会成る

五月二十三日、緑丘会支部で、東京支部小貫・武岡両支部長はじめ大谷、神田、北村、林、高橋その他集つて、八月末来朝決定のマツキンソン先生の東京の受け入れ委員会が、結成された。

この決定をもつて、大谷、神田両氏は、総会前日の六月九日午後、母校内緑丘会事務局で、小樽、札幌の支部代表と会合、翌十日、総会直前に改めて、杉江小樽支部長新谷氏、その他、札幌代表、池田、植田、上光氏その他と会合、各地の受入れ委員会を成立した。大阪、京都、神戸その他にも近く結成の模様。なお各地の滞在日数に応じて、鎌金在高を按分し、各地のプログラムは、各地世話役の立案に任せられる由。

表紙絵のこと

菅谷 重平



昨年、白内障の手術をして左眼の水晶体をとってしまったので、遠近感が無くなつて、絵を書くには不便になりましたが、水晶体の無い目で見た世界が面白いので、それを描くことにしています。この絵も普通の人の描いたものとは違つて積りです。普通の眼をもつた人には描けない絵の筈です。

某月某日

豪州の旅

大崎康市
(昭一九)

三月二十日

去る三月二十日バンコックからシンガポール經由カンタス航空機夜行便で一路豪州シドニー市へ直行した。六時頃夕食があり、周りの人々が九時頃就寝し始めたので私も寝酒でもと思いウイスキーかビールを注文すべく美人チウワデスと呼んだが残念乍ら「ノウウ」の回答でがっかりした。

何故ならば此処は既に豪州であり、こんな時間では酒は飲めない事がわかった。がっかりして枕を三つ位頼んで寝ようとしたが寝つかれぬまゝとうとう数時間たつたと思うと、頭上の電気がぱつぱつつき、熱いタオルを持って来たスチウワデスに起こされた。寝むい目で窓外を見て平線に太陽が昇るのが見え始め、飛行機は既に豪州の大地を飛んでおり、一時間後には南のシドニー飛行場到着という事がわかった。前日夕方シンガポール七時三分出発ノンストップで朝七時十五分無事飛行場に到着した。この間の時差は約二時間である。しかし何んと云っても驚いた事は時間の正確さである。時間表通り到着した事であった。税関も日本の場合及び東南アジア諸国の場合と異り誠に簡単でOK、日本もこうあり度いと思つた。

とゆつたりした生活を楽しんで居る事ははつきりわかる。何んと云つても、この広大な土地は米國本土よりやゝ小さい位の広さと思えば良いもので、わずかに人口は二〇〇〇万、仕事はあり、生活が安定して居り全く住み良い国と云へよう。誰に聞いても同じような事が返事として出て来る全く羨しい限りである。三〇〇坪位の土地に芝生に囲まれた瀟洒な二階建ての家に住む事が一般の家庭の現状にある由。勿論土曜日は休みで、この間に家族共々運動やらレクリエーションに過す事が彼等の生活である。

三月〇日



小樽の昭和二十六年卒の村田全弘氏にメルボルンで合ふ事が出来た。メルボルンの郊外に住み、豪州人の奥さんをもらい既に十年間も経過して市民権も得て、永住の気持も固い。二年に一度位は日本へも来る事が楽しみとして居る由、現在日綿に勤務中。長い間羊毛の仕事に従事して、ベテラン格である。豪州で活躍して居る緑丘人の一人である。

次にバブすなわちパブリックバーの事も話して見度い。これは英國に於ても勿論であるが、豪州のパブはやはり州に依つて夫々営業時間も異なるようである。即ちメルボルン市では五時から七時頃迄で大衆の仕事が五時に終れば、このパブに立寄り今日の仕事の事、或は雑談に花を咲かせて帰宅する。終了時間が守られないとポリスマンが飲んで居る人達を帰宅させるようにする等全く日本では考えられない事である。

シドニー市には極めて面白い一角、キングスクロスという場所がある。所謂盛り場で映画館、レストラン、ナイトクラブ、ホテルさまさまな商店やレストランも、米、英、仏、独、伊、日と何んでもあり、夫々特色を出しているのも面白い。勿論ストリップ劇場もある。まさかこの国でもと思われるが、これがホテルガイドブックに堂々と出て居る。例へば名前が PINK PUSSYCAT、PINK PANTHER CLUB とする名前も何んとなく御色気があって面白い。劇場の前には客引きが居り、入ると受付で一人当たり二弗(豪州幣)を払う。一ステージのシヨウから次のシヨウ迄の待時間が長く四、五十分掛るが誰も文句も云わず、のんびりとして居り、亦其の間コーヒー、コーラ、其の他ビールの注文に劇場側は

三月〇日

パブの内には大きなカウンターがあり中にバーテンダー或は場所によって大きな体をした小母ちゃんが居て客は其の都度ビールやウイスキー飲物の注文と同時に金を払い飲むわけで誠に殺風景なものである。つき出し其の他のものはない。唯飲む一点ばりの他なし。がやがやと隣同志の者と話合つて飲んで居ると云う事しかしこのパブにも種々階級があり、高級と低級なものがある。私が滞在したウエントオースホテルには一三のバブがあり、皆夫々異つた雰囲気を持って居た。女の子が飲んで居るバブは値段も高いし雰囲気もよらしい。始める場合は男性ばかり、処が価格的にもまあまあで無難と云へよう。

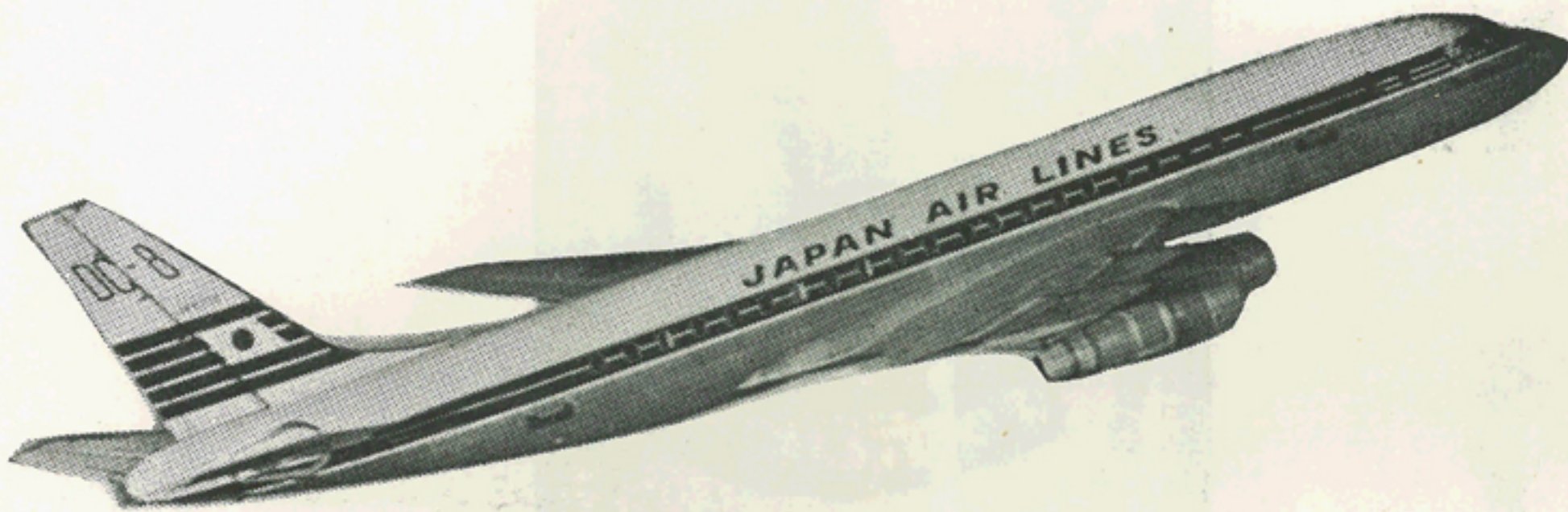
★暑中お伺い申し上げます。
★手塚寿郎先生特集号をお届けしますと直ちに沢山の読後感をお寄せいただきました。小樽の手塚先生のお墓まで祥月命日に特集号をお供え出来ましたこと、そしてお墓には学長はじめ、先生とゆかりの深い方々が参列下さつて共に墓前でありし日の先生をしのぶことの出来ましたことを深く感謝しております。

編集後記

★「手塚寿郎先生の追憶」として二〇〇部限定版を発刊すべく目下校正中でございます。装幀にも特に気を配り、豪華版二七〇頁を作り上げます。二〇〇部と申しましてもうすでに希望が一〇〇部を超えましたので御希望の方はすぐお申込下さい。一冊一冊に朱で番号が入ります。★マッキンノン先生がいよいよ来日することとなり、各支部でその歓迎準備をすすめております。今回の訪日を記念してかつて丘に登つた外人講師のエピソードなど、みなさんの思い出を一冊に纏めて見ようと思っております。執筆希望者はどうぞ編集部までお知らせ下さい。

★若松清太郎先生、大平頼母先生の赴報を手にし急拠原稿や写真をお願ひして報道しました。

世界のどこへでも お好きなときに!



ジャルパックで海外へ行こう!

チ ム 名	期間	旅費	出発時期
香港・マカオ・台北	7日間	179,000円	毎月
アンコールワットと東南アジア	12日間	268,000円	9・10月
ハワイ	7日間	299,800円	10月
アメリカ・カナダ・メキシコ	17日間	598,000円	8・9月
ヨーロッパ	18日間	569,000円	毎月
世界一周	19日間	719,750円	10月
ジャルパック	8日間	730,000円	8月

ジャルパックのお申込みは太平洋観光へどうぞ!

IATA (国際航空運送協会) 公認代理店

世界中の航空会社の代理店です。日航, 全日空, 国内航空はもちろんです

- JATA (国際旅行業者協会) 会員
- ASTA (米国旅行業者協会) 会員
- PATA (太平洋観光協会) 会員
- FIAV (国際旅行業者連盟) 会員
- 日本観光協会 会員

太平洋観光株式会社

本社 / 東京都千代田区丸の内2の18岸本ビル TEL(281)9664~5・4062~3
 銀座営業所 / 東京都中央区銀座西3の3 銀座ビル TEL(535)2874~5・4812
 札幌営業所 / 札幌市北二条西三丁目越山ビル TEL(24)7913・0181の70・71